

滋賀 植物防疫



写真提供:滋賀県

令和5年(2023)3月

一般社団法人 滋賀県植物防疫協会

目 次

水稻・麦・大豆の作柄、被害概要

柄・被害概要	1
2. 麦・大豆の作柄・被害概要	2
3. 農作物主要病害虫の発生状況	3

II 令和4年度 共同防除事業実績

1. 無人ヘリコプターによる防除事業実績	
(1) 全国の状況	16
(2) 滋賀県の実施状況	16
(3) 無人ヘリコプターの稼働状況	17
(4) 安全対策の周知徹底	18
(6) 全国、滋賀県の無人ヘリコプター実績表	19

III 令和4年度 地上防除事業実績

1. 地上防除事業実績	33
2. 水稻地上防除機の稼働状況	34
3. 水稻・麦・大豆共同防除事業	38
4. ドローン散布実績	40

IV 令和4年度 農薬展示ほ事業等

1. 展示ほ設置状況	44
2. 農薬展示ほ成績書目次	45
3. 農薬展示ほ殺菌殺虫剤成績書	46
4. 農薬展示ほ除草剤成績書	62
5. 新農薬委託試験状況	74
6. 滋賀県植物防疫協会の歩み	75
協会だより	77

* 昭和34年に機関紙「滋賀植物防疫」第1巻を発行し今年で第68巻を迎えましたが、諸般の事情で最終巻となりました。資料の提供、編集に参画いただいた方々に感謝を申し上げます。

なお、5年度からは各事業の成績書等を取りまとめた情報誌として発行していきます。

I 令和4年産 水稻作柄・被害概要

1. 作柄概要

- ・田植最盛期は、平年に比べ1日早い5月9日となった。
- ・穂数は、田植期以降5月中旬の日照不足や6月下旬の高温により分けつの切上が早まったこと等により湖南で「やや少ない」となったものの、湖北で「平年並み」となったことから、滋賀県で「平年並み」となった。
- ・1穂当たりもみ数は、幼穂形成期（6月下旬から7月下旬）の天候に恵まれたことから、穂数の減少による補償作用がみられた湖南は「やや多い」、湖北は「平年並み」となり、滋賀県では「やや多い」となった。
- ・全もみ数は、穂数及び1穂当たりもみ数の結果から、湖南、湖北ともに「平年並み」となり、滋賀県では「平年並み」となった。
- ・出穂最盛期は、6月中旬以降、気象が高温・多照に推移したことから、平年に比べ2日早い「7月29日」となった。
- ・登熟は、出穂期以降の8月中下旬が日照不足で経過したものの、7月下旬から8月上旬が高温・多照であったこと、9月以降の気温が平年を上回って経過したこと等から、湖南、湖北とも「平年並み」となり、滋賀県では「平年並み」となった。
- ・刈取最盛期は、平年より1日早い9月14日となった。
- ・近畿農政局滋賀拠点発表による県下の作況指数は10月25日現在、「101」の「平年並」。

令和4年産水稻の作付面積及び予想収穫量

近畿農政局滋賀拠点 10月25日現在

区 分		単位	県 計	湖 南	湖 北
令和4年産	作 付 面 積	ha	29,000	19,900	9,100
	10a当たり収量	kg	523	532	505
	予 想 収 穫 量	t	151,700	105,900	46,000
	作 況 指 数	—	101	101	101
前年対比	作 付 面 積	%	96.3	96.1	96.4
	10a当たり収量	%	100.8	101.0	100.6
	予 想 収 穫 量	%	97.1	97.1	97.1

(計と内訳が一致しないのは、ラウンドのためである。)

2. 被害概要

- ・ 気象被害については、8月4日から5日にかけての大雨及び9月の台風11号、14号の影響で県下全域で倒伏が発生した。なお、長浜市では8月5日朝、淀川水系高時川が氾濫し、土砂流入などの被害が発生した。
- ・ 病害については、7月上旬は曇りや雨が多かったことから葉いもちの発生ほ場率が、過去10年間で最も高く感染が拡大した。7月下旬以降は天候が回復したため、いもち病の被害は一部に限られた。
- ・ 虫害については、斑点米カメムシ類がやや多く発生したものの、適期防除、草刈り等が行われたことから被害は軽微であった。一昨年多く発生したトビロウソクによる被害はみられなかった。
- ・ 獣害については、県下全域の山間部において、イノシシ、シカ、サルによる踏倒し及び食害が発生した。

(資料提供；滋賀県農業共済組合)

令和4年産 麦作柄・被害概要

1. 作柄概要

(1) 播種期～発芽期（11月上旬～12月上旬）

10月中旬から11月中旬は降水量が少なく、ほ場準備や播種作業は順調に進み、出芽・苗立ちは良好であった。11月中旬までに播種したところでは、初期分けつは順調であった。

(2) 分けつ期～節間伸長期（12月上旬～3月下旬）

12月下旬から3月上旬の気温は平年より低く、断続的に降雪・積雪があり、全体的に生育は遅れた。特に、県北部の根雪となったところでは、生育の停滞がみられた。3月中旬から4月上旬の気温が高く推移したことで、生育は進んだが、茎数は少なく、草丈は低くなった。成熟期の穂数は、大麦、小麦とも平年より少なくなった。

(3) 出穂期～開花期（4月上旬～下旬）

出穂期は六条大麦（ファイバースノウ）で4月13日頃（平年より2日早い）、小麦は農林61号で4月14日頃（平年より1日早い）、ふくさやかで4月12日頃（平年より1日遅い）、びわほなみで4月12日（平年より6日遅い）となった。4月の気温が平年より高くなったことから出穂期から開花期までの日数は平年より短くなり、開花期はびわほなみで平年より1日遅く、その他の品種は平年より3～4日程度早まった。4月下旬、5月中旬に強い降雨があり、農林61号の一部で倒伏が見られた。

(4) 登熟期～収穫期（5月上旬～6月上旬）

5月の気温は平年よりやや低く、日照時間が多く、降水量が少なかったことから、登熟はゆっくりと進み、良好であった。成熟期は、六条大麦は5月26日頃（平年と同日）、小麦は農林61号で6月8日頃（平年より4日遅い）、ふくさやかで6月6日頃（平年より5日遅い）、びわほなみで6月2日頃（平年より4日遅い）となった。5月下旬から6月中旬は周期的に降雨があったが、降水量は平年より少なく、大麦、小麦とも収穫作業は概ね順調に行われた。梅雨入りは、平年より8日遅い6月14日となった。

2. 被害概要

土壤湿潤害：11月下旬の降雨並びにその後の降雪により、土壤が湿潤状態となり、根の生育が阻害され生育不良となった。

雪害：例年に比べ積雪期間が長かったため県北部の根雪となったところでは、麦体が消耗し根腐れが発生し生育不良となった。

病害：2月から3月にかけて、縞萎縮病による葉の黄化が散見された。一部で黒節病、5月の多雨により赤カビ病の発生も見られたが被害は軽微であった。

獣害：山間部の一部圃場で防護柵及びネットにより対策は講じていたが、出芽期からシカによる食害が発生し生育が不良となった。

鳥害：湖辺部や河川に近い圃場で野鳥（オオバン）による食害が発生し生育が不良となった。

令和4年産 大豆作柄・被害概要

1. 生育・作柄・被害概要

・本年は、台風の影響が少なく、周期的に適度な降雨があり生育は、おおむね良好であったことから、収量期は、平年よりやや早まり収量は平年並みからやや多くなった。

・病害虫の発生では、7月下旬及び8月中旬の気温が高く、吸実性カメムシ類の発生が多くなった。湿害被害やカメムシ類の被害を受けた一部のほ場では、青立ちの発生がみられた。

・獣害では、山間・山脚においてサル、イノシシ、シカによる食害が発生した。

（資料提供：NOSAI 滋賀）

令和4年度 農作物主要病害虫の発生状況

(資料提供：滋賀県病害虫防除所)

水 稲

水 稲 病 害 虫 発 生 概 況 一 覧

令和4年度			過去の発生量		
病害虫名	発生時期	発生量	3年度	2年度	元年度
葉いもち	やや遅	多	やや多	平年並	やや少
穂いもち	平年並	やや多	やや多	平年並	平年並
紋枯病	遅	平年並	平年並	平年並	平年並
白葉枯病	遅	やや少	少	少	やや少
ごま葉枯病	早	多	平年並	やや多	平年並
稲こうじ病	早	多	平年並	平年並	やや少
ニカメイガ（第1世代）	平年並	やや少	平年並	やや少	平年並
ニカメイガ（第2世代）	平年並	少	少	少	やや少
トビイロウンカ	早	平年並	少	多	多
セジロウンカ	やや遅	やや少	やや少	平年並	やや少
ヒメトビウンカ	平年並	平年並	やや少	やや少	やや少
コブノメイガ	遅	やや少	少	多	平年並
イネミズゾウムシ	遅	やや少	やや少	やや少	やや少
イネドロオイムシ	遅	やや多	やや多	平年並	平年並
斑点米カメムシ類	平年並	やや多	やや多	やや多	平年並
コバネイナゴ	平年並	平年並	平年並	やや少	平年並

葉いもち（発生量：多）

ほ場における初発の確認は、6月28日で発生時期はやや遅かった。7月上旬の調査では、発生ほ場率は18.3%とやや多かった。7月中旬の調査では、発生ほ場率が48.3%となり、過去10年間で最も高く、上位葉への進展も認められた。特に、7月の降水量が多く（平年比160%）感染が拡大した。感染好適日は、6月3半旬、7月1半旬、7月4半旬に確認された。

穂いもち（発生量：やや多）

伝染源となる葉いもちの発生量が多く、穂いもちの発生は県内全域で認められた。一方で、県内の主要な早生品種の出穂期前後である7月下旬～8月上旬の降水量は、やや少なく気温が高かったため、発生量は、やや多い程度となった。

紋枯病（発生量：平年並）

5月上旬の低温から初期の分けつが、やや遅れ、紋枯病の初発が遅くなった。また、初発後も茎

数は、やや少なく推移し、7月中旬までの発生量(水平伸展)は、やや少なかった。一方で、7月以降、気温は高く、降水量は多く、垂直伸展が急激に進行したため、収穫直前の発生量は平年並となった。

白葉枯病（発生量：やや少）

主要な早生品種では、影響を受ける台風の襲来がなかったことと、前年の発生量が少なく、残存する細菌密度も低かったことから、発生量は、やや少なくなった。

ごま葉枯病（発生量：多）

7月上中旬の降水量が多く、発生時期は平年より2週間以上早まった。また、早生品種の出穂期ごろから発生が認められたため、穂枯れにもつながった。

稲こうじ病（発生量：多）

前年の発生量は平年並であったが、7月上中旬の降水量は多く、日照時間は少なかったため、出穂前で感染適期のタイミングと重なったほ場では、感染が助長された。

ニカメイガ第1世代（発生量：やや少）

越冬世代成虫の温量による推定値である発ガ最盛期は、やや早かったが、予察灯での誘殺時期は平年並であった。ほ場での発生時期は平年並で、発生量は、やや少なかった。

ニカメイガ第2世代（発生量：少）

第1世代幼虫の発生時期は、やや早く、第1世代成虫の発ガ最盛期も7月第4半旬と、やや早かった。第1世代成虫の発生量が、やや少なかったことから、第2世代幼虫の発生も少なくなった。



稲茎内のニカメイガの幼虫



ニカメイガによる被害株

【対策】 幼虫が刈り株や稲わら中で越冬するので、早期の耕うんで刈り株や稲わらを埋没して、越冬幼虫密度の抑制を図る。さらに、発生が多かった地域では、田植時または6月上旬にニカメイガに効果のある粒剤を施用し、初期防除を徹底する。

トビロウカ（発生量：平年並）

予察灯への飛来時期が早く、また、例年とは異なる府県で飛来が確認されていたことから、本県でも警戒していたが、本県へは多数の飛来は無く、ほ場内増殖も起こらなかったと判断された。

セジロロウカ（発生量：やや少）

予察灯への初飛来は6月29日で、平年より、やや遅かった。ほ場での7月上中旬の発生量は平年並、8月中下旬では、やや少なかった。

ヒメトビウカ（発生量：平年並）

越冬量は、やや多く、予察灯への初飛来時期は、やや早かった。8月4半月の多雨により、ほ場内での増殖は抑制されたため、発生は、平年並になったと思われる。

- * 縞葉枯病** ヒメトビウカによって媒介されるウイルス病である。生育初期に感染した場合は、6月頃に本田で立枯れ症状を引き起こす。
対策としては、育苗箱施薬によるヒメトビウカの防除が重要となる。

ツマグロヨコバイ（発生量：平年並）

予察灯への初飛来は4月6日で、平年並であった。越冬世代の発生量は平年並、ほ場での7月上旬の発生量は平年並、8月中下旬では平年並であった。

コブノメイガ（発生量：やや少）

ほ場での初発確認は8月10日で、発生時期は遅く、発生は一部地域に限られた。

イネミズゾウムシ（発生量：やや少）

本田への飛び込み時期は遅かった。5月下旬の食害程度は、やや少なかったが、ほ場間差が大きかった。

イネドロオイムシ（発生量：やや多）

ほ場での初発確認は6月14日で、発生時期は遅かった。6月下旬の食害程度は、やや多く、中山間地域など、一部で多発生ほ場も見られた。

斑点米カメムシ類（発生量：やや多）

越冬世代の発生時期は平年並であった。6月下旬の畦畔のすくい取り調査では、発生量は多く、7月に入り、一部地域ではクモヘリカメムシなど大型カメムシが多くなった。7月下旬から8月上旬にかけて出穂期防除が実施されたが、本田での発生量は、大型のホソハリカメムシ、クモヘリカメムシおよびトゲシラホシカメムシに加え、小型のカスミカメムシ類の発生量も多くなり、全体の発生量は、やや多となった。

コバネイナゴ（発生量：平年並）

ほ場での初発確認は5月17日で、発生時期は平年並であった。ほ場での発生量は平年並であった。

麦

赤かび病 小麦（発生量：多）

前年の発生量は多く、伝染源が多かったと考えられる。また、コムギの開花期前後である4月下旬の降水量、降水日数ともに多かったため、感染は多かったと考えられる。一方で、5月の降水量は少なく、二次伝染やかび毒の蓄積は少ないと考えられる。また、新導入品種の赤かび病抵抗性が弱く、全体の発生量が多くなった。

赤かび病 大麦（発生量：やや多）

オオムギの開花期前後である4月下旬の降水量、降水日数ともに多かったため、感染は多かったと考えられる。一方で、5月の降水量は少なく、二次伝染やかび毒の蓄積は少ないと考えられる。

黒節病 小麦（発生量：少）

ほ場での初発確認は3月15日で、発生時期は平年並であった。発生ほ場率（12.7%）は過去10年で最も少なかった。

黒節病 大麦（発生量：やや少）

ほ場での初発確認は4月12日で、発生時期は遅く、発生量は、やや少なかった。

大豆

葉焼病（発生量：平年並）

9月後半まで影響を受ける台風の影響がなかったが、7月の降水量は多かったため、少発生ほ場が全域で確認された。

タバコガ類（発生量：やや少）

ほ場でのタバコガ類の初発確認は7月13日で、発生時期は早く、発生量は、やや少なかった。

ハスモンヨトウ（発生量：平年並）

今年は7月下旬にフェロモントラップへの飛来数が、やや多くなり、ほ場での発生も例年（8月中旬以降にはほ場で発生量が増加）より多くなるかと思われたが、そうした傾向は見られなかった。今年のほ場での発生量は平年並であった。

フタスジヒメハムシ（発生量：少）

ほ場での初発確認は6月28日で、発生時期は平年並であった。一部多発生・中発生ほ場も確認されたが、全体の発生量は少なかった。

吸実性カメムシ類（発生量：多）

ほ場での初発確認は7月26日で、発生時期は早く、発生量は多かった。特に9月の調査では、県中南部を中心に多数のミナミアオカメムシが確認され、一部地域では、甚発生・多発生ほ場も見られた。

ハダニ類（発生量：やや少）

8月中旬の降雨や台風により増殖が抑制され、発生量はやや少なかった。

各関係機関の長様
各病害虫防除推進員様

滋賀県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報第1号の送付について

このことについて、下記のとおり発表したので送付します。

◇
麦類赤かび病多発のおそれ

令和4年度 病害虫発生予察注意報第1号

令和4年(2022年)4月26日
滋賀県

対象作物：麦類
病害虫名：赤かび病

1. 発生地域：県内全域
2. 発生時期：5月上旬以降
3. 発生量：やや多
4. 注意報発表の根拠
 - (1) 向こう1か月の気象予報(大阪管区気象台4月21日発表)では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ない見込みで、赤かび病菌の孢子飛散および感染に好適な条件となる可能性が高い。
 - (2) 小麦と六条大麦では、開花期から10日間程度の間にも最も赤かび病に感染しやすく、この時期に降雨が続き、気温が高くと多発しやすい。
 - (3) は種時期や地域により差異はあるが、4月下旬以降、県内全域で小麦と六条大麦の開花が始まっている。
5. 防除対策
 - (1) 小麦(「びわほなみ」を除く)は、開花始め～開花期に農薬を散布する。
 - (2) 小麦(「びわほなみ」)および六条大麦は、赤かび病に弱いことから、開花始め～開花期とその7～10日後頃に農薬を合計2回散布する。
 - (3) 薬剤散布後に気温が高く、曇雨天が続く場合は、防除効果を高めるため、直前の散布の7～10日後頃に追加防除を行う。特に、「びわほなみ」は3回目の防除を検討する。
 - (4) 薬剤は県農作物病害虫雑草防除基準を参照のこと。薬剤の散布にあたっては、ラベルを確認し、農薬使用基準(使用時期・使用回数等)を遵守する。

お問い合わせ先：滋賀県病害虫防除所
TEL:0748-46-4926 FAX:0748-46-5559
Email:gc70@pref.shiga.lg.jp
<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo>

滋病防第61号
令和4年(2022年)7月4日

各関係機関の長様
病虫害防除推進員様

滋賀県病虫害防除所長

病虫害発生予察注意報第2号の送付について

このことについて、下記のとおり発表したので送付します。

◇
果樹カメムシ類による被害多発のおそれ

令和4年度病虫害発生予察注意報第2号

令和4年(2022年)7月4日
滋賀県

1. 病虫害名：果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
2. 対象作物：果樹（カキ、ナシ、ブドウ等）
3. 発生地域：県内全域
4. 発生程度：多
5. 注意報発表の根拠
 - (1) 果樹カメムシ類のフェロモントラップにおける累積誘殺数は6月第5半旬に急増し、6月末時点の累積誘殺数は平年の約1.9倍となった。また、6月第6半旬の誘殺数も平年の約3.9倍となっており、過去10年間で最も多い(図)。
 - (2) 既に果樹園でカメムシ類による被害果の発生が確認されている。
 - (3) 大阪管区気象台の発表では、向こう1か月の気温は高いと予想されており、果樹カメムシ類の活動がさらに活発になり、果樹園への飛来が増加するため、被害の発生が懸念される。
6. 防除対策
 - (1) 気温が高く、風の弱い夜に飛来する習性がある。園内で発生を確認したら早朝か夕方に防除を行うが、必要以上の薬剤散布は、天敵を減少させ、ハダニ類やカイガラムシ類の増加につながるので注意する。
 - (2) 防虫ネット(6mm以下)を備える果樹園では、ネットの裾をペグや土のう等で固定するとともに、ネットの破損がないか点検する。
 - (3) 局地的に飛来し、集中的に加害する傾向があるため、各園地で見回りを行う。
 - (4) 山林隣接園や過去に被害を受けた園では特に注意する。



写真 チャバネアオカメムシ（左）とフェロモントラップでの誘殺状況（右）

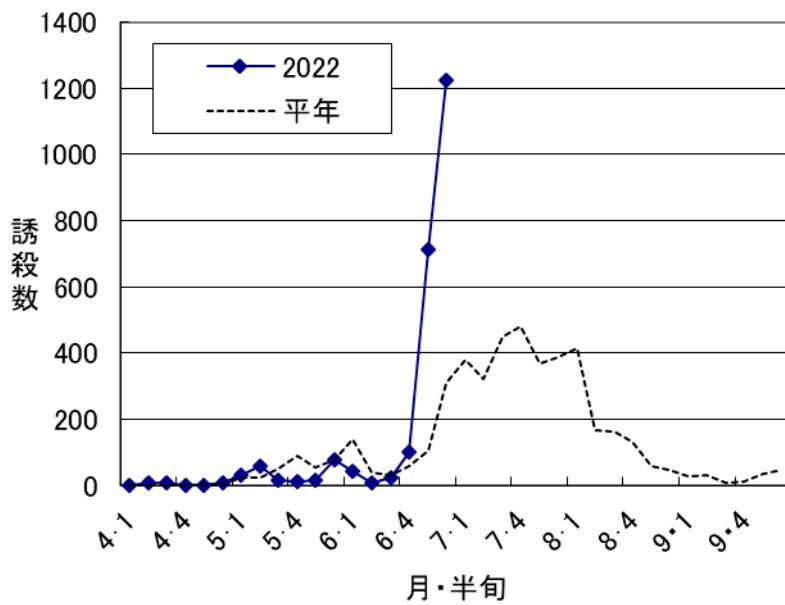


図 果樹カメムシ類のフェロモントラップでの誘殺数の推移（栗東市荒張）

お問い合わせ先：
 滋賀県農業技術振興センター
 花・果樹研究部
 TEL:077-558-0221 FAX:077-558-3670
 Email:GC58@pref.shiga.lg.jp

各関係機関の長様
各病害虫防除推進員様

滋賀県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報第3号の送付について

このことについて、下記のとおり発表したので送付します。

◇
穂いもちの防除は確実に！

令和4年度 病害虫発生予察注意報第3号

令和4年(2022年)7月19日
滋 賀 県

病害虫名：イネいもち病（穂いもち）

1. 発生地域：県内全域
2. 発生時期：穂いもち 7月下旬以降
3. 発生量：多
4. 注意報発表の根拠

- (1) 7月13～14日に行った調査において、県内36地点180ほ場での葉いもちの発生ほ場率は48.3%（平年20.8%）、発病度は2.4（平年1.0）と、ともに過去10年で最も高かった。また、穂いもちの伝染源となりやすい上位葉への進展も認められる。
- (2) 葉いもちに感染しやすい気象条件が生じたかを推定するイネいもち病発生予測システム（BLASTAM）によると、6月中旬以降、いもち病の感染好適日または準感染好適日が県内各地で断続的に出現していた（表）。
- (3) 向こう1か月の気象予報（大阪管区気象台7月14日発表）では、気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ない見込みで、いもち病の発生に好適な条件となる可能性が高い。

5. 防除対策

- (1) ほ場の状況（水稻の生育や葉いもちの発生状況）をよく確認し、適期に防除する。
 - ・粉剤、液剤（水和剤・乳剤等）は穂ばらみ期～出穂期に散布する。
 - ・穂いもちの発生が多い時は、さらに穂揃期～乳熟期にも防除する。
 - ・粒剤は種類により施用時期が異なるため、ラベルをよく読んで適期に散布する。
- (2) 薬剤耐性菌の発生を防止するため、同一グループ薬剤を連用しない。
- (3) 薬剤は県農作物病害虫雑草防除基準を参照のこと。なお、薬剤の散布にあたっては、ラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

6. その他

- (1) 薬剤を散布する時は、周囲に飛散しないよう注意する。
- (2) 粒剤を施用する場合、湛水状態にし、散布後1週間は、落水やかかけ流しをしない。

令和4年(2022年) BLASTAM 結果

		今津	長浜	米原	南小松	彦根	東近江	大津	信楽	土山
6月10日	金	○1	-	-	-	-	-	-	-	-
6月11日	土	○1	-	-	-	-	-	-	-	-
6月12日	日	-	-	○1	○1	●	●	●	○1	○1
6月13日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月14日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月15日	水	●	-	-	●	●	●	-	-	-
6月16日	木	-	-	-	-	-	○4	●	-	-
6月17日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月18日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月19日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月20日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月21日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月22日	水	-	●	-	-	-	-	-	-	-
6月23日	木	-	-	-	-	-	-	●	-	-
6月24日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月25日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月26日	日	-	-	●	-	-	-	●	●	-
6月27日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月28日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月29日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月30日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月1日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月2日	土	?	?	-	?	-	?	-	?	?
7月3日	日	?	-	-	?	-	-	-	?	?
7月4日	月	?	○2	○2	○3	○3	○2	○2	●	○2
7月5日	火	-	○2	-	-	-	-	-	-	-
7月6日	水	○2	-	-	-	-	-	-	●	○2
7月7日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月8日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月9日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月10日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	○2
7月11日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月12日	火	-	-	○2	-	-	-	-	-	-
7月13日	水	○2	○2	-	-	-	-	-	-	-
7月14日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月15日	金	-	-	-	-	-	-	○2	●	-
7月16日	土	-	○2	●	-	-	-	-	●	●
7月17日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月18日	月	-	-	-	○2	-	-	-	-	-

[JPP-NET版BLASTAMの判定結果の指標]

●: 好適条件(湿潤時間中の平均気温が15~25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20~25℃の範囲にある。)

○1: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満)

○2: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上)

○3: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15℃~25℃以外)

○4: 準好適条件(湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)

?: 判定不能

BLASTAMとは、気象庁のアメダスデータを用いてイネの葉面湿潤時間を算出し、葉もちに感染しやすい気象条件が生じたかを推定するモデル。

お問い合わせ先：滋賀県病害虫防除所
 TEL:0748-46-4926 FAX:0748-46-5559
 Email:GC70@pref.shiga.lg.jp
<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo>

各関係機関の長様
各病害虫防除推進員様

滋賀県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報第4号の送付について

このことについて、下記のとおり発表したので送付します。

◆
斑点米カメムシ類による被害多発のおそれ

令和4年度 病害虫発生予察注意報第4号

令和4年(2022年)7月21日
滋 賀 県

対象作物：水稲
病害虫名：斑点米カメムシ類

1. 発生地域：県内全域
2. 発生時期：7月下旬以降（加害時期）
3. 発生量：多
4. 注意報発表の根拠
 - (1) 7月6～8日に県内36地点での畦畔で実施した斑点米カメムシ類のすくい取り調査において、県内主要5種（写真）の平均生息数は88.3頭であり、平年（46.2頭）の約2倍と多く（図）、過去10年間で最も多い。特に、小型種のアカスジカスミカメの平均生息数は56.3頭（平年：34.0頭）、アカヒゲホソミドリカスミカメは19.4頭（平年：5.2頭）、大型種のクモヘリカメムシは6.4頭（平年：2.4頭）と多い。
 - (2) アカスジカスミカメとアカヒゲホソミドリカスミカメの発生は県内全域で多く、クモヘリカメムシの発生は山間地域を中心に局所的に多い。今後、水稲が出穂すると畦畔や雑草地の斑点米カメムシ類が水田内に侵入し、加害することが懸念される。
 - (3) 大阪管区気象台発表の1か月予報（7月14日付）では気温が高いと予想されており、斑点米カメムシ類の発生や活動に好適である。
5. 防除対策
 - (1) 水田内にヒエなどのイネ科雑草が繁茂していると、斑点米カメムシ類が集まるので、早急に除草する。
 - (2) 雑草管理が不十分でイネ科雑草の出穂が多く認められる畦畔・雑草地の除草は、斑点米カメムシ類を水田内に追い込むこととなり、被害が拡大する恐れがある。やむなく除草を行う場合は、本田への薬剤防除前日に実施する。
 - (3) ほ場周辺の畦畔や雑草地に小型種（アカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメ）が多く発生しているほ場では、乳熟期頃（出穂7～10日後）に防除する。大型種（ホソハリカメムシやクモヘリカメムシ等）が多く発生しているほ場では、糊熟期頃（出穂16日後を中心に）出穂10～20日後）に防除する。
 - (4) 粒剤を施用する場合、田面を露出させない程度に湛水状態とする。
 - (5) 農薬散布後も水田内に斑点米カメムシ類の発生が多い場合は、追加防除を行う。

(6) 薬剤は県農作物病虫害雑草防除基準を参照のこと。薬剤の散布にあたっては、ラベルを確認し、農薬使用基準（使用時期・使用回数等）を遵守する。

写真 斑点米カメムシ類主要5種と斑点米

大型種



ホソハリカメムシ



クモヘリカメムシ



トゲシラホシカメムシ

小型種



アカスジカスミカメ



アカヒゲホソミドリ
カスミカメ



斑点米（着色しているもの）

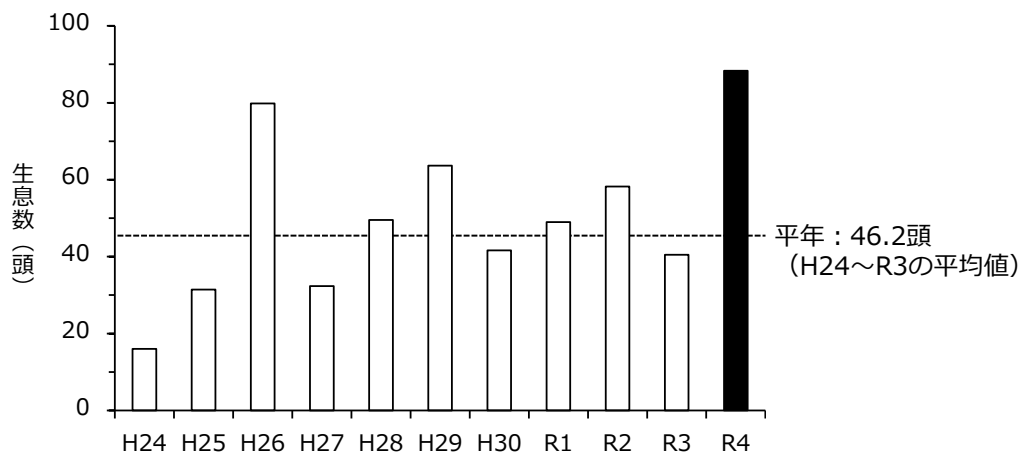


図 畦畔における斑点米カメムシ類主要5種の平均生息数
(50回すくい取り虫数の年次推移)

お問い合わせ先：滋賀県病虫害防除所
 TEL:0748-46-4926 FAX:0748-46-5559
 Email:gc70@pref.shiga.lg.jp
 http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo

各関係機関の長様
各病害虫防除推進員様

滋賀県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報(特殊報第1号)について

このことについて、以下のとおり発表したので送付します。

令和4年度 病害虫発生予察特殊報第1号

令和4年(2022年)10月11日
滋賀県

1. 病害虫名 クロテンコナカイガラムシ *Phenacoccus solenopsis* Tinsley
2. 対象作物 トマト、ナス、ピーマン
3. 発生地域 近江八幡市
4. 発生経過
 - (1) 令和4年8月に近江八幡市内の露地栽培のトマトにおいて、コナカイガラムシ類の寄生が認められた。その後、同ほ場内のナス、ピーマンにおいても同様の寄生が認められた。滋賀県病害虫防除所において同定した結果、本県では未発生のクロテンコナカイガラムシであることが確認された。なお、県内では現在、同ほ場以外で本種の発生は認められていない。
 - (2) 本種は、平成21年に沖縄県において国内で初めて発生が確認された後、佐賀県、福岡県、愛知県、山口県、高知県、鹿児島県、大阪府、奈良県、長崎県、京都府、愛媛県、岡山県および兵庫県で発生が確認されており、本県での発生は15府県目となる。
5. 形態および生態
 - (1) 雌成虫には翅が無く、体は楕円形である。体長は通常3~4.2mm程度で、大きい個体は5mmを超える。雌成虫は白色でワタ状のロウ質物を背面に分泌するため、全体が白く見えるが、背面の一部にロウ質物が薄い部分があり、2対の黒斑があるように見える(写真1)。雄成虫は1対の翅をもつ。

本種の繁殖様式は、交尾後の雌が産卵する有性生殖と、雌成虫が交尾せずに産卵する単為生殖の2パターンが存在する。雌成虫は、ロウ質物の卵のう内に平均350個程度産卵する。単為生殖の場合、1世代の発育期間は平均70日程度である。
 - (2) 本種は中南米原産であるが、北米、アジア、ヨーロッパ、オーストラリアおよび西アフリカなどの世界各地で発生が確認されている。
 - (3) 広食性であり、53科154種の植物に寄生することが知られており、国内では、トマト、ナス、オクラ、ピーマン、ハウレンソウ、花きなどで発生が確認されている。植物の葉(写真2)、葉柄、茎、花芽および果実(写真3)に寄生し、吸汁により寄主植物を衰弱させる。加えて、分泌した甘露(糖分を多く含んだ排泄物)が果実の汚れや「すす症状」発生の要因となる。

6. 防除対策

- (1) 発生を確認したほ場では、被害の拡大を防ぐため、寄生部位を早期に除去する。除去した部位は、ほ場外に持ち出し土中に埋めるか、袋に密閉した上で処分するなど、適切に処理する。
- (2) 本種はキク科やスベリヒユ科雑草などにも生息するため、ほ場内および周辺の雑草の除草を徹底する。
- (3) 薬剤による防除を行う場合、発生を確認後、早期に散布を実施する。なお、令和4年10月11日現在、ナスおよびピーマンではコナカイガラムシ類に対する登録農薬があるが、トマトでは登録のある農薬はないため、トマトで発生を確認した場合は寄生部位を除去し、適切に処理する。



写真1 雌成虫（体長3～4.2 mm程度）



写真2 ナスの葉裏に寄生する成虫と幼虫



写真3 ナスの果実に寄生する成虫

滋賀県病害虫防除所

<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>

滋賀県近江八幡市安土町大中516

TEL:0748-46-4926・6160

FAX:0748-46-5559

Email:GC70@pref.shiga.lg.jp

Ⅱ 令和4年度 共同防除事業実績

1. 無人ヘリコプターによる防除事業

(1) 全国の状況（令和3年度 農林水産省発表）

産業用無人ヘリコプターによる防除は、地上防除に比べて病害虫防除コストの低減及び労働力の軽減を図ることができ、また、地域全体で発生する病害虫の効率的防除に優れた効果を発揮することから、機体数及び防除面積ともに年々増加してきていたが、ドローンを利用した防除が始まり無人ヘリ防除は、減少傾向にある。

令和3年度の面積は、令和4年9月以降に発表された。

令和2年度全国の無人ヘリコプター散布面積 単位；h a

項目	水稻	麦	大豆等	その他	合計
散布面積	838,581	58,405	46,972	6,007	949,965
前年対比（面積）	△41,972	1.821	△4.412	△952	△45,515
〃（割合）	95.2%	103.2%	91.4%	86.3%	95.4%

47都道府県のうち無人ヘリ防除を実施しているのは44道府県で、昨年と比べると大分県（+17,393ha）、岐阜県（+7,638ha）で増加している。主に水稻散布で増えたものである。なお、多くの県で散布面積が減少している。

無人ヘリの機体数は、全国で2,744機 滋賀県では51機である。
オペレーター資格者は全国で9,842人 滋賀県では253人となっている。

（詳細表1）

なお、一般社団法人農林水産航空協会では農林水産航空事業の推進と併せて無人ヘリコプターに係る安全対策として、①安全対策マニュアル、合図マンマニュアルの作成・配布 ②教育研修施設の指定と指導教官の導入 ③認定整備士並びに整備事業所の認定 ④機体の所属が確認できるように機体に登録番号の標記を中心に無人ヘリ散布にかかる研修会を開催するなどの安全対策を講じている。

平成27年12月の航空法の一部改正にともない国土交通省への代行申請の手続きを実施している。

(2) 本県の実施団体別防除状況 —令和4年度—

本県での水稻、麦、大豆の無人ヘリコプター散布状況は下の表のとおりで、水稻・麦・大豆合わせて18,113haで前年対比すると△580ha（97.4%）減少した。水稻の散布が前年を下回った。

* 本県の無人ヘリコプター散布面積

単位；h a

項目	水稻	麦	大豆	合計
散布面積	9,345	6,217	2,551	18,113
前年対比（面積）	△569	580	100	△591
〃（割合）	94.3%	110.3%	81.2%	96.6%
市町数	19	19	18	—

（その他散布面積は除く）

無人ヘリによる散布面積は、水稲では総防除面積の 25.8%を、麦で 61.8%、大豆では、42.0%を占め、無人ヘリによる防除が大きな割合を占めている。

防除対象病害虫は、水稲ではウンカ・カメムシ類が全体の 78.9% (7,369ha) で最も多く、次いで、いもち・ウンカ・カメムシ類が 19.8% (1,854ha) である。

特に、斑点米対策としてのカメムシ類の防除が中心となっている。

麦の赤かび病防除は、19 市町等で実施され、防除面積は 6,217 h a (前年対比+580ha)。昨年は赤かび病の発生が多く追加防除を実施した地域がでた。

また、大豆の防除は、紫斑病・カメムシ・ハスモンヨトウを対象に 18 市町で実施され、防除面積は 2,552 h a (前年対比△591 h a)。

水稲防除対象病害虫 (無人ヘリ防除)	割合
カメムシ類・ウンカ類	78.9%
いもち・カメムシ類・ウンカ	19.8%
いもち病・紋枯病・カメムシ類	0.1%

植物防疫協会の請負防除面積及び実施団体自主防除面積は、次の表のとおりである。

単位；h a

項目	水稲	麦	大豆	合計
① 植物防疫協会請負面積	2,736	2,016	506	5,259
② 実施団体自主防除面積	6,608	4,200	2,046	12,854
防除面積合計 ③=①+②	9,344	6,217	2,552	18,113
請負防除の割合 ①/③	29.3%	32.4%	19.8%	29.0%

(*ドローン委託防除 17h a 含む)

請負防除は、水稲 17 市町で、麦は 13 市町そして大豆は 12 市町で実施された。請負防除の占める割合は、総防除面積の 29.0%とおおよそ 3分の1で推移している。

内訳は、水稲では 29.3%、麦では 32.4%で、大豆では 19.8%。

ドローンによる散布が広がる傾向にあり、無人ヘリ防除が減少しつつある。

(詳細 表 2. 3. 4)

(3) 水稲の生育状況と無人ヘリコプターの稼働状況

4 年産水稲の生育は、田植え以降の日照不足で分けつが抑制されたが、6 月中旬以降高温・多照に推移したことから出穂期は、平年より 2 日早い 7 月 29 日となった。

7 月下旬から 8 月中旬以降高温・寡照にあったことから湖北、湖南とも平年並みの生育であった。

病害 7 月の降水量が平年より多かったことから葉いもちの発生が過去 10 年間で最も多くなった。

台風 11、14 号の影響により県下全域で倒伏が発生した。

虫害では、斑点米カメムシが多く発生したものの被害は軽微であった。一昨年多く発生したトビイロウンカの被害もみられなかった。

作柄は「平年並」の「101」となった。



無人ヘリコプターによる県内の水稲防除は、出穂期を中心に7月中旬から8月中旬にかけて実施された。

水稲の請負防除は、7月15日～8月27日の30日間（前年7月13日～8月28日の26日間）で延べ152機（前年延べ151機）が稼働し、1機当たりの防除面積は18.8ha（前年20.0ha）であった。天候不良による延期が3日発生したものの大きな変更はなかった。

麦は、4月19日～5月20日の22日間（前年4月14日～5月8日の18日間）で延べ100機（前年延べ97機）が稼働し、1機当たりの防除面積は20.2ha（前年19.5ha）であった。天候不良による降雨や強風の7日ほど散布が中止となった。

大豆は、8月27日～9月22日の12日間で延べ31機（前年延べ40機）が稼働し1機当たりの防除面積は、16.3ha（前年17.7ha）で、紫斑病、ハスモンヨトウ、カメムシ類を中心に防除が実施された。

水稲、大豆委託防除は、ドローンによる散布が広まり無人ヘリ委託防除は減少した。

麦は、赤かび病が多発したことから追加の防除が実施され散布面積が増加した。

（詳細 表5-1～3）

（4）無人ヘリ飛行技術競技会の開催

令和4年10月25日（火）近江八幡市津田町にある近江八幡市立運動公園グラウンドにおいて、第21回無人ヘリ飛行技術競技会を開催した。

競技には3実施団体から11チームが出場し、「飛行の安定度、技能の精度、周囲と機体等の安全確認」の項目を中心に技術を競いあった。

優勝は、寺島・宿谷チーム（(有)共同ファーム）。

なお、静岡県袋井市で開催の全国大会には、2チームが参加した。

（飛行技術競技会）



（5）無人ヘリ防除安全講習会の開催

令和4年7月1日（水）JA全農しが野洲総合センターにおいて、無人ヘリ防除安全運航対策会議を開催した、今回は新型コロナ感染予防対策として規模を縮小し関係者10人が出席し、水稲防除に向けた安全飛行と危被害防止を中心に協議を行った。

無人ヘリコプターでは、散布が困難な住宅周辺等の除外地の散布が可能なドローンを利用した委託防除の検討を始めた。令和4年1月までに4回の検討会を開催し、令和4年度から麦、水稲、大豆の無人ヘリ・ドローン委託防除の散布料金を値下げし、散布面積の拡大を目指した。

（6）安全対策の周知徹底

農林水産省では、令和2年度の無人航空機事故における原因の分析と究明を図り今後の事故防止に努めることから、「無人航空機による農薬の空中散布における安全対策」を整理し実施団体等へ周知した。

1. 「操縦者と補助者の連携強化」

空中散布等の実施中において、操縦者は迅速かつ正確に障害物等に関する情報を操縦者に伝達すること。また、操縦者は補助者からの指示の確認を毎回行うこと。

- (1) 機体と障害物との距離を見誤ったことや、別の障害物に気をとられたことなどにより架線や建物へ接触するといった、危険度の高い重大な物損事故に繋がる 경우가多く、そのリスクの大きさから特に留意する必要がある。
- (2) 操縦者 及び補助者は次の点に留意して、空中散布の実施前からの連携強化を行うことが重要である。
 - (ア) 作業への慣れによる慢心や「わかっているだろう、見えているだろう」という思い込みは捨て、安全対策の基本に立ち戻り、互いの役割を確実に行うとともに、綿密な相互コミュニケーションを常に心掛けること。
 - (イ) トランシーバー等の通信不良を防ぐため、事前の実地確認の際にお互いの装備についても確認を徹底すること。
 - (ウ) 事前に合図が確認しやすく、また、機体が良く視認できる立ち位置を確認するとともに、散布中は適時双方で連絡を取り合い、障害物等の情報を共有すること。

2. 「事前確認の徹底」

操縦者及び補助者（遠隔操縦機を利用する場合）は、空中散布の実施前に共同で実地確認を実施し、危険箇所等の情報を確実に把握し、互いに共有すること。

- (1) 事前の実施区域の実地確認が不十分であったため、電線や支線等の架線の位置を把握できておらず接触してしまった事故等があった。

事前確認不足を主要因とする事故は、例年、事故件数の多くを占めていることから特に留意する必要がある。
- (2) 操縦者及び補助者は、次の点に留意して、空中散布等の実施前に共同で実地確認を実施し、危険箇所等の情報を確実に共有することが重要である。
 - (ア) 特に、家屋等への引込線や電柱の支線等、見えにくい位置の作物や障害物を見落とさないよう実地確認を行うとともに、操縦者と補助者の経路・立ち位置を含めた飛行経路を設定する。
 - (イ) 実施確認の際に、受託した散布計画と異なる点があるなどの不明な点があれば、をそのままにせず、実施主体やほ場の持ち主（依頼主）への確認を怠らないこと。
 - (ウ) 実地確認の結果、ほ場の上空に架線が入り込んでいるなど通常の飛行方法による空中散布の実施が困難な場合は、空中散布を実施しないこと。

3. 「無人マルチローター型無人航空機を用いた空中散布等に係る安全対策」について

無人マルチローターを用いた空中散布等は、機体の特性を理解し、適切に実施すること。

- (1) 操縦に不慣れだったことによる事故や、操縦者の意図とは違う動きをした時に、適切なコントロールができなかったことによる建物等への接触といった事故が発生しており、危険度の高い重大な事故に繋がる 경우가多く、そのリスクの大きさから特に留意する必要がある。

- (2) 無人マルチローターを用いた空中散布等を行う際には次の点に留意して安全かつ適正な空中散布を実施することが重要である。
- (ア) 事前に取り扱説明書やマニュアルを熟読し、機体の機能・性能を十分に理解するとともに機体が意図しない動きをした際にも、適切なコントロールが可能となるよう、技術向上に努めること。
 - (イ) 必要に応じて、操縦技能を維持するため、航空法に規定された飛行禁止空域に該当しない人の往来や物件が存在しないほ場などで、航空法に規定された飛行の方法に従ってテストフライを行う。
 - (ウ) 山間部では GPS の受信不良が起りやすいことに留意すること。また、GPS 制御が働かない場合に対応できるよう、技術向上に努めること。

4. 適切な飛行方法での飛行

架線付近での飛行など危険な飛行を行わないこと。また、隣接していないほ場や、飛行経路上に家屋、架線等があるほ場へ移動させる場合は、機体を着陸させ、陸上で運搬すること。

- (1) 架線等への接触事故について、ほ場間を移動する際に架線上を横断するなどの不適切な飛行を行ったことが原因として多く報告されている。これらは、作業時間を短縮させるために架線上（架線下）や家屋等がある散布除外区域を通過させる飛行を行ったことによる事故であり、操縦者の安全な飛行に対する意識の低下又は操作技術の過信が原因となるものである。操縦者は、自身の操作技術を過信することなく、また、常に安全な飛行を意識して飛行を行うこと。
- (2) また、ほ場内で旋回する際に、目測を誤って架線等に接触してしまった事例もみられた。飛行経路を設定するに当たっては、架線と平行な飛行になるよう経路を検討し、架線等の付近で旋回することがないようにすること。また、実地確認の後、前述の留意点を踏まえた適切な飛行経路が設定できず、空中散布の実施が適当でないと判断した場合は、空中散布を実施しないこと。

5. 農薬飛散の防止

空中散布の実施前には、実施区域及びその周辺に学校、病院等の公共施設、家屋、養蜂の巣箱、有機農業が行われているほ場等がある場合には、居住者等に対し、農薬を散布しようとする日時、農薬使用の目的、使用農薬の種類及び実施主体の連絡先についての情報提供を徹底すること。

- (1) 農薬の飛散による被害を防ぐため、事前の周知や散布直前の周辺の確認のほか、空中散布の実施中には見回りをするなど、周辺の安全管理を徹底すること。時に、実施区域に隣接する周辺ほ場n管理者へは事前の周知を必ず実施すること。
- (2) 空中散布の実施中においては、突然の突風等の急な天候の変化には十分注意すること。なお、天候の変化等により農薬が飛散する可能性がある判断した場合は、散布を即時中止すること。

表1. 令和3年度 無人ヘリコプターによる空中散布の実施状況(全国)

農水省より発表の数値(令和4年9月)

都道府県名	令和3年度(無人ヘリ)					令和2年度(無人ヘリ)					前年対比		機体数	オペレーター数	
	水稲	麦	大豆	その他	計	水稲	麦	大豆	その他	計	面積	割合			
北海道	110,275	18,257	2,049	1,434	132,015	136,162	9,252	3,404	2,494	151,312	-19,297	87.2	238	1,562	
東	青森県	48,040	147	3,324	207	51,718	50,475	168	3,260	224	54,127	-2,409	95.5	84	470
	岩手県	21,027	1,110	2,133	6	24,276	19,838	983	2,067	0	22,888	1,388	106.1	79	290
	宮城県	48,974	4,090	13,611	225	66,900	49,939	3,968	13,128	331	67,366	-466	99.3	93	272
	秋田県	98,466	601	2,702	1,201	102,970	98,365	265	2,695	851	102,176	794	100.8	247	903
	山形県	101,380	0	2,555	85	104,020	99,575	64	5,539	100	105,278	-1,258	98.8	136	864
北	福島県	10,164	267	1,601	1	12,033	9,212	281	542	31	10,066	1,967	119.5	12	95
	小計	328,051	6,215	25,926	1,725	361,917	327,404	5,729	27,231	1,537	361,901	16	100.0	651	2,894
関	茨城県	29,381	2,274	1,212	372	33,239	30,731	2,347	1,168	229	34,475	-1,236	96.4	62	374
	栃木県	31,285	0	0	0	31,285	26,466	4,329	306	0	31,101	184	100.6	140	358
	群馬県	195	430	0	0	625	218	404	0	0	622	3	100.5	4	15
	埼玉県	3,722	3,063	204	235	7,224	3,932	3,277	135	178	7,522	-298	96.0	24	61
	千葉県	23,928	85	89	79	24,181	25,973	197	180	358	26,708	-2,527	90.5	32	214
	東京都	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	213	10
	神奈川県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
東	山梨県	214	0	9	0	223	101	0	9	0	110	113	202.7	2	24
	長野県	4,143	0	364	66	4,573	4,750	0	401	118	5,269	-696	86.8	42	116
	静岡県	3,894	157	32	164	4,247	3,894	148	32	164	4,238	9	100.2	24	139
	小計	96,762	6,009	1,910	916	105,597	96,065	10,702	2,231	1,047	110,045	-4,448	96.0	543	1,317
北	新潟県	70,851	356	3,117	632	74,956	72,074	335	2,669	640	75,718	-762	99.0	185	764
	富山県	20,602	1,458	1,906	94	24,060	22,131	1,621	1,869	92	25,713	-1,653	93.6	25	249
	石川県	21,194	1,503	1,173	100	23,970	22,013	1,549	1,273	100	24,935	-965	96.1	95	202
	福井県	17,958	2,965	574	0	21,497	21,292	3,787	760	0	25,839	-4,342	83.2	31	182
	小計	130,605	6,282	6,770	826	144,483	137,510	7,292	6,571	832	152,205	-7,722	94.9	336	1,397
東	岐阜県	7,018	1,910	1,465	0	10,393	2,132	447	176	0	2,755	7,638	377.2	11	134
	愛知県	3,782	3,521	1,196	40	8,539	4,329	3,938	1,206	36	9,509	-970	89.8	26	103
	三重県	8,738	2,164	820	153	11,875	8,902	2,169	677	114	11,862	13	100.1	39	129
	小計	19,538	7,595	3,481	193	30,807	15,363	6,554	2,059	150	24,126	6,681	127.7	76	366
近	滋賀県	9,913	5,636	3,143	0	18,692	10,442	5,593	3,043	0	19,078	-386	98.0	51	253
	京都府	1,907	129	18	227	2,281	2,035	157	26	215	2,433	-152	93.8	5	18
	大阪府	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	302	14
	兵庫県	10,743	447	246	58	11,494	12,751	411	119	85	13,366	-1,872	86.0	56	102
	奈良県	35	80	12	0	127	43	68	18	0	129	-2	98.4	5	6
	和歌山県	63	0	0	0	63	64	0	0	0	64	-1	98.4	0	0
畿	小計	22,661	6,292	3,419	285	32,657	25,335	6,229	3,206	300	35,070	-2,413	93.1	419	393
	中	鳥取県	5,628	0	128	0	5,756	5,247	0	47	0	5,294	462	108.7	12
島根県		3,099	274	139	0	3,512	3,487	213	135	0	3,835	-323	91.6	22	68
岡山県		4,511	1,210	16	0	5,737	4,476	827	69	0	5,372	365	0.0	25	64
広島県		4,001	0	0	0	4,001	7,939	7	4	0	7,950	-3,949	50.3	21	76
山口県		9,384	236	177	0	9,797	16,283	1,170	323	0	17,776	-7,979	55.1	42	139
徳島県		935	0	0	0	935	1,063	0	0	0	1,063	-128	88.0	7	15
香川県		508	30	0	0	538	617	32	0	0	649	-111	0.0	6	6
愛媛県		4,282	510	261	0	5,053	4,615	517	253	0	5,385	-332	93.8	24	48
高知県		2,785	0	0	0	2,785	2,838	0	0	0	2,838	-53	98.1	16	46
小計		35,133	2,260	721	0	38,114	46,565	2,766	831	0	50,162	-12,048	76.0	175	493
九	福岡県	1,440	354	99	341	2,234	1,533	480	229	341	2,583	-349	86.5	124	257
	佐賀県	18,118	3,529	1,856	0	23,503	22,295	4,290	4,722	18	31,325	-7,822	75.0	45	274
	長崎県	10,690	629	124	161	11,604	12,053	835	155	99	13,142	-1,538	0.0	31	183
	熊本県	20,779	603	271	0	21,653	32,975	557	305	0	33,837	-12,184	64.0	46	249
	大分県	25,244	335	64	0	25,643	7,549	513	162	26	8,250	17,393	310.8	32	121
	宮崎県	11,138	45	232	22	11,437	10,561	1,385	232	0	12,178	-741	93.9	10	215
	鹿児島県	8,010	0	50	104	8,164	9,053	0	46	115	9,214	-1,050	0	18	120
小計	95,419	5,495	2,696	628	104,238	96,019	8,060	5,851	599	110,529	-6,291	94.3	306	1,419	
沖縄県	137	0	0	0	137	130	0	0	0	130	7	0	0	1	
合計	838,581	58,405	46,972	6,007	949,965	880,553	56,584	51,384	6,959	995,480	-45,515	95.4	2,744	9,842	
前年対比(%)	95.2	103.2	91.4	86.3	95.4	99.9	86.9	100.2	98.9	99.1	99.1	-	98.0	98.6	
前年対比増減	-41,972	1,821	-4,412	-952	-45,515	-643	-8,532	123	-77	-9,129	-9,129	-	-57	-138	

・農林水産省発表の面積。その他は、松くい虫、畑作物等、除草剤等。機体数は、所有者の住所に基づく。オペレーター数は有効認定者数(R2.3末時点)

表2. 令和4年度 無人ヘリコプター防除実績表

令和5年1月31日現在

市町名	旧市町村名	請負防除面積				自主防除面積				合計面積				前年対比
		水稲	麦	大豆	計	水稲	麦	大豆	計	水稲	麦	大豆	計	
大津市	大津市													
大津地域														
草津市						64.3	130.0	40.0	234.3	64.3	130.0	40.0	234.3	137.8
栗東市		56.0			56.0	119.6	210.5	127.0	457.1	175.6	210.5	127.0	513.1	166.9
守山市						795.0	349.3	95.0	1,239.3	795.0	349.3	95.0	1,239.3	83.2
野洲市		18.2	96.3		114.5	782.0	738.0	512.0	2,032.0	800.2	834.3	512.0	2,146.5	101.2
湖南地域		74.2	96.3		170.5	1,760.9	1,427.8	774.0	3,962.7	1,835.1	1,524.1	774.0	4,133.2	101.1
湖南市						55.1	53.8	46.5	155.4	55.1	53.8	46.5	155.4	89.6
甲賀市	水口町					418.0	119.7	160.4	698.1	418.0	119.7	160.4	698.1	99.5
	甲賀町	262.8	61.1	3.7	327.6					262.8	61.1	3.7	327.6	84.2
	甲南町	55.1			55.1					55.1			55.1	105.4
	信楽町													
小計		317.9	61.1	3.7	382.7	418.0	119.7	160.4	698.1	735.9	180.8	164.1	1,236.2	108.1
甲賀地域		317.9	61.1	3.7	382.7	473.1	173.5	206.9	853.5	791.0	234.6	210.6	1,280.4	97.3
近江八幡市		52.6	60.5		113.1	729.7	805.7	270.7	1,806.1	782.3	866.2	270.7	1,919.2	82.2
東近江市	八日市市	47.5	89.4	27.9	164.8					47.5	89.4	27.9	164.8	115.9
	永源寺町					267.4	243.0	159.0	669.4	267.4	243.0	159.0	669.4	117.4
	蒲生町					367.2	133.5	125.6	626.3	367.2	133.5	125.6	626.3	99.2
	能登川町	85.5	145.6	17.8	248.9					85.5	145.6	17.8	248.9	92.7
	五個荘町	67.4	25.4		92.8					67.4	25.4		92.8	75.9
	湖東町	251.6	103.5	98.0	453.1					251.6	103.5	98.0	453.1	75.8
小計		452.0	363.9	143.7	959.6	634.6	376.5	284.6	1,295.7	1,086.6	740.4	428.3	2,255.3	96.7
日野町		116.7			116.7	474.5	45.0	34.0	553.5	591.2	45.0	34.0	670.2	104.4
竜王町		98.5	215.9		314.4					98.5	215.9		314.4	241.1
大中の湖						270.0	207.0	1.5	478.5	270.0	207.0	1.5	478.5	115.5
東近江地域		719.8	640.3	143.7	1,503.8	2,108.8	1,434.2	590.8	4,133.8	2,828.6	2,074.5	734.5	5,637.6	96.3
彦根市		286.5	173.5	108.9	568.9	562.3	382.7	96.8	1,041.8	848.8	556.2	205.7	1,610.7	81.6
愛荘町		72.2	74.6		146.8					72.2	74.6		146.8	106.3
豊郷町		34.6	65.2	16.7	116.5					34.6	65.2	16.7	116.5	121.1
甲良町		276.1	315.0	195.2	786.3					276.1	315.0	195.2	786.3	94.0
多賀町		228.7	202.4	23.1	454.2					228.7	202.4	23.1	454.2	108.2
湖東地域		898.1	830.7	343.9	2,072.7	562.3	382.7	96.8	1,041.8	1,460.4	1,213.4	440.7	3,114.5	89.9
米原市	山東町					475.0	270.2	50.3	795.5	475.0	270.2	50.3	795.5	98.0
	伊吹町	45.3	37.8	14.3	97.4					45.3	37.8	14.3	97.4	102.1
	米原町	104.7			104.7					104.7			104.7	112.5
	近江町	14.5			14.5		31.0		31.0	14.5	31.0		45.5	89.7
	小計		164.5	37.8	14.3	216.6	475.0	301.2	50.3	826.5	639.5	339.0	64.6	1,043.1
長浜市	長浜市													
	浅井町	62.1			62.1	544.5	235.7	86.7	866.9	606.6	235.7	86.7	929.0	102.1
	びわ町	112.1	102.3		214.4	84.0	89.0	32.0	205.0	196.1	191.3	32.0	419.4	105.3
	高月町	177.3	67.0		244.3					177.3	67.0		244.3	110.9
	湖北町	78.3	181.4		259.7	64.4	143.0	178.2	385.6	142.7	324.4	178.2	645.3	93.3
小計		429.8	350.7		780.5	692.9	467.7	296.9	1,457.5	1,122.7	818.4	296.9	2,238.0	100.8
湖北地域		594.3	388.5	14.3	997.1	1,167.9	768.9	347.2	2,284.0	1,762.2	1,157.4	361.5	3,281.1	100.3
高島市	マキノ町					260.1		27.5	287.6	260.1		27.5	287.6	95.7
	今津町	45.9			45.9					45.9			45.9	83.6
	安曇川町	22.5			22.5	165.8	9.7	3.0	178.5	188.3	9.7	3.0	201.0	104.1
	高島町	63.7			63.7	69.0	2.8		71.8	132.7	2.8		135.5	104.6
	朽木村					40.3			40.3	40.3			40.3	183.2
高島地域		132.1			132.1	535.2	12.5	30.5	578.2	667.3	12.5	30.5	710.3	101.5
無人ヘリ合計		2,736.4	2,016.9	505.6	5,258.9	6,608.2	4,199.6	2,046.2	12,854.0	9,344.6	6,216.5	2,551.8	18,112.9	96.8
ドローン合計		128.6	137.2		265.8					128.6	137.2		265.8	155.4
無人ヘリ+ドローン		2,865.0	2,154.1	505.6	5,524.7	6,608.2	4,199.6	2,046.2	12,854.0	9,473.2	6,353.7	2,551.8	18,378.7	98.1
前年度実績		3,017.2	1,926.7	707.1	5,651.0	6,913.0	3,709.6	2,436.0	13,058.6	9,930.2	5,636.3	3,143.1	18,709.6	98.1
前年対比 (%)		95.0	111.8	71.5	97.8	95.6	113.2	84.0	98.4	95.4	112.7	81.2	98.2	—

表3-1. 令和4年度 無人ヘリコプター 水稻 防除実施面積・使用薬剤・使用薬剤 (請負)

実施主体名	市町名	防除面積 (ha)		使用薬剤	名
		I	II		
栗東市病害虫防除協議会	栗東市	56.0		ヒートスタークル [®] ル、スタークル液剤	II
(株) アグリサポートおとうみ富士	野洲市	18.2		ノンブラスダントワツプロアブル	
甲賀町病害虫防除協議会	甲賀市甲賀地域	262.8		スタークル液剤10	
甲南町病害虫防除協議会	甲賀市甲南地域	55.1		スタークル液剤10	
近江八幡市病害虫防除協議会	近江八幡市	28.8		スタークル液剤10	
J Aグリーン近江八幡西支店		23.8		ヒートスタークル [®] ル、スタークル液剤10 (3.5ha)	
日野町病害虫防除協議会	日野町	116.7		スタークル液剤10	
竜王町病害虫防除協議会	竜王町	98.5		スタークル液剤10	
東近江市近江米振興協会 (JA東能登川)	東近江市能登川地域	59.8		スタークル液剤10	
東近江市近江米振興協会 (JAグリーン近江)	東近江市能登川地域	25.7		スタークル液剤10 キラツプロアブル (2.7ha)	
東近江市近江米振興協会 (JAグリーン近江)	東近江市五個荘地域	67.4		スタークル液剤10	
東近江市近江米振興協会 (JAグリーン近江)	東近江市八日市地域	47.5		スタークル液剤10	
JA湖東	東近江市湖東地域	251.6		スタークル液剤10 (145.8ha)、ワズル乳剤 (105.8ha)	
JA東びわこ稲枝営農センター		50.0		スタークル液剤10	
JA東びわこ彦根営農センター	彦根市	88.0		スタークル液剤10 (49.8ha) プラントワツプロアブル、パリアシエー [®] (38.2ha)	
JA東びわこ東部営農センター	豊郷町	148.5		スタークル液剤10	
	甲良町	34.6		スタークル液剤10	
	多賀町	276.1		スタークル液剤10	
多賀町病害虫防除協議会	愛荘町	228.7		スタークル液剤10	
愛知中部農業振興近代化協議会	米原市伊吹地域	72.2		スタークル液剤10	
	米原市米原地域	45.3		スタークル液剤10 (28.9ha) ヒートスタークル [®] ル (16.4ha)	
米原市病害虫防除協議会	米原市近江地域	104.7		スタークル液剤10	
	米原市浅井地域	14.5		スタークル液剤10	
浅井地域農作物病害虫防除組合	長浜市浅井地域	62.1		スタークル液剤10	
びわ地域農作物病害虫防除組合	長浜市びわ地域	112.1		スタークル液剤10	
高月地域農作物病害虫防除組合	長浜市高月地域	177.3		スタークル液剤10	
湖北地域農作物病害虫防除組合	長浜市湖北地域	78.3		スタークル液剤10	
今津町病害虫防除協議会	高島市今津地域	45.9		プラントワツプロアブル、パリアシエー [®] 12.6ha	
西びわこ病害虫防除協議会	高島市高島地域	37.5	26.2	ノンブラスダントワツプロアブル	スタークル液剤10
	高島市安曇川地域	22.5		ノンブラスダントワツプロアブル	
合 計 (23実施団体)		2,710.2	26.2		
					2,736.4

表3-2. 令和3年度 無人へりコブター 水稻 防除実施面積・使用薬剤（自主）

実施主体名	市町名	防除面積 (ha)		使用薬剤		名
		I	II	I	II	
草津市農業振興協議会 (中島ファーム)	草津市	45.0	19.3	64.3	フロンダントツプロアブル ヒームエイトレボソアブル	II
栗東市病害虫防除協議会	栗東市	119.6		119.6	スターカル液剤10、ヒームエイトスタークルゾル (29.4. ha)	
(株) アグリサポーターおのみ富士	守山市	795.0		795.0	ノンブラスダントツプロアブル	
(株) グリーンちゅうず	野洲市	642.0		642.0	ノンブラスダントツプロアブル	
湖南市病害虫防除協議会	野洲市	140.0		140.0	スターカルメイト液剤10	
水口町病害虫防除協議会	湖南市	55.1		55.1	スターカル液剤10	
岡山病害虫防除運営委員会	甲賀市水口地域	418.0		418.0	スターカル液剤10	
島学区営農運営組合	近江八幡市	284.0		284.0	アランキラツブプロアブル、スタークル液剤10	
野村町農事改良組合	近江八幡市	76.7	97.8	174.5	ヒームエイトゾル	スタークル液剤10
大中の湖病害虫防除協議会	大中の湖	182.5		182.5	ヒームエイトスタークルゾル	
大中の湖無人へり防除組合	近江八幡市	270.0		270.0	ヒームエイトスタークルゾル、スタークル液剤10、トレボソアブル、 フロンダントツプロアブル	
大中の湖無人へり防除組合	彦根市	88.7		88.7	ヒームエイトスタークルゾル	
日野町病害虫防除協議会	日野町	98.3		98.3	ヒームエイトスタークルゾル	
J A 滋賀蒲生町	東近江市蒲生地域	474.5		474.5	スタークル液剤10	
(有) アグリ蒲生	東近江市蒲生地域	237.0		237.0	スターカルメイト液剤10	
市原地区布引営農組合	東近江市永源寺地域	130.2		130.2	スターカルメイト液剤10	
JA東ひわこ稲枝営農センター	彦根市	69.5	197.9	267.4	アランキラツブゾル	トレボソアブル
米原市病害虫防除協議会	米原市山東地域	464.0		464.0	スタークル液剤10	
浅井地域農作物病害虫防除組合	長浜市浅井地域	475.0		475.0	トライプロアブル、トレボソアブル	
443営農	長浜市浅井地域	514.1		514.1	スタークル液剤10	
長浜市T. I	長浜市びわ・高月	30.4		30.4	エグジットプロアブル、アジワツ乳剤	
湖北地域農作物病害虫防除組合	長浜市湖北地域	84.0		84.0	スタークル液剤10	
マキノ町病害虫防除協議会	高島市マキノ地域	64.4		64.4	スタークル液剤10	
西びわこ病害虫防除協議会	高島市高島地域	260.1		260.1	ヒームエイトスタークルゾル	
(有) ライスステーションタカシマ	高島市安曇川地域	22.5	46.5	69.0	ノンブラスダントツプロアブル	スタークル液剤10
合 計	高島市朽木地域	103.9	39.9	143.8	ノンブラスダントツプロアブル	スタークル液剤10
県 計 (請負+自主)	高島市安曇川町	8.8	31.5	40.3	ノンブラスダントツプロアブル	スタークル液剤10
	合 計	22.0		22.0	ノンブラスダントツプロアブル	
		6,175.3	401.4	6,608.2		
		8,885.5	427.6	9,344.6		

表3-3. 令和4年度 無人ヘリコプター 表 防除実施面積・使用薬剤（請負）

実施主体名	市町名	防除面積 (ha)				使用薬剤名	
		I	II	追加	計	I	II
(株) アグリサポートおうみ富士	守山市						
	野洲市	80.5		15.8	96.3	トップジンM [®] ル	トップジンM [®] ル
甲賀町病害虫防除協議会	甲賀町	61.1			61.1	トップジンM [®] ル	
近江八幡市病害虫防除協議会	近江八幡市	7.9	7.9		15.8	ワーグアツブフロアブル	フルト乳剤25
JAグリーン近江八幡西支店	近江八幡市	14.9	14.9	14.9	44.7	ワーグアツブフロアブル	トップジンM [®] ル ワーグアツブフロアブル
竜王町病害虫防除協議会	竜王町	71.4	71.4	73.1	215.9	ワーグアツブフロアブル	トップジンM [®] ル ワーグアツブフロアブル
東近江市近江米振興協会 (JAグリーン近江)	東近江市八日市地域	29.8	29.8	29.8	89.4	ワーグアツブフロアブル	トップジンM [®] ル ワーグアツブフロアブル
東近江市近江米振興協会 (JAグリーン近江)	東近江市能登川地域	68.8	38.4	38.4	145.6	ワーグアツブフロアブル	トップジンM [®] ル ワーグアツブフロアブル
東近江市近江米振興協会 (JAグリーン近江)	東近江市五個荘地域	12.7	12.7		25.4	ワーグアツブフロアブル	トップジンM [®] ル
湖東農業協同組合	東近江市湖東町地域	55.4	48.1		103.5	ワーグアツブフロアブル	トップジンM [®] ル
愛知中部農業振興近代化協議会	愛荘町	37.4	37.2		74.6	フルト乳剤25	トップジンM [®] ル
JA東びわこ稻枝営農センター	彦根市	31.2	24.9		56.1	トップジンM [®] ル	フルト乳剤25
JA東びわこ東部営農センター	彦根市	57.6	59.8		117.4	トップジンM [®] ル	フルト乳剤25
	豊郷町	32.6	32.6		65.2	トップジンM [®] ル	フルト乳剤25
	甲良町	157.5	157.5		315.0	トップジンM [®] ル	フルト乳剤25
多賀町病害虫防除協議会	多賀町	100.3	102.1		202.4	トップジンM [®] ル	フルト乳剤25
米原市病害虫防除協議会	米原市伊吹地域	18.9	18.9		37.8	トップジンM [®] ル	フルト乳剤25
びわ地域農作物病害虫防除組合	長浜市びわ地域	49.6	52.7		102.3	トップジンM [®] ル	ワーグアツブフロアブル
湖北地域農作物病害虫防除組合	長浜市湖北地域	93.5	87.9		181.4	トップジンM [®] ル	ワーグアツブフロアブル
高月地域農作物病害虫防除組合	長浜市高月地域	37.0	30.0		67.0	トップジンM [®] ル	ワーグアツブフロアブル
合 計 (15実施団体)		1,018.1	826.8	172.0	2,016.9		

表3-4. 令和4年度 無人へりコブター 麦 防除実施面積・使用薬剤・使用薬剤（自主）

実施主体名	市町名	防除面積 (ha)			使用薬剤名	
		I	II	追加	I	II・III
草津市農業振興協議会(中島ファーム)	草津市	70.0	60.0		トップジンMゾル	トップジンMゾル
栗東市病害虫防除協議会	栗東市	142.0		68.5	トップジンMゾル	ワーグアツプフロアブル
(株)アグリサポートおとうみ富士	守山市	258.6		90.7	トップジンMゾル	
	野洲市	526.0		129.0	トップジンMゾル	
(株)グリーンちゅうず	野洲市	83.0			トップジンMゾル	
湖南省病害虫防除協議会	湖南省	53.8			チルト乳剤25(15.0)	トップジンMゾル(38.8)
水口町病害虫防除協議会	甲賀市水口地域	119.7			トップジンMゾル(94.6)	ワーグアツプフロアブル(25.1)
岡山病害虫防除運営委員会	近江八幡市	175.0			トップジンMゾル	ワーグアツプフロアブル
野村町農事改良組合	近江八幡市	154.0			ワーグアツプフロアブル	
島学区営農運営組合	近江八幡市	71.6	71.6	67.9	ワーグアツプフロアブル	チルト乳剤25 ワーグアツプフロアブル
大中の湖病害虫防除協議会	大中の湖	69.0	69.0	69.0	トップジンMゾル	ワーグアツプフロアブル
大中の湖無人へり防除組合	近江八幡市	265.6			トップジンMゾル	
大中の湖無人へり防除組合	彦根市	98.8			トップジンMゾル	
日野町病害虫防除協議会	日野町	45.0			トップジンMゾル	
(有)アグリ蒲生	東近江市蒲生地域	133.5			トップジンMゾル	
市原地区布引営農組合	東近江市永源寺地域	162.0	81.0		トップジンMゾル	ワーグアツプフロアブル
JA東びわこ稲枝営農センター	彦根市稲枝地域	158.6	125.3		トップジンMゾル	チルト乳剤25
米原市病害虫防除協議会	米原市山東地域	135.1	135.1		チルト乳剤25	トップジンMゾル
浅井地域農作物病害虫防除組合	長浜市浅井地域	104.4	128.3		トップジンMゾル	ワーグアツプフロアブル
443営農	長浜市浅井地域	1.5	1.5		トップジンMゾル	ワーグアツプフロアブル
湖北地域農作物病害虫防除組合	長浜市湖北地域	71.5	71.5		トップジンMゾル	ワーグアツプフロアブル
長浜市T. I	長浜市(びわ)	89.0			トップジンMゾル	
	米原市	31.0			トップジンMゾル	
西びわこ病害虫防除協議会	高島市安曇川地域	4.6	5.1		チルト乳剤25	ワーグアツプフロアブル
	高島市高島地域	2.8			ワーグアツプフロアブル	
合 計		3,026.1	748.4	425.1	4,199.6	
県 計 (請負+自主)		4,044.2	1,575.2	597.1	6,216.5	

表3-5. 令和4年度 無人へりコブター 大豆 防除実施面積・使用薬剤(請負)

実施主体名	市町名	防除面積 (ha)			計	使用薬剤名	
		I	II	III		I	II・III
甲賀町病害虫防除協議会	甲賀市甲賀地域	3.7			3.7	トップジンMP [®] ル+トレボ [®] ソエア-	
東近江市近江米振興協会 (JAグリーン近江)	東近江市八日市地域	27.9			27.9	アサナジ [®] スチアロア [®] ル+Mrジ [®] ヨカ-EW	
東近江市近江米振興協会 (JA能登川)	東近江市能登川地域	17.8			17.8	トレボ [®] ソエア-	
JA湖東	東近江市湖東地域	44.3	53.7		98.0	トップジンMP [®] ル+、スチアロ乳	Mrジ [®] ヨカ-EW
JA東びわこ東部営農センター	彦根市	55.4	53.5		108.9	トップジンMP [®] ル+Mrジ [®] ヨカ-EW	プレオア [®] ア [®] ル
	甲良町	114.8	80.4		195.2	トップジンMP [®] ル+Mrジ [®] ヨカ-EW	プレオア [®] ア [®] ル
	豊郷町	16.7			16.7	トップジンMP [®] ル+Mrジ [®] ヨカ-EW	
多賀町病害虫防除協議会	多賀町	6.2	16.9		23.1	トップジンMP [®] ル+Mrジ [®] ヨカ-EW	
米原市病害虫防除協議会	米原市	14.3			14.3	トップジンMP [®] ル+、トレボ [®] ソエア-	
合 計 (7実施団体)		301.1	204.5		505.6		

表3-6. 令和4年度 無人へりコブター 大豆 防除実施面積・使用薬剤(自主)

実施主体名	市町名	防除面積 (ha)			計	使用薬剤名	
		I	II	III		I	II・III
草津市農業振興協議会 (中島ファーム)	草津市	20.0	20.0		40.0	プレバ [®] ソア [®] ア [®] ル、キラツツ [®] ア [®] ア [®] ル	
栗東市病害虫防除協議会	栗東市	63.6	63.4		127.0	スタークル液剤10	トップジンMP [®] ル、Mrジ [®] ヨカ-EW
(株) アグリサポーターおのみ富士	守山市	95.0			95.0	トップジンMP [®] ル、マトリソクア [®] ア [®] ル	
(株) グリーンちゅうず	野洲市	429.0			429.0	トップジンMP [®] ル、マトリソクア [®] ア [®] ル	
湖南市病害虫防除協議会	野洲市	83.0			83.0	トップジンMP [®] ル、マトリソクア [®] ア [®] ル	
湖南市病害虫防除協議会	湖南市	46.5			46.5	トップジンMP [®] ル、トレボ [®] ソエア-	
水口町病害虫防除協議会	甲賀市水口地域	43.1	77.3	40.0	160.4	トレボ [®] ソエア-	②トップジンMP [®] ル、Mrジ [®] ヨカ-EW ③Mrジ [®] ヨカ-EW
岡山病害虫防除運営委員会	近江八幡市	148.0			148.0	トップジンMP [®] ル、ロムダ [®] ソエア-	②へ [®] ル [®] ク [®] ア [®] ア [®] ル、Mrジ [®] ヨカ-EW ③トレボ [®] ソエア-
島学区営農運営組合	近江八幡市	14.7			14.7	スタークル液剤10	
大中の湖無人へり防除組合	大中の湖	108.0			108.0	Mrジ [®] ヨカ-EW	
大中の湖病害虫防除協議会	日野町	1.5			1.5	スチアロ乳剤、へ [®] ル [®] ク [®] ア [®] ア [®] ル	
日野町K・H	日野町	34.0			34.0	スチアロ乳剤、トップジンM	
(有) アグリ蒲生	東近江市蒲生地域	59.4	66.2		125.6	スチアロ乳剤、トップジンMP [®] ル	トレボ [®] ソエア-
市原地区布引営農組合	東近江市永源寺地域	79.5	79.5		159.0	トレボ [®] ソエア-	ア [®] ラ [®] ジ [®] スチアロア [®] ル、スチアロ乳剤、へ [®] ル [®] ク [®] ア [®] ア [®] ル
JA東びわこ稲枝営農センター	彦根市稲枝地域	17.8	79.0		96.8	Mrジ [®] ヨカ-EW、	プレオア [®] ア [®] ル
米原市山東地域病害虫防除協議会	米原市山東地域	50.3			50.3	トレボ [®] ソエア-	
浅井地域農作物病害虫防除組合	長浜市浅井地域	38.9	47.8		86.7	ア [®] ラ [®] ジ [®] スチアロ [®] ソエ	ロムダ [®] ソエア-
長浜市T. I	長浜市びわ地域	32.0			32.0	トレボ [®] ソエア-	
湖北地域農作物病害虫防除組合	長浜市湖北地域	93.9	84.3		178.2	ア [®] ラ [®] ジ [®] スチアロ [®] ソエ	ロムダ [®] ソエア-
マキノ町病害虫防除協議会	高島市マキノ町	27.5			27.5	トップジンMP [®] ル、スチアロ乳	
(有) ライスステーションタカシマ	高島市安曇川町	3.0			3.0	ア [®] ラ [®] ジ [®] スチアロ [®] ソエ	
合 計		1,488.7	517.5	40.0	2,046.2		
県 計 (請負+自主)		1,789.8	722.0	40.0	2,551.8		

表3-7 令和4年度 ドローン 水稲 防除実施面積・使用薬剤（請負）

実施主体名	市町名	防除面積 (ha)		使用薬剤		名
		I	II	I	II	
JAグリーン近江八幡西支店	近江八幡市	16.0		計	16.0	ヒームキアツブ ジョーカーフロアブル、スタークル液剤10
信楽町病害虫防除協議会	甲賀市信楽地域	30.8			30.8	スタークル液剤10
東近江市近江米振興協会 (JA東能登川)	東近江市能登川地域	5.0			5.0	スタークル液剤10
東近江市近江米振興協会 (JAグリーン近江)	東近江市能登川地域	6.8			6.8	スタークル液剤10
JA東びわこ彦根営農センター	彦根市	8.6			8.6	スタークル液剤10
びわ地域農作物病害虫防除組合	長浜市びわ地域	13.7			13.7	スタークル液剤10
高月地域農作物病害虫防除組合	長浜市高月地域	39.7			39.7	スタークル液剤10
西びわこ病害虫防除協議会	高島市高島地域	8.0			8.0	スタークル液剤10
水稲 計		128.6			128.6	

表3-8 令和4年度 ドローン 麦 防除実施面積・使用薬剤（請負）

実施主体名	市町名	防除面積 (ha)		使用薬剤		名
		I	II	I	II	
東近江市近江米振興協会 (JAグリーン近江)	東近江市能登川地域	30.4	30.4	計	60.8	トッブ シンM)ブル
東近江市近江米振興協会 (JA東能登川)	東近江市能登川地域	40.5			40.5	リークアツブ フロアブル
湖北地域農作物病害虫防除組合	長浜市湖北地域	14.2	21.7		35.9	トッブ シンM)ブル
麦 計		85.1	52.1		137.2	

ドローン委託合計		213.7	52.1		265.8	
----------	--	-------	------	--	-------	--

表4. 無人ヘリコプターによる病害虫別防除事業の推移

年度別	水				稲				大豆				麦 赤かび病	合計 (ha)	前年 対比 (%)			
	いもち病 紋枯病	いもち病 紋枯病	いもち病 紋枯病	いもち病 紋枯病	ウンカ 計	前年 対比 (%)	稼働 機数 (機)	面積/ 1機 (ha)	紫斑病 カメムシ ハモロコシ等	紫斑病 カメムシ	カメムシ	計 (ha/%)						
平成9年		117	68	104	317	606	40	15.2			34	34	640	177.3				
10年	427	705	23	224	2,388	4,331	206	21.0		65		65	4,396	686.9				
11年		929		2,148	3,280	6,554	314	20.9	22	147	175	344	7,063	160.7				
12年		111		32.8	50.0	3.0	100.0		6.4	42.7	50.9	100.0						
13年		1.7		2,835	43	3,582	6,736	338	19.9		609	131	8,109	114.8				
14年	1.4	3.2	0.4	32.3	48.0	14.7	100.0	338	20.9	40	563	362	4,005	112.7				
15年	91	232	70	2,229	515	3,131	1,785	8,053	398	20.2	2	638	400	355	1,505			
16年	1.3	5.1	1.3	25.8	8.6	61.0	22.4	100.0	469	20.5	70	314	350	70	804	122.9		
17年		91		2,462	4,423	2,428	9,525	102.4	414	23.0		859	701	1,560	2,368	98.1		
18年	69	118		343	5,372	4,168	9,952	104.5	413	24.1	27	486	1,432	1,944	5,296	17,193	127.8	
19年	139	156		2,390	2,880	4,233	9,760	98.2	413	23.7		1.3	25.0	73.7	100.0			
20年	1.5	1.2		1,986	2,850	4,739	9,844	100.8	480	20.5	112	1,704	814	2,630	3,419	15,893	100.0	
21年		0.6		503	4,654	4,758	9,975	101.3	494	20.2	104	1,637	805	2,546	3,718	16,239	102.2	
22年				2,275	3,205	4,371	9,994	100.2	495	20.2	121	1,681	1,199	3,001	3,628	16,623	102.4	
23年	156	166		160	3,077	6,579	9,972	99.8	503	19.8	4.0	56.0	40.0	100.0	100.0			
24年	1.6	1.6		185	3,859	10,035	100.6	514	19.5	39	2,108	988		3,096	4,256	17,324	104.2	
25年	1.3	0.3		130	3,943	6,707	10,958	109.2	531	20.6	1.4	66.7	31.9	100.0	100.0			
26年	1.41	68		1.2	3,907	7,303	11,419	104.2	552	20.6	16	2,098	791	428	3,333	4,470	19,222	105.2
27年	157	70		45	3,887	6,856	11,015	96.5	566	19.5	0.5	62.9	23.7	12.8	100.0	100.0		
28年	245	112		0.4	4,029	6,542	10,927	99.2	574	19.0	20.2	2,351	1,279	107	3,757	4,835	19,519	101.3
29年	46	2.2	1.0	408	3,764	6,573	10,791	98.8	574	18.8	15.0	2,228	1,554		3,797	4,803	19,391	99.3
30年	333			3.8%	34.9	60.9	100.0		560	19.3	0.4	58.7	40.9	100.0	100.0			
元年	184	77		108	3,486	6,687	10,542	97.6	558	18.9	114	1,885	1,221	3,220	5,398	19,160	99.9	
2年	173	0.7		509	2,766	6,994	10,442	99.1	553	18.9	70	2,026	946		3,042	5,593	19,077	99.9
3年	173	0.0		197	2,553	7,007	9,930	99.1	553	18.0	188	1,901	1,054		3,143	5,636	18,709	98.1
4年	109	1.7		13	1,854	7,369	9,345	99.1	553	16.9	77	1,557	918		2,552	6,216	18,113	98.1
	1.2	0.0		0.1%	19.8	78.9	100.0				3.0	61.0	36.0	100.0	100.0			

表5-2 令和4年度 委託託無人ヘリコプター・ドローン防除日程表

防除区画	3月												4月																							
	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
1	東海スカイテック 無人ヘリ 217.0ha 13機 ドローン 129.9ha 9機												全農滋賀 無人ヘリ 171.3ha 87機 ドローン 35.9ha 2機																							
2	東海スカイテック												全農滋賀																							
3	東海スカイテック												全農滋賀																							
4	東海スカイテック												全農滋賀																							
5	東海スカイテック												全農滋賀																							
6	東海スカイテック												全農滋賀																							
7	東海スカイテック												全農滋賀																							
8	東海スカイテック												全農滋賀																							
9	東海スカイテック												全農滋賀																							
10	東海スカイテック												全農滋賀																							
11	東海スカイテック												全農滋賀																							
合計	無人ヘリ 1988.3ha 100機 ドローン 165.8ha 11機												無人ヘリ 1988.3ha 100機 ドローン 165.8ha 11機																							

開花期 「熊本61号」平年より3日早い 4月22日 「ふくさやか」は3日早い4月20日、「ひわなほみ」は3日早い4月18日
 なお、積雪期間が長かった地域では、開花は平年より遅れた。

赤かび病 4月26日 注報第1号「赤かび病多発のおそれ」 5月11日 防除情報「赤かび病の発生状況と追加防除について」
 2回防除後の「ひわなほみ」においても発生が確認。 県の発生率46.7% 得二県南部で66.7%

表5-3 令和4年度 大豆無人へり防除日程表

防除業者 機体 番号	8月					9月												総 機 体 数	備 考														
	27 土	28 日	29 月	30 火	31 水	1 木	2 金	3 土	4 日	5 月	6 火	7 水	8 木	9 金	10 土	11 日	12 月			13 火	14 水	15 木	16 金	17 土	18 日	19 月	20 火	21 水	22 木				
1											船登川 17.8ha																		東海スカイテック 17.8ha	1			
1	甲良町 13.8ha			甲良町 18.2ha	彦根市 15.3ha	甲良町 17.2ha	甲良町 13.9ha				甲良町 22.3ha	彦根市 17.3ha	彦根市 17.3ha	八日市 27.9ha						多賀 16.9ha	彦根市 19.0ha	彦根市 19.2ha						甲良町 3.7ha					
2	甲良町 8.0ha			甲良町 19.2ha	甲良町 17.3ha	彦根町 10.7ha					甲良町 10.2ha	甲良町 24.2ha	彦根・彦 郷 21.0ha							米原市 14.3ha												全農滋賀県本部 487.8ha 30機 1機当たり16.3ha	
3																																	
4				甲良町 29.0ha		湖東 44.3ha																											
5																																	合 計 505.6ha 31機 1機当たり16.3ha
総機体数	2			4	2	5	1			3	2	2	2						2	1	1	1					5			31			
備考	台風の影響も少なく、周期的に適度な降雨があり生育はおおむね良好であった。カメムシの発生は多かった。																																

Ⅲ 令和4年度 地上防除事業実績

1. 農作物病虫害別防除状況

水 稲・・・本年の主な病虫害発生状況は、P5～8のとおりである。

令和4年度の地上防除面積は、36,237haで、平成30年度を100として4年間で7.1%減少している。これは作付面積が減少していることと病虫害の発生予察による効果的な防除そして環境こだわり米の作付けが増加してきているのが要因と推測される。

病虫害別防除面積を見ると、斑点米対策としてカメムシ類への防除並びにいもち病等や害虫を対象とした箱施用剤による防除が主流となっている。(表6-1、6-2)

水稲防除の主な病虫害

項目	カメムシ類 ウンカ類等	箱施薬 (いもち病・ カメムシ類イネミズ ニカメイチュウ等)	いもち、ウン カカメムシ類	いもち病	いもち、紋 枯、ウンカ カメムシ類	その他	防除面積 合計
面積 (ha)	9,795	10,327	6,602	2,707	5,929	877	36,237
割合 (%)	27.0	28.4	18.2	7.5	16.4	2.5	100

麦・・・赤かび病対策として10,068haの防除が実施された。前年より845ha防除面積が増加した。

大豆・・・紫斑病、ハスモンヨトウを中心に6,072haの防除が実施された。(詳細 表8)

2. 防除機の稼働状況

水 稲 防除機別の面積

防除機の種類	防除面積 (ha)	防除割合 (%)	
背負式防除機	12,116	33.4%	背負式防除機による面積割合は、年々減少し平成30年では総防除面積の34.8%を占めていたが令和4年では33.4%に減少した。 箱施薬は、30.6%が29.0%へ、無人ヘリコプター防除は、27.7%が25.8%と横ばいし、背負式防除機で減少した分は、ドローン防除へと移行してきた。 ドローンによる散布は、全体の5.3%へ増加(詳細 表7-1、7-2)
箱施薬	10,509	29.0%	
無人ヘリコプター	9,359	25.8%	
セット動噴	777	2.1%	
ビーグル	1,470	4.1%	
ドローン	1,927	5.3%	
その他	79	0.5%	
合計	36,237	100.0%	
備考			

3. 水稲・麦・大豆共同防除事業

水稲、麦、大豆の共同防除実施面積は、次の表のとおりである。(詳細は表8、表9)

水稲の共同防除率は、昨年と比べると増減なし、麦では1.3%、大豆では2.3%増加した。

項目	共同防除 面積 (ha)	個人防除 面積 (ha)	総防除面積 (ha)	共同防除 面積割合	個人防除 面積割合	総防除 面積割合
水稲	17,396	18,841	36,237	48.0%	52.0%	100%
麦	9,098	970	10,068	90.4%	9.6%	100%
大豆	4,683	1,389	6,072	77.1%	22.9%	100%

表6-1. 令和4年度 水稻病害虫別防除実績 (各地域病害虫防除協議会等別集計)

単位:ha、防除比%

市町名	旧市町村名	いもち病	紋枯病	いもち病 紋枯病	カメムシ類	カメムシ類 ウンカ類	いもち病 カメムシ類 ウンカ類等	箱 施 薬		その他 病害虫名	合 計	令和2年度 水稲共済 引受面積	防除比
								カメムシ類 イネヌスガムシ ニカメイチュウ他	いもち病 カメムシ類 イネヌスガムシ ニカメイチュウ他				
大津市	大津、志賀	6	1			209	216				432	1,001	0.4
草津市					24	44	104		65		257	710	0.4
栗東市						158	106				276	312	0.9
守山市		13				81	811			16	957	1,016	0.9
野洲市	野洲、中主						941				941	1,109	0.8
	計	13			24	283	1,962	0	65	16	2,431	3,147	0.8
湖南市	石部、甲西町				171						311	397	0.8
甲賀市	水口町				426						719	843	0.9
	土山町				133						283	380	0.7
	甲賀町				343						693	634	1.1
	甲南町	21			171						433	451	1.0
	信楽町	15			229						387	243	1.6
	計	36			1,302						2,515	2,551	1.0
	計	36			1,473						2,826	2,948	1.0
近江八幡市					332		980				1,782	2,176	0.8
日野町					849						1,310	1,058	1.2
竜王町		1				847					885	833	1.1
大中の湖			20		90		204	194			578	593	1.0
東近江市	八日市、永源寺 能登川、五個荘 蒲生、愛東、湖 東	2,138		45			1,876	5,590			13,383	4,691	2.9
	計	2,139	20	45	1,271	847	3,060	5,784			17,938	9,351	1.9
愛荘町	秦荘・愛知川町					348					536	857	0.6
彦根市		10				1,234		145			2,692	1,587	1.7
豊郷町						236					366	255	1.4
甲良町						333					603	367	1.6
多賀町						237					437	227	1.9
	計				0	2,388		145			4,634	3,293	1.4

市町名	旧市町村名	いもち病	紋枯病	いもち病 紋枯病	カメムシ類	カメムシ類 ウンカ類	いもち病 カメムシ類 ウンカ類等	いもち病 紋枯病 カメムシ類 ウンカ類等	箱 施 薬			その他 病害虫名	合 計	令和2年度 水稲共済 引受面積	防除比
									カメムシ類 イネヌスガワムシ ニカメイチュウ他	いもち病 カメムシ類 イネヌスガワムシ ニカメイチュウ他					
湖 北	米 原 市					645	475						1,120	1,407	0.8
	長 浜 市	長 浜 市	48				174				377		599	1,000	0.6
		び わ 町					266				141		407	617	0.7
		浅 井 町					692				400		1,092	878	1.2
		虎 姫 町					254				137		391	330	1.2
		湖 北 町					255				312		567	771	0.7
		高 月 町		27			341						368	812	0.5
		木之本町				142							176	218	0.8
		余呉町				61							96	204	0.5
西浅井町				122							144	289	0.5		
計		139		27	325	1,982				1,367		3,840	5,119	0.8	
高 島	計	139		27	325	2,627	475						4,960	6,526	0.8
	マキノ町	135				38	279			90			655	507	1.3
	今津町					138	242						630	518	1.2
	安曇川町	104				30	147						590	962	0.6
	高島町	26				20	116			6			498	499	1.0
	朽木村	16				75	42						180	118	1.5
	新旭町	93				122	63			40			463	510	0.9
	計	374	2			348	889	0		136	699		3,016	3,114	1.0
	合 計	2,707	23	72	3,093	6,702	6,602	5,929		201	10,126	16	36,237	29,380	1.2

表6-2. 水稲病害虫別防除実績の推移

病害虫名	年次	いもち病	紋枯病	いもち病 紋枯病	カメムシ類 及び カメムシ類 ウンカ類	いもち病 カメムシ類 ウンカ類等	いもち病 紋枯病 カメムシ類 ウンカ類等	箱 施 薬			その他 病害虫名	合 計	令和2年度 水稲共済 引受面積	防除比
								カメムシ類 イネヌスガワムシ ニカメイチュウ他	いもち病 カメムシ類 イネヌスガワムシ ニカメイチュウ他					
平成30年度		4,202	182	33	10,872	5,387	6,092	3,779	8,147	0	38,989	31,775	1.2	
令和元年度		2,578	13	43	10,283	7,439	5,723	1,806	9,318	16	37,203	29,978	1.2	
令和2年度		2,734	37	47	10,465	6,871	6,424	1,131	10,342	11	38,062	29,380	1.3	
令和3年度		2,711	20	46	10,171	6,641	6,500	199	10,332	11	37,728	29,380	1.3	
令和4年度		2,707	23	72	9,795	6,602	5,929	201	10,126	16	36,237	29,380	1.2	

表7-1. 令和4年度 地上防除機の稼働状況(水稻) (各地域病害虫防除協議会等別集計)

市町名	旧市町村名	背負式動力散布機		トラクター装着式大型散布機		カーペットダスター		カーペットスプレーヤー		栽培管理用ビークル		セツト動噴		スーパーズプレーヤー		無人航空機				箱施薬		防除面積合計		
		保有台数	防除面積	保有台数	防除面積	保有台数	防除面積	保有台数	防除面積	保有台数	防除面積	保有台数	防除面積	保有台数	防除面積	保有台数	防除面積	無人ヘリ	ドローン	保有台数	防除面積		保有台数	防除面積
大津市	大津、志賀	80	219															5	213				432	
		114	108															1	64				85	257
		80	88															1	176				12	276
		10	32															5	795	3	94		36	957
野洲市	野洲、中主	11	44														7	800		97			941	
		215	272														14	1,835	8	191		133	2,431	
湖南市	石部、甲西	45	44							3	60						1	55		12			140	311
		10											1	8			3	418				293	719	
		100	102	1	11															2	20		150	283
		103	80														2	263					350	693
甲賀市	甲南町	175	119									13	8			1	55		1	10		241	433	
		156	196																				143	387
		544	497	1	11								14	16		6	736		6	78		1,177	2,515	
近江八幡市	八幡、安土	589	541	1	11					3	60	14	16			7	791		6	90		1,317	2,826	
		30	174								6	200	4	56			4	782	8	100		470	1,782	
日野町		31	112						4	28						1	592		6	117		461	1,310	
		21	710																	2	39		37	885
大中の湖		70	50							10	70	3	20			3	270		4	98		70	578	
		2,245	7,583								9	795				5	1,087		2	184		3,734	13,383	
東近江市	八日市、永源寺、能登川、五個荘、蒲生、愛東、湖東	2,397	8,629						4	28	25	1,065	7	76	0	0	13	2,830	22	538		4,772	17,938	
		25	126								3	64	1	6						3	80		188	536
彦根市	秦荘・愛知川町	160	176							4	213					4	849		5	151		1,303	2,692	
		13	73								2	33							4	96		130	366	
甲良町		6	43																	2	14		270	603
		20																		1	8		200	437
多賀町		224	418							9	310	1	6			4	1,460		15	349		2,091	4,634	

単位:防除面積

市町名	旧市町村名	背負式動力散布機		トラクター装着式大型散布機		カーベットダスター		カーベットスプレーヤー		栽培管理用ピークル		セット動噴		スーパーサブダースプレーヤー		無人航空機				箱施葉		防除面積合計	
		保有台数	防除面積	保有台数	防除面積	保有台数	防除面積	保有台数	防除面積	保有台数	防除面積	保有台数	防除面積	保有台数	防除面積	保有台数	防除面積	無人ヘリ	無人ヘリ	ドローン	ドローン		保有台数
米原市	山東・米原・遠江・伊吹	161	350	3	10	2	30			1	30	6	60			3	640						1,120
	長浜市	100	212										5					1	5			377	599
	びわ町	1	12															1	196	2	58	141	407
	浅井町	20	66									7	5					4	621			400	1,092
	虎姫町	10	10									2	220								1	24	391
	湖北町	4	3									5	14					1	143	2	95	312	567
	高月町	44	94								1	5								177	7	92	368
	木之本町	60	129																		1	47	176
	余呉町	11	96																				96
	西浅井町	42	129																		2	15	144
湖北	計	292	751							1	5	14	244			6	1,137	16	336	2	19	201	655
	計	453	1,101	3	10	2	30			2	35	20	304			9	1,777	16	336	2	19	201	655
高島	マキノ町	122	171									1	4			2	260	2	19	2	19	201	655
	今津町	30	166									3	83					46	1	85		250	630
	安曇川町	42	156									23	157					3	188			89	590
	高島町	221	141									12	100					1	132	2	68	57	498
	朽木村	100	46									5	29						40	1	18	47	180
高島	新旭町	79	256									1	2							3	20	185	463
	計	594	936									45	375			6	666	9	210			829	3,016
合計	計	4,552	12,116	1	21	2	30	4	28	39	1,470	87	777	0	0	53	9,359	81	1,927			10,509	36,237

* 米原市は、無人ヘリ防除面積以外は前年度の面積を記載しています。

表7-2. 地上防除機稼働状況の推移(水稲)

年次	項目	背負式動力散布機		トラクター装着式大型散布機		カーベットダスター		カーベットスプレーヤー		栽培管理用ピークル		セット動噴		スーパーサブダースプレーヤー		無人航空機				箱施葉		防除面積
		保有台数	防除面積	保有台数	防除面積	保有台数	防除面積	保有台数	防除面積	保有台数	防除面積	保有台数	防除面積	保有台数	防除面積	無人ヘリ	無人ヘリ	ドローン	ドローン	保有台数	防除面積	
平成30年度		13,555		127		57		38		1,224		786			105		10,798		319		11,950	38,989
令和元年度		12,200		126		30		40		1,243		990			103		10,542		806		11,123	37,203
令和2年度		12,669		23		30		29		1,249		833			113		10,441		1,201		11,474	38,062
令和3年度		12,672		23		30		29		1,312		682			97		9,914		1,704		11,265	37,728

* 無人ヘリ機体数は所有者の住所でカウントする。

表8. 令和4年度 水稲・麦・大豆等の共同防除事業実績

単位:ha、%

地域	市町名	旧市町村名	水			稲			麦			大豆・その他		
			共同	個人	計	共同防除率	共同	個人	計	共同防除率	共同	個人	計	共同防除率
大湖	大津市	大津、志賀	387	45	432	89.6	112	16	128	87.5	87	16	103	84.5
	草津市		172	85	257	66.9	130	33	163	79.8	70	58	128	54.7
	栗東市		264	12	276	95.7	211		211	100.0	128	22	150	85.3
	守山市		795	162	957	83.1	376		376	100.0	358		358	100.0
南	野洲市	野洲、中主	800	141	941	85.0	834		834	100.0	512		512	100.0
	計		2,031	400	2,431	83.5	1,551	33	1,584	97.9	1,068	80	1,148	93.0
甲賀	湖南市	石部、甲西	67	244	311	21.5	65	15	80	81.3	47	18	65	72.3
		水口町	418	301	719	58.1	120		120	100.0	160		160	100.0
		土山町	31	252	283	11.0		9	9	0		6	6	0
		甲賀町	263	430	693	38.0	78	50	128	60.9	4	50	54	7.4
		甲南町	55	378	433	12.7	15	1	16	93.8	4	5	9	44.4
	信楽町	31	356	387	8.0	2		2	100.0	18		18	100.0	
	計		798	1,717	2,515	31.7	215	60	275	78.2	186	61	247	75.3
東近	近江八幡市	近江八幡・安土	865	1,961	2,826	30.6	280	75	355	78.9	233	79	312	74.7
	日野町		1,094	688	1,782	61.4	2,122	70	2,192	96.8	1,086	357	1,443	75.3
	竜王町		737	573	1,310	56.3	45	74	119	37.8	46	28	74	62.2
	大中の湖		419	466	885	47.3	307		307	100.0			0	0.0
	計		288	290	578	49.8	207	28	235	88.1	2	6	8	25.0
	東近江市	八日市、永源寺 能登川、五個荘 蒲生、愛東、湖東	6,601	6,782	13,383	49.3	1,616	140	1,756	92.0	1,246	190	1,436	86.8
	計		9,139	8,799	17,938	50.9	4,297	312	4,609	93.2	2,380	581	2,961	80.4

地域	市町名	旧市町村名	水			稲			麦			大豆・その他		
			共同	個人	計	共同防除率	共同	個人	計	共同防除率	共同	個人	計	共同防除率
湖	愛 庄 町	秦庄、愛知川町	152	384	536	28.4	75	232	307	24.4		113	113	0.0
	彦 根 市		849	1,843	2,692	31.5	808	148	956	84.5	211	205	416	50.7
	豊 郷 町		190	176	366	51.9	166		166	100.0	41		41	100.0
	甲 良 町		286	317	603	47.4	315		315	100.0	195		195	100.0
	多 賀 町		237	200	437	54.2	202		202	100.0	23		23	100.0
東	計		1,714	2,920	4,634	37.0	1,566	148	1,946	80.5	470	318	788	59.6
	米 原 市	山東・米原/近江・伊吹	640	480	1,120	57.1	339		339	100.0	129	48	177	72.9
湖	長 浜 市		776	316	1,092	71.1	236	9	245	96.3	87	14	101	86.1
	浅 井 町		317	90	407	77.9	191	40	231	82.7		57	57	0.0
	び わ 町		27	364	391	6.9	27	3	30	90		24	24	0
	虎 姫 町		210	357	567	37.0	360	63	423	85.1	178	45	223	79.8
	湖 北 町		219	149	368	59.5	106	62	168	63.1	16	62	78	20.5
	高 月 町		47	129	176	26.7	25		25	100			0	-
	木 之 本 町			96	96	0			0	-			0	-
	余 呉 町		15	129	144	10.4			0	-			0	-
	西 浅 井 町		1,611	2,229	3,840	42.0	945	177	1,122	84.2	281	202	483	58.2
	北	計	2,251	2,709	4,960	45.4	1,284	177	1,461	87.9	410	250	660	62.1
高	マ キ ノ 町		265	390	655	40.5			0	-	27	3	30	90.0
	今 津 町		79	551	630	12.5		192	192	0		52	52	0
	朽 木 村		79	101	180	43.9			0	-			0	-
	高 島 町		323	175	498	64.9	8		8	100.0	8		8	100.0
	安 曇 川		263	327	590	44.6	8		8	100.0		3	3	0.0
島	新 旭 町		463	463	0.0		17	17	0.0		7	7	0	
	計	1,009	2,007	3,016	33.5	8	209	217	35	3.7	100	100	35.0	
	合 計	17,396	18,841	36,237	48.0	9,098	970	10,068	4,683	90.4	6,072	1,389	6,072	77.1

(注) 共同防除率とは、全体面積に対する市町村防除協議会等が共同で実施した防除面積の割合を示す。

令和4年度ドローン散布実績書集計

① ドローン散布実績書提出団体(個人)数

請負業者	11	
JAアグリ	7	
農業法人	19	
個人	(株)(有)	12
	個人	31
合計	80	

② ドローン作物別散布実績書

作物名	作業名	面積 (ha)	機体数		1機当たり 面積 (ha)
水稻	除草	270.4	133		2.0
	肥料散布	138.0	55		2.5
	病虫害防除	2,359.2	637		3.7
麦	病虫害防除	2,053.4	368		5.6
	除草	3.5	4		0.9
豆類	病虫害防除	661.6	112		5.9
野菜	病虫害防除	7.4	9		0.8
樹木	病虫害防除	98.0	8		12.3
種子その他	緑肥等	21.9	6		3.7
合計		5,613.4	1332		4.2

③ ドローン市町別散布実績書

市町名	水稲			麦		豆類	野菜	樹木	緑肥等	合計
	病害虫	除草	肥料散布	病害虫	除草					
大津市	255.1	23.5	8.6	81.1		46.6	1.0		21.9	437.8
草津市	0.4		18.0	17.1		22.4				57.9
栗東市										0.0
守山市	269.4			92.9		184.7				547.0
野洲市	64.6			24.2		3.3				92.1
甲賀市	148.0			2.0		15.0		50.0		215.0
湖南市	17.6	26.5								44.1
近江八幡市	130.9			187.2		42.6				360.7
東近江市	495.2	59.1		856.7	1.0	141.2	0.4			1,553.6
竜王町	66.5			219.2		28.7				314.4
日野町	27.0			19.1		4.8		48.0		98.9
愛荘町	80.6			14.7		14.1				109.4
彦根市	58.9	20.4	15.4	62.6		74.1				231.4
米原市	9.7									9.7
長浜市	410.2	87.6	72.1	387.5	2.5	48.5	5.5			1,013.9
高島市	325.1	53.3	23.9	89.1		35.6	0.5			527.5
合計	2,359.2	270.4	138.0	2,053.4	3.5	661.6	7.4	98.0	21.9	5,613.4

無人ヘリコプターによる委託防除



水稻・麦・大豆 殺菌殺虫剤

令和4年1月

(一社)滋賀県植物防疫協会

大津市梅林一丁目14番17号

TEL: 077-521-8964 FAX: 077-521-8977

Email: shiga-syokubo@cap.ocn.ne.jp

その他
水稻除草剤、野菜、果樹等の殺菌殺虫剤の散布も行います。

農家・集落・実施団体の協力のもと共同防除体制で実施します。(1日20ha)

各地域実施団体(病虫害防除協議会等・JA)を通じて申込んで下さい。

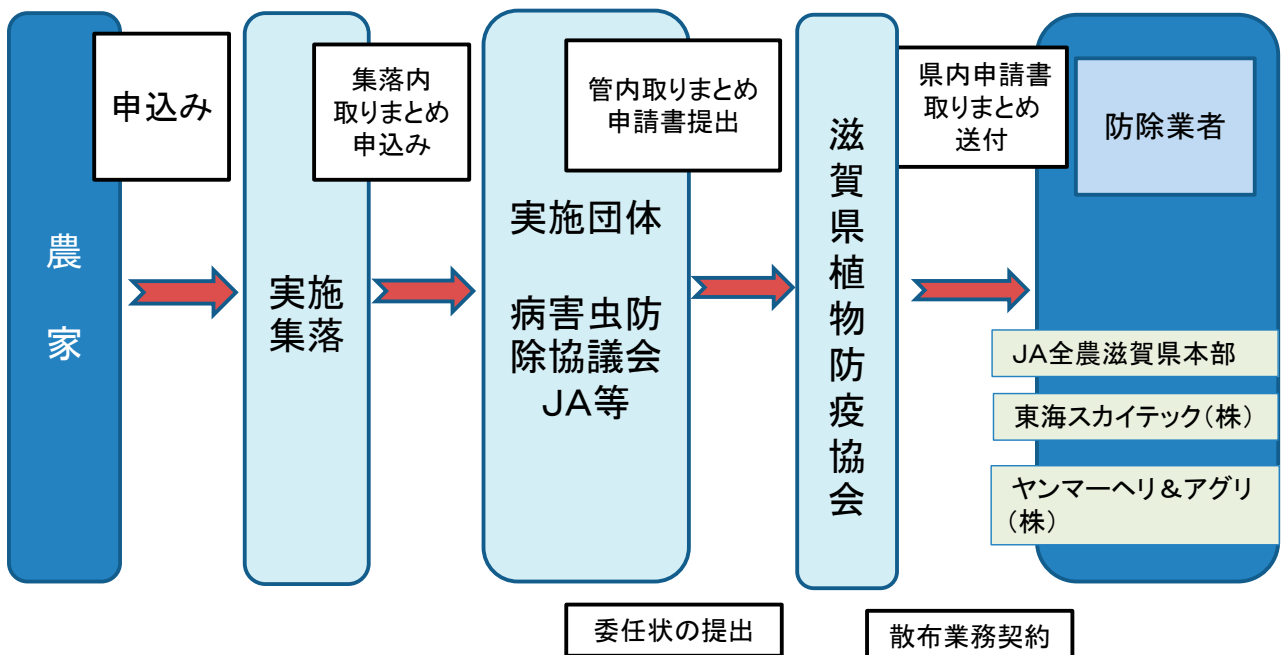
- ① 重労働の防除作業からの解放
- ② ローターから下向きに吹くダウンウォッシュ効果により株元までむらなく均一に散布
- ③ 短時間で確実な散布作業

- * 実施集落、実施団体へお願い
- ① 作業体制は、集落から3名 実施団体1名 オペレーター及びナビゲーターの6人体制
 - ② 散布地図の作成(対象外作物・危険個所の明記)
 - ③ 公共施設・周辺住民への事前周知
 - ④ オペレーターが事前に現地確認します

10a当たり散布料金は、1日当たり
1,550円/10a(税別)
負担金 10円/10a(税込) を加算します

飛行能力 1ha 約10分
散布方法 風速 3m/s以下
飛行高度 3~4m
散布間隔 5m又は7.5m
飛行速度 10~20km/h

無人ヘリコプターによる委託防除 申請手続の流れ



— 農家・地域・防除関係団体が一体となり安心して安全な防除に努めます —
詳しいお問合せは、滋賀県植物防疫協会へ



ドローンによる委託防除

令和4年1月

水稻・麦・大豆等

殺菌殺虫剤 散布の他

水稻除草剤、野菜、果樹等

の殺菌殺虫剤の散布も行います。

(一社)滋賀県植物防疫協会

大津市梅林一丁目14番17号

TEL:077-521-8964 FAX:077-521-8977

Email: shiga-syokubo@cap.ocn.ne.jp

農家・集落・実施団体の協力のもと共同防除体制で実施します。(1日10ha以上)

各地域実施団体(病虫害防除協議会等・JA)を通じて申込んで下さい。

- ①住宅周辺の圃場
- ②架線等入り組んだ圃場
- ③山間山脚地で無人ヘリ防除が困難な圃場
- ④無人ヘリ委託防除面積要件20haを確保できない地域
- ⑤無人ヘリ委託防除出役人数が確保できない地域

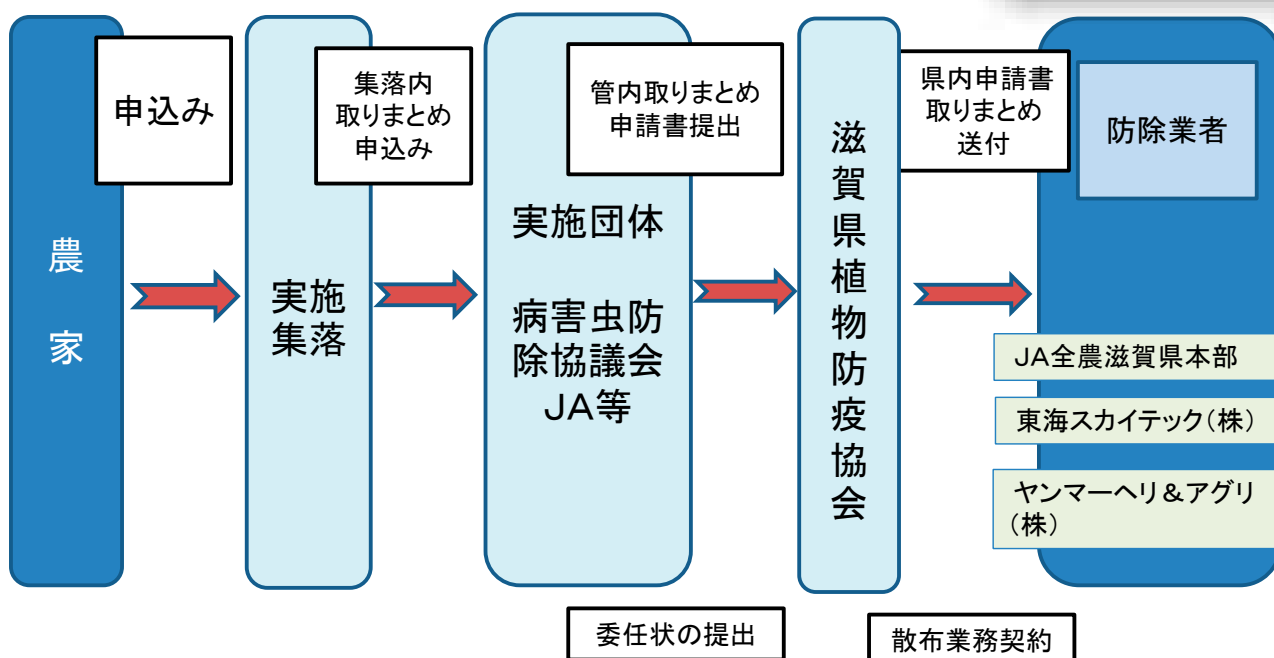
* 実施集落、実施団体へのお願い

- ①作業体制は、集落から2名 実施団体1名 オペレーター及びナビゲーターの5人体制
- ②散布地図の作成(対象外作物・危険個所の明記)
- ③公共施設・周辺住民への事前周知
- ④オペレーターが事前に現地確認します

10a当たり散布料金は、1日当たり
 10ha以上 1,550円/10a(税別)
 負担金 10円/10a(税込) を加算します

飛行能力 1ha 約20分
 散布方法 風速 3m/s以下
 飛行高度 2m
 散布間隔 3~4m
 飛行速度 15km/h

ドローンによる委託防除申請 手続の流れ



—農家・地域・防除関係団体が一体となり安心して安全な防除に努めます—
 詳しいお問合せは、滋賀県植物防疫協会へ

令和4年度年度農薬展示ほ設置状況

農薬展示ほは、安全で効果が高く経済的な農薬を実証展示し、普及性を検討するもので「農薬展示ほ設置要領」に基づき各地域農業農村振興事務所農産普及課の協力を得て実施している。

令和3年度の設置状況は下表のとおりです。

(設置ヶ所数)

作物・薬剤別	地域農産普及課						農業革新	計
	大津・南部	甲賀	東近江	湖東	湖北	高島		
水稲 殺菌殺虫剤 (3剤)	2					1		3
大豆 殺菌殺虫剤 (2剤)							2	2
野菜 殺菌殺虫剤 (1剤)		1						1
果樹 殺菌殺虫剤 (1剤)			1					1
茶 殺菌殺虫剤 (1剤)		1	1					2
水稲 除草剤 (14剤)	5	2	4	1	2	3	4	21
大豆 除草剤 (0剤)								0
野菜 除草剤 (0剤)								0
計 (18剤)	7	4	6	1	2	4	6	30

* 設計検討会

令和4年4月21日に滋賀県農業技術振興センターにおいて、県関係機関、全農滋賀 県本部、県肥料商業組合および農薬会社が出席、農薬展示ほの設計と調査方法等について協議した。

* 成績検討会

令和4年7月29日に水稲除草剤、令和4年12月2日に殺菌殺虫剤等の成績検討会を滋賀県農業技術振興センターにおいて、県関係機関、全農滋賀県本部、県肥料商業組合および農薬会社の関係者が出席、防除効果、薬害の他、普及するうえでの意見及び農家の意見、問題点について検討し、総合評点を決定した。

* 水稲除草剤現地巡回検討会

令和4年6月23日に水稲除草剤展示ほの現地検討会を開催、県農業技術振興センター、各地域農産普及課、全農滋賀県本部、県肥料商業組合及び農薬会社等から20名が出席した。

本年度の水稲除草剤展示ほは、14剤21ヶ所で設置されている内、7剤7ヶ所を巡回した。

現地では、各農産普及課担当者より中間成績書に基づき、調査概要が説明がされ、ほ場を観察しながら意見交換を行なった。現地巡回終了後、県農業技術振興センター農業革新支援部中橋主幹より、「薬剤の効果はおおむね発揮されていた。」との講評があった。

巡回経路は下記のとおり。

彦根市下西川町	ロイヤント乳剤
彦根市本庄町	バットウZジャンボ
近江八幡市十王町	ウィードコア1キロ粒剤、バイスコープ/ルナクロス1キロ粒剤
草津市下笠町	アカツキジャンボ、イネリーグジャンボ、サラブレットGOジャンボ

令和4年度 農薬展示ほ殺菌殺虫剤 設置一覧表

No.	薬剤名	対象作物	展示目的	展示ほ申込者	設置場所（計画）							
					大津南部	甲賀	東近江	湖東	湖北	高島	革新	
1	リゾケアXL 塗抹処理	水 稲	苗立歩合の安定度 苗腐病 イミズゾウムシ、イトコイムシの 効果確認	シンジエンタ ジャパン	● No. 1 A							
2	稲名人箱粒剤/ スタウトアレス箱粒剤	水 稲	いもち病 イミズゾウムシ イトコイムシ ウカ類 コブノメイガ ニカメイチュウ フオビコヤカガ イコ類 の防除効果、薬害の確認	協友アグリ 住友化学						● No. 2 B		
3	オリブライト250G	水 稲	いもち病、紋枯病の 防除効果、薬害の確認	クミアイ化学工業	● No. 3 B							
4	プランダム乳剤	大 豆	紫斑病の防除効果、薬 害の確認	シンジエンタ ジャパン							● No. 4 B	
5	トルネードエースDF	大 豆	ハモシトウの防除効果、薬 害の確認	トルネード普及会 三井化学アグロ							● No. 5 B	
6	クプロシールド	キャベツ	軟腐病防除効果、薬害 の確認	アグロカネショウ		● No. 6 A						
7	ミギワ20フロアブル	な し	黒星病防除効果、薬害 の確認	日本曹達			● No. 7 B					
8	ミギワ20フロアブル	茶	炭疽病防除効果、薬害 の確認	日本曹達		● No. 8 A	● No. 9 B					

* 殺菌殺虫剤の総合評点 A：慣行より優る。B：慣行と同等（効果あり）。C：要再検討。D：判定不能。

殺菌殺虫剤成績書 番号：1

作物名	直播水稻	対象病虫害 (効果) (薬害)	イネミズゾウムシ イネドロオイムシ 苗腐病、苗立歩合 の安定度	農薬名 剤型	リゾケアXL 種子塗抹剤																		
農産普及課名	大津・南部農業農村振興事務所	担当者	柴田 隆豊																				
設置場所	大津市南小松	農家名	西村 幸雄																				
耕種概要	品 種：日本晴																						
	土 性：砂壤土																						
	は種又は定植：5月19日																						
	出 穂：8月24日																						
	開 花：-																						
展 示 方 法	収 穫：10月4日																						
	施肥など：地域の慣行に準ずる。																						
	展示区・面積・(株数)など： 展示区 31.6a, 対照区 15.9a																						
	散布時期・濃度・薬量：																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>農 薬 名</th> <th>散布時期</th> <th>濃度/散布量</th> <th>散布方法</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示区</td> <td>リゾケアXL</td> <td>播種前</td> <td>オクゾDS 乾燥種粃 の0.5倍 スクアテリアES 乾燥 種粃1kgあたり 原液5ml フオルテンサ`FS 乾 燥種粃1kgあた り原液8ml</td> <td>種子塗抹 処理</td> <td>種子塗 抹処理 はメー カーに て実施</td> </tr> <tr> <td>対照区</td> <td>無処理</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>鉄黒コ ートに よる種 子塗抹 処理を 実施</td> </tr> </tbody> </table>						区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備 考	展示区	リゾケアXL	播種前	オクゾDS 乾燥種粃 の0.5倍 スクアテリアES 乾燥 種粃1kgあたり 原液5ml フオルテンサ`FS 乾 燥種粃1kgあた り原液8ml	種子塗抹 処理	種子塗 抹処理 はメー カーに て実施	対照区	無処理	—	—	—
区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備 考																		
展示区	リゾケアXL	播種前	オクゾDS 乾燥種粃 の0.5倍 スクアテリアES 乾燥 種粃1kgあたり 原液5ml フオルテンサ`FS 乾 燥種粃1kgあた り原液8ml	種子塗抹 処理	種子塗 抹処理 はメー カーに て実施																		
対照区	無処理	—	—	—	鉄黒コ ートに よる種 子塗抹 処理を 実施																		
<p>調査方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苗立歩合 各区2か所に1m×1m四方の調査地点を設定し、播種時の種子量を計測した。発芽が揃った後に同一箇所を発芽数を計測し、苗立率を算出した。※苗腐病は苗立歩合の結果をもとに推測 ・ イネミズゾウムシ 播種後、約30日後に各区25株、2か所について「食害程度」を調査した。 ・ イネドロオイムシ 発生時期に調査を実施したが、栽培終了まで発生は見られなかった。 (展示ほ及び周辺の病虫害発生状況、降雨状況) 病虫害の発生状況：イネミズゾウムシ：中、イネドロオイムシ：発生なし 降雨等の状況：播種時期の5月4半旬から5半旬にかけては、気温はやや高く、降水量は少なかった。 その後、6月にかけて降水量の少ない状況が続いたため、イネドロオイムシの発生には不適であったと考えられる。 																							

農家の意見	メーカーが種子の塗抹処理を行ってくれるため、手間がかからず、非常に作業は楽であった。苗立歩合も悪くなく、初期害虫の心配をしなくていい安心感がある。今後、このような直は体系が広がっていくと感じる。
普及上の意見	対照区と比べ、展示区では初期害虫の発生が抑制されていることから、直は栽培の課題である初期生育が安定すると感じられる。また、苗立歩合も慣行区と展示区で同等であったことから、薬剤として有望であると感じられる。

調査結果	表1 苗立歩合調査結果 (5月31日)																																																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区</th> <th>播種数</th> <th>苗立数</th> <th>発芽率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示(上)</td> <td>52</td> <td>45</td> <td>86.5</td> </tr> <tr> <td>展示(下)</td> <td>50</td> <td>41</td> <td>82.0</td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td>51</td> <td>43</td> <td>84.3</td> </tr> <tr> <td>対照(上)</td> <td>79</td> <td>70</td> <td>88.6</td> </tr> <tr> <td>対照(下)</td> <td>67</td> <td>47</td> <td>70.1</td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td>73</td> <td>58.5</td> <td>80.1</td> </tr> </tbody> </table>		区	播種数	苗立数	発芽率	展示(上)	52	45	86.5	展示(下)	50	41	82.0	平均	51	43	84.3	対照(上)	79	70	88.6	対照(下)	67	47	70.1	平均	73	58.5	80.1																									
区	播種数	苗立数	発芽率																																																				
展示(上)	52	45	86.5																																																				
展示(下)	50	41	82.0																																																				
平均	51	43	84.3																																																				
対照(上)	79	70	88.6																																																				
対照(下)	67	47	70.1																																																				
平均	73	58.5	80.1																																																				
調査結果	表2 イネミズゾウムシ調査結果 (6月22日)																																																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区</th> <th colspan="5">食害程度</th> <th rowspan="2">被害度</th> </tr> <tr> <th>E</th> <th>D</th> <th>C</th> <th>B</th> <th>A</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示(上)</td> <td>22</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>展示(下)</td> <td>23</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td>22.5</td> <td>2.5</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>対照(上)</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>対照(下)</td> <td>6</td> <td>11</td> <td>7</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td>8</td> <td>10.5</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>22.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>被害度:被害葉率に応じて食害程度を4段階に分類し、計算式に基づき算出 A: 被害葉率 91%~ B: 被害葉率 61~90% C: 被害葉率 31~60% D: 被害葉率 1~30% E: 被害なし</p> $\text{※被害度} = \frac{4A+3B+2C+D}{4 \times \text{調査株数}} \times 100$ <p>薬害:特になし</p> <p>結果および考察</p> <ul style="list-style-type: none"> 苗立歩合については、ほ場の均平程度や調査箇所によってばらつきが見られたが展示区と対照区では同等であった。 イネミズゾウムシによる被害度は、展示区で2.5、対照区(殺虫剤施用なし)で22.5と展示区で低かった。 イネドロオイムシについては、両区で確認されなかった。 <p>以上より、展示薬剤は、初期害虫(イネミズゾウムシ)に対する防除効果は高く、苗立歩合は対照区と同等であることが示された。</p>		区	食害程度					被害度	E	D	C	B	A	展示(上)	22	3	0	0	0		展示(下)	23	2	0	0	0		平均	22.5	2.5	0	0	0	2.5	対照(上)	10	10	5	0	0		対照(下)	6	11	7	0	0		平均	8	10.5	6	0	0
区	食害程度					被害度																																																	
	E	D	C	B	A																																																		
展示(上)	22	3	0	0	0																																																		
展示(下)	23	2	0	0	0																																																		
平均	22.5	2.5	0	0	0	2.5																																																	
対照(上)	10	10	5	0	0																																																		
対照(下)	6	11	7	0	0																																																		
平均	8	10.5	6	0	0	22.5																																																	
評価	A	今後の問題点 特になし。																																																					

評価 A: 慣行より優る。 B: 慣行と同等(効果あり) C: 要再検討。 D: 判定不能。

作物名	水稻	対象病虫害 (効果) (被害)	いもち病、イネミズゾウムシ、ニカメイチュウ ほか	農薬名 剤 型	稲名人箱粒剤/ スタウトアレソ箱粒剤																		
農産普及課名	高島農業農村振興事務所農産普及課		担当者名	三木 幸次																			
設置場所	高島市安曇川町横江		農家名	梅村 廣毅																			
耕種概要	品 種： コシヒカリ 土 性： 壤土 は種又は定植： (移植) 5月24日 出 穂： 8月4日 開 花： ー 収 穫： 9月21日 施肥など： 緩効性肥料による全量基肥施用栽培 (側条施肥)																						
	展示区・対照区面積・(株数) など： 展示区 30 a、対照区 10 a 散布時期・濃度・薬量：																						
展 示	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>農 薬 名</th> <th>散布時期</th> <th>濃度/散布量</th> <th>散布方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示区</td> <td>稲名人箱粒剤/ スタウトアレソ箱粒剤</td> <td>移植当日 (5月24日)</td> <td>育苗箱1箱あたり 50 g</td> <td>育苗箱の上から均一 散布 (らくまきちゃん)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>対照区</td> <td>スタウトダントツ箱粒剤</td> <td>移植当日 (5月24日)</td> <td>育苗箱1箱あたり 50 g</td> <td>育苗箱の上から均一 散布 (らくまきちゃん)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考	展示区	稲名人箱粒剤/ スタウトアレソ箱粒剤	移植当日 (5月24日)	育苗箱1箱あたり 50 g	育苗箱の上から均一 散布 (らくまきちゃん)		対照区	スタウトダントツ箱粒剤	移植当日 (5月24日)	育苗箱1箱あたり 50 g	育苗箱の上から均一 散布 (らくまきちゃん)	
	区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考																	
展示区	稲名人箱粒剤/ スタウトアレソ箱粒剤	移植当日 (5月24日)	育苗箱1箱あたり 50 g	育苗箱の上から均一 散布 (らくまきちゃん)																			
対照区	スタウトダントツ箱粒剤	移植当日 (5月24日)	育苗箱1箱あたり 50 g	育苗箱の上から均一 散布 (らくまきちゃん)																			
方 法	調査方法：																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>調査対象</th> <th>調 査 方 法</th> <th>調査時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>いもち病</td> <td rowspan="6">各区につき2カ所。1カ所につき連続する50株について被害株数を調査 (計100株)</td> <td rowspan="2">【第1回】 6月21日 (+28日)</td> </tr> <tr> <td>イネミズゾウムシ</td> </tr> <tr> <td>イネドロオイムシ</td> </tr> <tr> <td>イナゴ類</td> <td rowspan="3">【第2回】 7月15日 (+52日)</td> </tr> <tr> <td>ニカメイチュウ</td> </tr> <tr> <td>コブノメイガ</td> </tr> <tr> <td>イネツトムシ</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>()内は移植後日数を示す。</p>					調査対象	調 査 方 法	調査時期	いもち病	各区につき2カ所。1カ所につき連続する50株について被害株数を調査 (計100株)	【第1回】 6月21日 (+28日)	イネミズゾウムシ	イネドロオイムシ	イナゴ類	【第2回】 7月15日 (+52日)	ニカメイチュウ	コブノメイガ	イネツトムシ					
調査対象	調 査 方 法	調査時期																					
いもち病	各区につき2カ所。1カ所につき連続する50株について被害株数を調査 (計100株)	【第1回】 6月21日 (+28日)																					
イネミズゾウムシ																							
イネドロオイムシ																							
イナゴ類		【第2回】 7月15日 (+52日)																					
ニカメイチュウ																							
コブノメイガ																							
イネツトムシ																							
農家の意見	(展示ほ及び周辺の病虫害発生状況、降雨等の状況)																						
	<ul style="list-style-type: none"> ・移植日以降、6月中旬にかけて気温は低く、日照時間も少なくなったため (平年比)、いもち病の感染に好適な日が見れたが、展示区、対照区を含め、この時点では地域全体におけるいもち病の目立った発生は見られなかった。 ・その後、7月上旬にかけて気温、日照時間も平年を上回ったが、その後は一転して、気温、日照時間も平年を下回り、併せて降水量が非常に多くなったことから、いもち病の発生が非常に多くなった。(7/19付：注意報発表) ・虫による被害については、特に問題となるようなものは見られなかった。 																						
農家の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・展示薬剤について、施用 (移植同時) に関する作業性については問題はなかった。 ・いもち病が展示区においてやや多く発生したが、収量 (実収) にほとんど差がなかったことから、効果面においても特に問題はない。 																						

普及上の意見	<p>・今回の展示では、展示区におけるいもち病の発生程度が対照区より高くなったが、これは両区間のほ場の地力差に起因する葉色の差（達観による観察、データなし）が大きな要因と考えられる。</p> <p>・本年は管内全域においていもち病が多く発生したこと、また対照区においてもある程度はいもち病の発生がみられたことから、上記の地力のほ場間差も併せて考慮し、展示薬剤の効果面における普及上の問題はない。</p>																																														
調査結果	<p>調査結果： (表中の数字は発病・被害株率：%)</p> <table border="1" data-bbox="264 477 1225 943"> <thead> <tr> <th rowspan="3">調査対象</th> <th colspan="2">【第1回】 6月21日 (+28日)</th> <th colspan="2">【第2回】 7月15日 (+52日)</th> </tr> <tr> <th>展示区</th> <th>対照区</th> <th>展示区</th> <th>対照区</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>いもち病</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>37</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>イネミズゾウムシ</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>イネドロオイムシ</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>イナゴ類</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>22</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>ニカメイチュウ</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コブノメイガ</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>イネツトムシ</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>・いもち病について、第1回調査時には両区とも発生はなかったが、6月中旬までにいもち病の感染に好適な日が多かったことから、第2回調査時には両区においていもち病が発生し、特に展示区において発生が多くなった。</p> <p>・展示区におけるいもち病の多発は、両区で使用した薬剤に含まれるいもち病に対する有効成分の種類、濃度が同じであることから、葉色が濃い状態であったことに起因するものと考えられる。(葉色は達観による観察。)</p> <p>・一方、虫による被害については、第2回調査時にイナゴ類によるものがみられたが、両区間に被害程度の差はほとんど認められず、その他の虫による被害については両区とも認められなかった。</p> <p>薬害： 発生なし</p>			調査対象	【第1回】 6月21日 (+28日)		【第2回】 7月15日 (+52日)		展示区	対照区	展示区	対照区	いもち病	0	0	37	8	イネミズゾウムシ	1	0	—	—	イネドロオイムシ	0	0	—	—	イナゴ類	1	3	22	24	ニカメイチュウ	—	—	0	0	コブノメイガ	—	—	0	0	イネツトムシ	—	—	0	0
調査対象	【第1回】 6月21日 (+28日)		【第2回】 7月15日 (+52日)																																												
	展示区	対照区	展示区		対照区																																										
	いもち病	0	0	37	8																																										
イネミズゾウムシ	1	0	—	—																																											
イネドロオイムシ	0	0	—	—																																											
イナゴ類	1	3	22	24																																											
ニカメイチュウ	—	—	0	0																																											
コブノメイガ	—	—	0	0																																											
イネツトムシ	—	—	0	0																																											
評価	B	今後の問題点	<p>・今後、懸念される問題点はない。</p>																																												

評価 A：慣行より優る。 B：慣行と同等（効果あり）。 C：再要検討。 D：判定不能。

殺菌殺虫剤成績書 番号：3

作物名	移植水稻	対象病虫害 (効果) (薬害)	穂いもち 紋枯病	農薬名 剤型	オリブライト250G 豆つぶ剤																	
農産普及課名	大津・南部農業農村振興事務所		担当者	山田 真寛																		
設置場所	野洲市吉川		農家名	(株)レイクスファーム																		
耕 種 概 要	品 種：コシヒカリ																					
	土 性：砂壤土																					
	は種又は定植 5月3日																					
	出 穂：7月24日																					
	開 花：-																					
展 示 方 法	収 穫：8月31日																					
	施肥など：地域慣行栽培に準ずる																					
	展示区・面積・(株数)など： 展示区 29.8a, 対照区 29.7a																					
	散布時期・濃度・薬量：																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>農 薬 名</th> <th>散布時期</th> <th>濃度/散布量</th> <th>散布方法</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示区</td> <td>オリブライト250G 豆つぶ剤</td> <td>7月16日</td> <td>250g/10a</td> <td>畦畔よりひしゃくの手振り</td> <td></td> </tr> <tr> <td>対照区</td> <td>モンカット粒剤 フジワン粒剤</td> <td>7月16日</td> <td>3～4kg/10a 3～5kg/10a</td> <td>背負式動力散布機による散布</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備 考	展示区	オリブライト250G 豆つぶ剤	7月16日	250g/10a	畦畔よりひしゃくの手振り		対照区	モンカット粒剤 フジワン粒剤	7月16日	3～4kg/10a 3～5kg/10a	背負式動力散布機による散布
区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備 考																	
展示区	オリブライト250G 豆つぶ剤	7月16日	250g/10a	畦畔よりひしゃくの手振り																		
対照区	モンカット粒剤 フジワン粒剤	7月16日	3～4kg/10a 3～5kg/10a	背負式動力散布機による散布																		
農 家 の 意 見	調査方法：																					
	<ul style="list-style-type: none"> いもち病 発生時期に両区ともほ場を2区画に分け、1区画25株、計50株で発病穂率を調査した。 紋枯病 両区ともほ場を3区画に分け、1区画100株、計300株の紋枯病発生株率を調査した。 																					
	<p>(展示ほ及び周辺の病虫害発生状況、降雨状況)</p> <p>滋賀県病虫害防除所よりいもち病の注意報が発令された。展示ほ周辺の病虫害発生状況は平年並～やや多い状況。</p>																					
農家の意見	毎年、紋枯病の被害に悩まされているが、今年は対照区と展示区ともに紋枯病が少ないように感じた。																					

普及上の意見	<p>展示区において紋枯病の発病株率は対照区と比べ多くなったものの、いもち病については対照区と同等の効果を示し、いもちに対する本剤の有効性が確認できた。</p>		
調査結果	表1. 穂いもち病調査結果		
	穂いもち(8/23)調査)		
	区分	発病穂率(%) (発病穂数/穂数)	穂首・枝梗 1/3 以上発生率 (%) (1/3 以上発病穂数/穂数)
	展示区(上)	0.5(3/597)	0.0(0/597)
	展示区(下)	0.6(3/531)	0.4(2/531)
	合計	0.5(6/1128)	0.2(2/1128)
	対照区(上)	0.8(6/726)	0.3(2/726)
	対照区(下)	0.1(1/762)	0.0(0/762)
	合計	0.5(7/1488)	0.1(2/1488)
	表2. 紋枯病調査結果		
区分	発病株率(%) (発病株数/株数)	区分	発病株率(%) (発病株数/株数)
上	46(46/100)	上	44(44/100)
展示区 中	39(39/100)	対照区 中	6(6/100)
下	69(69/100)	下	31(31/100)
合計	51(154/300)	合計	27(81/300)
<p>葉害；特に認められなかった。 結果および考察 ・穂いもちの発病穂率は展示区と対照区ともに0.5%であり、同程度の発生率であった。(表1) ・紋枯病については7月13日に両区とも初発を確認した。また、達観ではあるが、発生は展示区のほうが対照区と比べ、同程度からやや多く見られた。 結果として、初期の発生率に差が見られたこともあり、紋枯病の発生株率は展示区で51%と対照区27%と比べ高くなった。(表2)</p>			
評価	B	今後の問題点	特になし

評価 A：慣行より優る。B：慣行と同等（効果あり） C：要再検討。D：判定不能。

殺菌殺虫剤成績書 番号：4

作物名	大豆	対象病害虫 (効果) (薬害)	紫斑病	農薬名 剤 型	プランダム乳剤25																		
農産普及課名	農業技術振興センター		担当者	中橋 富久																			
設置場所	近江八幡市水茎町	農家名	(株) 近江園田ふぁーむ																				
耕 種 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・品種名：ことゆたかA1号 ・土性：壤土 ・播種日(播種様式)：7月25日(標準播種・条間70cm) ・収穫：11月28日 ・種子消毒：クルーザーMAXX ・施肥など：慣行に準ずる 																						
展 示 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・面積：展示区40a(対照区30a) ・散布時期・濃度・薬量・散布方法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区名</th> <th>薬剤名</th> <th>散布時期</th> <th>希釈倍数</th> <th>散布量</th> <th>散布方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示区</td> <td>プランダム乳剤25</td> <td>9月15日</td> <td>3000倍</td> <td>100L/10a</td> <td>ブームスプレーヤ</td> </tr> <tr> <td>対照区</td> <td>ベルコートフロアブル</td> <td>9月15日</td> <td>1000倍</td> <td>100L/10a</td> <td>ブームスプレーヤ</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・調査方法：収穫後 被害粒数/調査粒数(%) 					区名	薬剤名	散布時期	希釈倍数	散布量	散布方法	展示区	プランダム乳剤25	9月15日	3000倍	100L/10a	ブームスプレーヤ	対照区	ベルコートフロアブル	9月15日	1000倍	100L/10a	ブームスプレーヤ
区名	薬剤名	散布時期	希釈倍数	散布量	散布方法																		
展示区	プランダム乳剤25	9月15日	3000倍	100L/10a	ブームスプレーヤ																		
対照区	ベルコートフロアブル	9月15日	1000倍	100L/10a	ブームスプレーヤ																		
農 家 の 意 見	<ul style="list-style-type: none"> ・ビークル散布やドローン散布が可能な剤として使用できる。 																						

普及上の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・対照薬剤と同等の効果があり、新たなローテーション薬剤として活用できる。 																										
調査結果	<p>■降水量（彦根气象台） (mm)</p> <table border="1" data-bbox="300 506 1136 609"> <tr> <td>8月</td> <td>9月</td> <td>10月</td> </tr> <tr> <td>137.5 (170.0)</td> <td>167.0 (176.6)</td> <td>119.9 (156.7)</td> </tr> </table> <p>※（ ）は平年値（H24～R3の平均値）</p> <p>■紫斑粒調査の結果 (粒)</p> <table border="1" data-bbox="300 810 1295 1008"> <thead> <tr> <th>区名</th> <th>1回目</th> <th>2回目</th> <th>3回目</th> <th>4回目</th> <th>平均被害率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示区</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0.8%</td> </tr> <tr> <td>対照区</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※小粒以上（5.5 mm以上）の大豆を調査した。 ※計粒板で100粒を計数し被害粒を調査した。</p> <p>■考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月～10月の降水量（彦根气象台）は286.9mmと平年（333.3mm）より少なかった。 ・薬剤は規定量を散布することができた。 ・紫斑粒調査の結果、展示区は対照区と同程度であった。 ・大豆の薬害は認められなかった。 			8月	9月	10月	137.5 (170.0)	167.0 (176.6)	119.9 (156.7)	区名	1回目	2回目	3回目	4回目	平均被害率	展示区	1	0	1	1	0.8%	対照区	0	2	1	1	1.0%
8月	9月	10月																									
137.5 (170.0)	167.0 (176.6)	119.9 (156.7)																									
区名	1回目	2回目	3回目	4回目	平均被害率																						
展示区	1	0	1	1	0.8%																						
対照区	0	2	1	1	1.0%																						
評価	B	今後の問題点	特になし																								

評価 A：慣行より優る。 B：慣行と同等（効果あり）。 C：要再検討。 D：判定不能。

殺菌殺虫剤成績書 番号：5

作物名	大豆	対象病害虫 (効果) (薬害)	ハスモンヨトウ	農薬名 剤型	トルネードエース DF																		
農産普及課名	農業技術振興センター		担当者	中橋 富久																			
設置場所	近江八幡市水茎町		農家名	(株) 近江園田ふぁーむ																			
耕種概要	<ul style="list-style-type: none"> ・品種名：ことゆたかA1号 ・土性：壤土 ・播種日(様式)：7月25日(標準播種・条間70cm) ・収穫：11月28日 ・種子消毒：クルーザーMAXX ・施肥など：慣行に準ずる 																						
展示方法	<ul style="list-style-type: none"> ・面積：展示区40a(対照区30a) ・散布時期・濃度・薬量・散布方法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区名</th> <th>薬剤名</th> <th>散布時期</th> <th>希釈倍数</th> <th>使用液量</th> <th>散布方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示区</td> <td>トルネードエースDF</td> <td>9月22日</td> <td>2000倍</td> <td>100L/10a</td> <td>ブームスプレーヤ</td> </tr> <tr> <td>対照区</td> <td>トレボン乳剤</td> <td>9月22日</td> <td>1000倍</td> <td>100L/10a</td> <td>ブームスプレーヤ</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・調査方法：薬剤散布前 白変葉発生程度(株/a)を調査 散布6日後 食害程度5段階(無・少・中・多・甚)を達観調査 					区名	薬剤名	散布時期	希釈倍数	使用液量	散布方法	展示区	トルネードエースDF	9月22日	2000倍	100L/10a	ブームスプレーヤ	対照区	トレボン乳剤	9月22日	1000倍	100L/10a	ブームスプレーヤ
区名	薬剤名	散布時期	希釈倍数	使用液量	散布方法																		
展示区	トルネードエースDF	9月22日	2000倍	100L/10a	ブームスプレーヤ																		
対照区	トレボン乳剤	9月22日	1000倍	100L/10a	ブームスプレーヤ																		
農家の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ビークル散布とドローン散布が可能な剤として使用できる。 																						

普及上の意見

・対照薬剤と同等の効果があり、新たなローテーション薬剤として活用できる。

調査結果

■ 散布前調査（9月20日）

・白変葉発生程度（幼虫の群生株率）および食害程度

区名	白変葉発生程度（株/a）	食害程度
展示区	0.6	多（25～50%）
対照区	0.8	多（25～50%）

※若齢幼虫の群生と白変葉を確認した株を調査した。

■ 散布後調査（9月28日）

・新規の白変葉発生程度（幼虫の群生株率）および食害程度

区名	白変葉発生程度（株/a）	食害程度
展示区	0	無
対照区	0	無

※散布前調査で確認した若齢幼虫が群生した株は、幼虫の死亡が見られた。

■ 考察

- ・散布前調査では、若齢幼虫が群生した白変葉の発生程度は、展示区と対照区は同程度であった。
- ・薬剤散布は規定量を散布することができた。
- ・散布後の調査では新たな被害株は見られなかった。
- ・散布前の調査で確認した被害株の幼虫は、散布後の調査では死亡を確認し、新たな食害は見られなかった。
- ・大豆への葉害は認められなかった。

評価

B

今後の
問題点

特になし

評価 A：慣行より優る。B：慣行と同等（効果あり）。C：要再検討。D：判定不能。

作物名	キャベツ	対象病虫害 (効果) (薬害)	軟腐病	農薬名 剤 型	クプロシールド																		
農産普及課名	甲賀農業農村振興事務所農産普及課		担当者名	中村 祐貴																			
設置場所	湖南市岩根地先		農家名	ティアイケイ農産																			
耕種概要	<p>品種：展示区 りくと 対照区 C25 土性：壤土 播種又は定植：展示区 9月3日、4日 対照区 9月5日 出穂： 開花： 収穫：展示区 令和5年2月頃 対照区令和4年12月中旬予定 施肥など：中耕・追肥 9月28日</p>																						
展示方法	<p>展示区・対照区面積・(株数)など：展示区 30a、対照区 30a 散布時期・濃度・薬量：</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>農薬名</th> <th>散布時期</th> <th>濃度/散布量</th> <th>散布方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示区</td> <td>クプロシールド</td> <td>10月4日</td> <td>1000倍 150L/10a</td> <td>ビーグルによる散布</td> <td>ヨーバルフロアブルを混用して散布</td> </tr> <tr> <td>対照区</td> <td>Zボルドー</td> <td>10月4日</td> <td>500倍 150L/10a</td> <td>ビーグルによる散布</td> <td>プレバソンプロアブル5を混用して散布</td> </tr> </tbody> </table> <p>調査方法： 展示薬剤の散布前、散布翌日、散布8日後、14日後にそれぞれ100株について軟腐病、薬害・汚れの発生状況を調査した。</p> <p>(展示ほ及び周辺の病虫害発生状況、降雨等の状況)</p> <p>散布前： 9月19日台風14号通過、被害なし 9月29日 展示区、対象区とも軟腐病発生株無し</p> <p>散布後： 10月5日、7日、9日、10日、17日 降雨 10月14日 害虫および菌核病対策としてグレーシア乳剤およびスミレックス水和剤を混用散布</p>					区分	農薬名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考	展示区	クプロシールド	10月4日	1000倍 150L/10a	ビーグルによる散布	ヨーバルフロアブルを混用して散布	対照区	Zボルドー	10月4日	500倍 150L/10a	ビーグルによる散布	プレバソンプロアブル5を混用して散布
区分	農薬名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考																		
展示区	クプロシールド	10月4日	1000倍 150L/10a	ビーグルによる散布	ヨーバルフロアブルを混用して散布																		
対照区	Zボルドー	10月4日	500倍 150L/10a	ビーグルによる散布	プレバソンプロアブル5を混用して散布																		
農家の意見	<p>従来の銅剤と比較して、調整しやすく使いやすい。汚れも少なかった。</p>																						

普及上の意見

展示薬剤は、ハンドリングの良い銅剤であり薬害の発生も見られなかったことから、慣行薬剤に代わる予防剤として活用できる。

調査結果	展示薬剤 クプロシールド 対象 キャベツ 軟腐病						
	被害程度	無	少	中	多	甚	調査株数
	葉面積中の被害程度	0	10%未満	10~25%	25~50%	50%以上	
	散布前	9月29日	100				100
	散布翌日	10月5日	100				100
	1週間後	10月12日	100				100
	2週間後	10月18日	100				100
	収穫物の汚れ	なし					100
	農業展示は 令和4年度						
	対照薬剤 ズボルドー 対象 キャベツ 軟腐病						
	被害程度	無	少	中	多	甚	調査株数
	葉面積中の被害程度	0	10%未満	10~25%	25~50%	50%以上	
	散布前	9月29日	100				100
	散布翌日	10月5日	100				100
	1週間後	10月12日	100				100
	2週間後	10月18日	100				100



展示区 10/5(散布翌日)
汚れなし



対照区 10/5(散布翌日)
汚れあり (葉脈沿いに白い汚れ)

薬害：
展示剤の薬害は確認できなかった。
対照剤は散布翌日は葉に白い汚れを確認した。翌週の調査日以降、降雨等の影響もあり汚れは残らなかった。
以上により、展示薬剤は対象薬剤と比較して、対象病害の軟腐病に対して同等以上の防除効果があり、薬害・汚れが少ないことからA評価とした。

評価	A	今後の問題点	なし。
----	---	--------	-----

評価 A：慣行より優る。 B：慣行と同等（効果あり）。 C：再要検討。 D：判定不能。

殺菌殺虫剤成績書 番号：7

作物名	なし	対象病虫害 (効果) (薬害)	黒星病	農薬名 剤型	ミギワ20フロアブル	
農産普及課名	東近江農業農村振興事務所農産普及課		担当者	平田 隼也		
設置場所	東近江市百済寺本町		農家名	夏原 繁		
耕 種 概 要	栽培様式：	平棚栽培	施肥：			
	品 種：	幸水	2月	乾燥牛糞 苦土石灰		
	土 性：	粘質土		硫マグ、硫安、硫加里 ナチュラルコンブペレット		
	満 開：	幸水 4月15～16日	3月	オール14		
	収 穫：	幸水 8月14日～9月9日	5月	硫安		
			6月	硫マグ、硫安、硫加里		
展 示 方 法	展示区・面積・(株数)など： 展示区 17 a, 対照区 11 a					
	散布時期・濃度・薬量：					
	区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備 考
	展示区	ミギワ20フロアブル	4月22日	4000倍 300ℓ/10a	スピードスプレヤー	
	対照区	チオノックフロアブル	4月22日	500倍 300ℓ/10a	スピードスプレヤー	
	調査方法： 5月20日(散布後約4週間後)、6月9日(散布後約8週間後)に、各区葉100枚、幼果100果について被害程度を調査した。					
	展示ほ及び周辺の病虫害発生状況： 黒星病は微～少発生であり、昨年、一昨年の多発生と比較すると少ない。					
	降雨状況： 4～5月は適度な降雨があり、生育は順調に進んだ。6月の入梅以降は晴れ間が続き、7月～梅雨明けまでは降雨が増え、平年を大きく上回る降水量となった。					
農家の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・黒星病の多発は見られず、慣行と同等の効果が得られたと思っている。 ・新規有効成分ということで、薬剤の選択肢が増えるのは非常に良いこと。 ・薬剤抵抗性回避の観点から、ぜひローテーションに組み込みたい。 					

普及上の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・黒星病に対して、慣行薬剤と同等の効果が確認できた。 ・両区で黒星病の発生の多少に差は無かった。 ・黒星病については予防が基本となるため、耐雨性や残効性に優れた本剤をローテーションに組み込むことで、黒星病発生軽減につなげることができると思う。
--------	---

調査結果	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">供試薬剤</th> <th rowspan="2">使用条件</th> <th colspan="2">5月20日</th> <th colspan="2">6月9日</th> <th rowspan="2">葉害</th> </tr> <tr> <th>被害葉</th> <th>被害果</th> <th>被害葉</th> <th>被害果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ミギワ20フロアブル</td> <td>4000倍</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>チオノックフロアブル</td> <td>500倍</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>							供試薬剤	使用条件	5月20日		6月9日		葉害	被害葉	被害果	被害葉	被害果	ミギワ20フロアブル	4000倍	0	0	1	0	-	チオノックフロアブル	500倍	0	0	2	0	-
	供試薬剤	使用条件	5月20日		6月9日		葉害																									
			被害葉	被害果	被害葉	被害果																										
ミギワ20フロアブル	4000倍	0	0	1	0	-																										
チオノックフロアブル	500倍	0	0	2	0	-																										
<p>※調査品種：幸水</p> <p>※黒星病による被害葉、被害果の数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両区で黒星病の発生に差は無かった。 <p>葉害：なし</p>																																

評価	B	今後の問題点	特になし
----	---	--------	------

評価 A：慣行より優る。 B：慣行と同等（効果あり） C：要再検討。 D：判定不能。

殺菌殺虫剤成績書 番号：8

作物名	茶	対象病虫害 (効果) (薬害)	炭疽病	農薬名 剤 型	ミギワ20フロアブル																		
農産普及課名	甲賀農産普及課		担当者名	竹若 与志一																			
設置場所	甲賀市信楽町上朝宮椋谷		農家名	北田 卓也																			
耕 種 概 要	品 種： やぶきた 土 性： 褐色森林土 は種又は定植： 月 日 出 穂： 開 花： 収 穫： 一番茶5月7日～、二番茶6月25日～ 施肥など： 地域慣行に準ずる																						
	展示区・対照区面積・(株数) など： 展示区 30 a、対照区 20 a 散布時期・濃度・薬量：																						
展 示 方 法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>農 薬 名</th> <th>散布時期</th> <th>濃度/散布量</th> <th>散布方法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示区</td> <td>ミギワ20フロアブル</td> <td>8月19日</td> <td>2000倍 200L/10a</td> <td>動力噴霧機による散布</td> <td></td> </tr> <tr> <td>対照区</td> <td>アミスター20フロアブル</td> <td>8月19日</td> <td>2000倍 200L/10a</td> <td>動力噴霧機による散布</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考	展示区	ミギワ20フロアブル	8月19日	2000倍 200L/10a	動力噴霧機による散布		対照区	アミスター20フロアブル	8月19日	2000倍 200L/10a	動力噴霧機による散布	
	区 分	農 薬 名	散布時期	濃度/散布量	散布方法	備考																	
展示区	ミギワ20フロアブル	8月19日	2000倍 200L/10a	動力噴霧機による散布																			
対照区	アミスター20フロアブル	8月19日	2000倍 200L/10a	動力噴霧機による散布																			
調査方法： 散布後14日(9/2)と、24日後(9/12)に25cm×50cmの調査枠内の病葉数を展示区、 対照区各4ヵ所ずつ計測し、その平均値を8倍することで㎡あたりの発病葉数に換算して 防除効果を判定する。 (展示ほ及び周辺の病虫害発生状況、降雨等の状況) 8月は第1半旬や第4半旬にまとまった降雨があったため、8月中旬以降に炭疽病やもち病などの 病害発生量が増加した。																							
農家の意見	慣行剤よりよく効いて有効と感じた。 朝宮では米国や、台湾等への輸出を想定した病虫害の防除が問屋から 求められているので、早急に輸出に対応できる農薬にしてほしい。																						

普及上の意見	<p>慣行剤より炭疽病の防除効果が認められ、今後有望な薬剤であると思われた。</p> <p>茶の殺菌剤は、特に輸出に対応できる薬剤が少なく、既存剤と異なる系統の薬剤が求められているので、早急に海外輸出に対応できる薬剤として使用できることを望む。</p>																				
調査結果	<p>表 炭疽病調査結果</p> <table border="1" data-bbox="272 472 839 819"> <thead> <tr> <th>区名</th> <th>調査日 (月/日)</th> <th>発病葉数 (枚/m²)</th> <th>発生程度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">展示区</td> <td>散布14日後 (9/2)</td> <td>10</td> <td>少</td> </tr> <tr> <td>散布24日後 (9/12)</td> <td>22</td> <td>少</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">対照区</td> <td>散布14日後 (9/2)</td> <td>24</td> <td>少</td> </tr> <tr> <td>散布24日後 (9/12)</td> <td>72</td> <td>中</td> </tr> </tbody> </table> <p>※発生程度は発病葉数に応じた（無～甚）の5段階。</p> <p><結果および考察></p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示区が対照区より発病葉数の発生を抑えることができた（表）。 <p>薬害： 特になし</p> <p>以上のことより、展示薬剤は薬害等の問題はみられず、対象病害の炭疽病に対して対照薬剤以上の防除効果があった。</p>			区名	調査日 (月/日)	発病葉数 (枚/m ²)	発生程度	展示区	散布14日後 (9/2)	10	少	散布24日後 (9/12)	22	少	対照区	散布14日後 (9/2)	24	少	散布24日後 (9/12)	72	中
区名	調査日 (月/日)	発病葉数 (枚/m ²)	発生程度																		
展示区	散布14日後 (9/2)	10	少																		
	散布24日後 (9/12)	22	少																		
対照区	散布14日後 (9/2)	24	少																		
	散布24日後 (9/12)	72	中																		
評価	A	今後の問題点	特になし																		

評価 A：慣行より優る。 B：慣行と同等（効果あり）。 C：再要検討。 D：判定不能。

令和4年度 除草剤展示ほ(技術確認圃) 設置一覧表

剤の番号	商品名	処理方法	試験のねらい 薬剤の特徴など	委託会社名	設置場所(設置No.)							
					大津南部	甲賀	東近江	湖東	湖北	高島	革新	
1	アカツキジャンボ	水稲 一発処理	一発処理剤(移植後3日～ノビエ3葉期処理)としての技術実証	(*クミアイ化学工業)	● No.10 A	● No.11 A						
2	アカツキ豆つぶ250	水稲 一発処理	一発処理剤(移植後3日～ノビエ3葉期処理)としての技術実証	(*クミアイ化学工業)								● No.12 A
3	アカツキフロアブル	水稲 一発処理	一発処理剤(移植後3日～ノビエ3葉期処理)としての技術実証	(*クミアイ化学工業)					● No.13 A			
4	アカツキ1キロ粒剤	水稲 一発処理	一発処理剤(移植時、移植直後～ノビエ3葉期処理)としての技術実証	(*クミアイ化学工業)						● No.14 A		
5	イネリーグジャンボ	水稲 一発処理	一発処理剤(移植直後～ノビエ3葉期)としての技術実証	(*バイエルクロップサイエンス)	● No.15 A		● No.16 A					
6	サキガケ薬粒	水稲 一発処理	一発処理剤(移植直後からノビエ2.5葉期まで)としての技術実証	(*北興化学工業)	● No.17 —		● No.18 —		● No.19 A			
7	サラブレットGOジャンボ	水稲 一発処理	一発処理剤(移植直後～ノビエ2.5葉期まで)としての技術実証。	(*協友アグリ)	● No.20 A							
8	サラブレットGO400FG	水稲 一発処理	一発処理剤(移植直後～ノビエ2.5葉期まで)としての技術実証。	(*協友アグリ)								● No.21 A
9	サラブレットGO1キロ粒剤	水稲 一発処理	一発処理剤(移植時～ノビエ2.5葉期まで)としての技術実証。	(*協友アグリ)							● No.22 A	
10	ハットウZジャンボ	水稲 一発処理	一発処理剤(移植後3日からノビエ3葉期まで)としての技術実証	(*住友化学)		● No.23 A	● No.24 A	● No.25 A				
11	ハットウZ1キロ粒剤 田植同時処理	水稲 一発処理	田植同時処理での技術実証	(*住友化学)							● No.26 A	
12	ワザアリ薬粒	水稲 一発処理	一発処理剤(移植直後からノビエ3葉期まで)としての技術実証	(*北興化学工業)	● No.27 —		● No.28 A					
13	ウイトコア1キロ粒剤	水稲 体系処理 中・後期	中後期剤(移植後7日～ノビエ4葉期)としての技術実証	(*ダウ・アグロサイエンス日本 北興化学工業 日本農業)								● No.29 A
14	ハイスコープ/ルナクロス 1キロ粒剤	水稲 体系処理 中・後期	・中後期剤としての技術実証 ・ALS阻害剤抵抗性雑草(ホタルイ、オモダカ、コナギ等)への効果の確認 ・イボクサ、クサネム等の特殊一年生雑草への効果の確認	(*三井化学アグロ 北興化学工業)								● No.30 A

令和3年度未了分 水稲 直播 除草剤(令和3年度 湖東 設置No.16)

剤の番号	商品名	処理方法	試験のねらい 薬剤の特徴など	委託会社名	設置場所(設置No.)							
					大津南部	甲賀	東近江	湖東	湖北	高島	革新	
16	ロイヤント乳剤	水稲 直播栽培	直播栽培への普及性の確認	(*ダウ・アグロサイエンス日本 クミアイ化学工業)				● No.33 A				

A: 除草効果・薬害の面で普及上特に問題はない。 B: 普及にあたって更に検討する必要がある。 —: その他(天候の急変、圃場管理の不備、誤処理等、特別な理由により判定できない場合)

No.10 (移植)
 薬剤名 アカツキジャンボ
 県名 滋賀県

作物 移植水稻 区分 一発処理
 実施場所 大津・南部農産普及課(草津市下笠町)
 農家名 杉江善博 担当者名 池田 二郎

土質土性 埴壤土(CL) 品種 山田錦 植代日 2022年5月23日
 減水深 2cm/日 作期 普通期 移植日 2022年5月24日
 標高 85m 栽培方法 稚苗機械移植 移植苗草丈・葉齢 約13~15cm、3L

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況
						雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃 (30a)	処理 1回目	アカツキジャンボ 10個(250g)	6月2日 (+9)	畦畔から投入 約4cm	3.0L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行 (30a)	処理 1回目	カウシルコンプリートジャンボ 10個(300g)	6月2日 (+9)	畦畔から投入 約4cm	3.0L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果(残草量: 生体重 (g/m ²))						雑草調査日: 7月4日 (+41)				被害		評点	
	ノビ エ	カヤツ グサ 類	一年生広葉			ホタ ルイ	多年生雑草				総計 下段()は慣行区比	症状・程度		収量比 対慣行
確認圃	0	0				0					0 (0%)	無	100%	A
慣行	0	0				0					0 (100%)	無	100%	

無処理区での発生雑草(発生程度):
 ホタルイ(少発生)、アゼナ(少発生)
 備考(特記事項等):
 散布時間:10分、散布人数:1名
 農家コメント:今までの除草剤と比べても効果は問題ない。

No.11 (移植)
 薬剤名 アカツキジャンボ
 県名 滋賀県

作物 移植水稻 区分 一発処理
 実施場所 甲賀農産普及課(湖南市岩根)
 農家名 (有)ティアイケイ農産 担当者名 下川 陽一

土質土性 壤土 品種 山田錦 植代日 令和4年5月11日
 減水深 1.5cm/日 作期 普通期 移植日 令和4年5月13日
 標高 134m 栽培方法 稚苗機械移植 移植苗草丈・葉齢 18cm 2.7L

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況
						雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃 (30a)	処理 1回目	アカツキジャンボ 10個(250g)	5月16日 (+3)	畦畔から投入 5cm	2.9L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行 (30a)	処理 1回目	アツパレZジャンボ 10個(400g)	5月16日 (+3)	畦畔から投入 5cm	2.9L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果(残草量: 生体重 (g/m ²))						雑草調査日: 6月24日 (+42)				被害		評点		
	ノビ エ	カヤツ グサ 類	コナ ギ	一年生広葉			ホタ ルイ	多年生雑草				総計 下段()は慣行区比		症状・程度	収量比 対慣行
確認圃	0	0	0				9.8					9.8 (39%)	無	100%	A
慣行	0	0	0				25.0					25.0 (100%)	無	100%	

無処理区での発生雑草(発生程度):
 ノビエ(615g/m²)、ホタルイ(90g/m²)、コナギ(104g/m²)
 備考(特記事項等):
 散布準備時間:約5分、散布時間:約5~10分/30a、散布人数:1人
 入水口付近を中心にホタルイ、一部コナギが散見された。慣行区は、ホタルイの発生が多かった。

A:除草効果・被害の面で普及上特に関心はない。B:普及にあたって更に検討する必要がある。-:その他(天候の急変、圃場管理の不備、誤処理等、特別な理由により判定できない場合)

No.12 (移植)

薬剤名 アカツキ豆つぶ250 作物 移植水稻 区分 一発処理
 県名 滋賀県 実施場所 近江八幡市加茂町
 農家名 岡田 宗一 担当者名 中橋 富久
 土質土性 埴壤土 品種 ゆめおうみ 植代日 2022年5月3日
 減水深 1.0cm/日以下 作期 早植栽培 移植日 2022年5月6日
 標高 栽培方法 稚苗機械移植 移植苗草丈・葉齢 11.3cm、2.3L

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況	
						雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)	
確認圃 (30a)	処理 1回目	アカツキ豆つぶ250 250g/10a	5月16日 (+10)	畦畔から散布 水深5cm	2.5L	未発生	
	処理 2回目						
	処理 3回目						
慣行 (30a)	処理 1回目	ガツントZジャンボ 小包装10個(200g)/10a	5月16日 (+10)	畦畔から投入 水深5cm	2.5L	未発生	
	処理 2回目						
	処理 3回目						

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))										雑草調査日: 6月20日 (+45)		薬害		評点
	ノビ エ	カヤツ グサ 類	アゼ ナ	一年生広葉				ホタ ルイ	多年生雑草			総計 下段0は慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行	
確認圃	0	-	0					1.2				1.2 (18%)	無	100%	A
慣行	0	-	0					6.6				6.6 (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草(発生程度): ヒエ(少)、アゼナ(少)、ホタルイ(多) 処理時の状況及び所感特記事項等含む: ○移植後の活着は良好であった。処理時は圃場四隅に薬が若干見られたが、効果に影響は見られなかった。 ○除草剤処理後は降雨が少なく、一週間以上の止水管理を行った。 ○農家コメント: 確認圃は良く効いている。														

No.13 (移植)

薬剤名 アカツキフロアブル 作物 移植水稻 区分 一発処理
 県名 滋賀県 実施場所 湖北農産普及課(長浜市益田町)
 農家名 前田 和宏 担当者名 寺園 康弘
 土質土性 壤土 品種 コシヒカリ 植代日 令和4年5月14日
 減水深 0.5~1 cm/日 作期 普通期 移植日 令和4年5月18日
 標高 栽培方法 稚苗機械移植 移植苗草丈・葉齢 14.8 cm、2.0 葉

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況	
						雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)	
確認圃 (26.6 a)	処理 1回目	アカツキフロアブル 500 ml/10 a	5月21日 (+3)	畦畔から手振り 4cm	2.0 L	未発生	
	処理 2回目						
	処理 3回目						
慣行 (34.8 a)	処理 1回目	天空1キロ粒剤 1 kg/10 a	5月18日 (±0)	田植同時 0cm→5cm	2.0 L	未発生	
	処理 2回目						
	処理 3回目						

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))										雑草調査日: 6月24日 (+37)		薬害		評点	
	ノビ エ	カヤツ グサ 類	アゼ ナ	コナ ギ	一年生広葉				オモタ カ	多年生雑草			総計 下段0は慣行区比	症状・程度		収量比 対慣行
確認圃	0	0	0	0.02						0			0.02 (1.5%)	無	100%	A
慣行	0	0	0.04	0						1.29			1.33 (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草(発生程度): コナギ、カヤツリグサ類、アゼナ、ノビエ、タデ類 備考(特記事項等): 水管理状況; 移植後、6月16日に落水、6月18日に入水。6月25日に落水(中干し)。6月30日再入水。 準備時間0分、散布時間30分、散布人数1人。															

A: 除草効果・薬害の面で普及上特に問題はない。B: 普及にあたって更に検討する必要がある。-: その他(天候の急変、圃場管理の不備、誤処理等、特別な理由により判定できない場合)

No.14 (移植)
 薬剤名 アカツキ1キロ粒剤 作物 移植水稻 区分 一発処理
 県名 滋賀県 実施場所 高島農産普及課(高島市安曇川町横江字東海渡)
 農家名 梅村 廣毅 担当者名 三木 幸次
 土質土性 壤土 品種 コシヒカリ 植代日 2022年5月22日
 減水深 1cm/日 作期 早植栽培 移植日 2022年5月24日
 標高 85m 栽培方法 稚苗機械移植 移植苗草丈・葉齢 18.0cm・2.5L

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況	
						雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)	
確認圃 (30a)	処理 1回目	アカツキ1キロ粒剤 1kg/10a	5月24日 (±0)	田植同時 0cm→5cm	2.5L	未発生	
	処理 2回目						
	処理 3回目						
慣行 (10a)	処理 1回目	カウンシルコンブリートジャンボ 小包装10個(300g)/10a	5月29日 (+5)	畦畔から投入 5cm	2.5L	未発生	
	処理 2回目						
	処理 3回目						

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))						雑草調査日: 7月15日 (+52日)			薬害		評点	
	ノビエ	カヤツグサ類	一年生広葉			ホタルイ	多年生雑草			総計 下段0は慣行区比	症状・程度		収量比 対慣行
確認圃	0	0				0				0 (100%)	無	100%	A
慣行	0	0				0				0 -	無	100%	-

無処理区での発生雑草(発生程度):
 ノビエ、ホタルイ、イボクサ、オモダカ、セリ(いずれも「微」)
 備考(特記事項等):
 特になし

A:除草効果・薬害の面で普及上特に問題はない。B:普及にあたって更に検討する必要がある。-:その他(天候の急変、圃場管理の不備、誤処理等、特別な理由により判定できない場合)

No.15 (移植)
 薬剤名 イネリーグジャンボ 作物 移植水稻 区分 一発処理
 県名 滋賀県 実施場所 大津・南部農産普及課(草津市下笠町)
 農家名 杉江善博 担当者名 池田 二郎
 土質土性 埴壤土(CL) 品種 山田錦 植代日 2022年5月23日
 減水深 2cm/日 作期 普通期 移植日 2022年5月24日
 標高 85m 栽培方法 稚苗機械移植 移植苗草丈・葉齢 約13~15cm、3L

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況	
						雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)	
確認圃 (30 a)	処理 1回目	イネリーグジャンボ 10個(400g)	6月2日 (+9)	畦畔から投入 約4cm	3. 0L	ヒエ(草丈20cm)が一部で多発生	
	処理 2回目						
	処理 3回目						
慣行 (30 a)	処理 1回目	カウンシルコンブリートジャンボ 10個(300g)	6月2日 (+9)	畦畔から投入 約4cm	3. 0L	未発生	
	処理 2回目						
	処理 3回目						

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))						雑草調査日: 7月4日 (+41)			薬害		評点	
	ノビエ	カヤツグサ類	一年生広葉			ホタルイ	多年生雑草			総計 下段0は慣行区比	症状・程度		収量比 対慣行
確認圃	0	0				0				0 (0%)	無	100%	A
慣行	0	0				0				0 (100%)	無	100%	

無処理区での発生雑草(発生程度):
 ヒエ(少発生)ホタルイ(多発生)、アゼナ(少発生)
 備考(特記事項等):
 散布時間:10分、散布人数:1名
 確認圃の一部で栽培者の耕起作業時のミス(未耕起部分の発生)と代掻き時のミス(代掻き時の雑草埋没が不十分)により移植時に既にヒエが発生していたため、その部分を除いて雑草調査を行った。その結果、雑草抑制は高く、除草効果が見られた。
 農家コメント:作業ミスで雑草を残してしまったが、それ以外の雑草は発生しておらず今までの除草剤と比べても効果は問題ない。

No.16 (移植)

薬剤名 イネリーグジャンボ
 県名 滋賀県

作物 移植水稻 区分 一発処理
 実施場所 東近江農産普及課(東近江市北清水町丹井500)
 農家名 (農)稲田ファミリー 担当者名 清水 茜

土質土性 細粒質普通低地水田土
 減水深 2 cm
 標高 117 cm

品種 コシヒカリ 植代日 令和4年5月4日
 作期 早期 移植日 令和4年5月7日
 栽培方法 稚苗機械移植 移植苗草丈・葉齢 12.7cm, 2.4葉

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況
						雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
(28 a)	処理 1回目	イネリーグジャンボ 小包装(パック)10個(400g)/10a	5月14日 (+7)	畦畔から投入 5cm	2.7L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
(27a)	処理 1回目	ジェイフレンドジャンボ 小包装(パック)10個(400g)/10a	5月14日 (+7)	畦畔から投入 5cm	2.7L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))							雑草調査日: 2022/6/8(+32)			薬害		評点
	ノビエ	カヤツリグサ類	アゼナ	タデ	一年生広葉	ホタルイ	多年生雑草	合計 下段()は慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行			
確認圃	0.36		t	0		0.23		0.59 (38%)	なし	100%	A		
慣行	t		t	t		1.55		1.55 (100%)	なし	100%			

無処理区での発生雑草(発生程度)
 ノビエ 1.19g、アゼナ 0.69g、ホタルイ 0.08g

備考(特記事項等):
 ○散布準備時間:1分、散布時間:5分、散布人数:2人
 ○水持ちのやや悪いほ場での試験となり、ほ場の高い箇所では残草が認められたが、慣行と同等の効果があつた。

No.17 (移植)

薬剤名 サキガケ楽粒
 県名 滋賀県

作物 移植水稻 区分 一発処理
 実施場所 大津・南部農産普及課(栗東市六地藏)
 農家名 (農)梅ノ木ファーム栗東 担当者名 山田 真寛

土質土性 埴壤土(CL)
 減水深 1cm/日
 標高 111.4m

品種 あきだわら 植代日 2022年5月13日
 作期 普通期 移植日 2022年5月16日
 栽培方法 稚苗機械移植 移植苗草丈・葉齢 10~15 cm、2~3L

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況
						雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
(66.7 a)	処理 1回目	サキガケ楽粒 250g	5月18日 (+2)	畦畔から投入 6~7 cm	(活着期)	1~2Lのノビエが中~多発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
(44a)	処理 1回目	アツパレZ1キロ粒剤 1kg	5月15日 (±0)	田植同時 1~2cm	(活着期)	1~2Lのノビエが中~多発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))							7月1日 (+46日)			薬害		評点
	ノビエ	クサネム	アゼナ	イヌタデ	一年生広葉	多年生雑草	合計 下段()は慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行				
確認圃	521.4	0	0	0			521.4 (585%)	無	100%	-			
慣行	87.2	0.4	0	1.6			89.2 (100%)	無	100%	-			

無処理区での発生雑草(発生程度): ノビエ(多発生)、タマガヤツリ、アゼナ(少発生)

備考(特記事項等):
 確認圃において散布前四隅に浮遊物が確認されており、拡散性について心配されたが、ノビエを除くその他草種の発生は確認できず、一定抑草効果は確認できた。
 ただ、ヒエについては本剤散布前にはほ場内で多発生しており、本剤の有効性を正確に確認することはできなかった。このため、適正なほ場において再度検討する必要がある。

No.18 (移植)
 薬剤名 サキガケ楽粒 作物 移植水稻 区分 一発処理
 県名 滋賀県 実施場所 東近江農産普及課(東近江市北清水町丹井502)
 農家名 (農)稲田ファミリー 担当者名 清水 茜
 土質土性 細粒質普通低地水田土 品種 コシヒカリ 植代日 令和4年5月4日
 減水深 2.5 cm 作期 早植栽培 移植日 令和4年5月7日
 標高 117 m 栽培方法 稚苗機械移植 移植苗草丈・葉齢 12.7 cm, 2.4 葉

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃 (35 a)	処理 1回目	サキガケ楽粒 250g/10a	5月14日 (+7)	畦畔から投入 5cm	2.7L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行 (27a)	処理 1回目	ジェイフレンドジャンボ 小包装(パック)10個(400g)/10a	5月14日 (+7)	畦畔から投入 5cm	2.7L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))										雑草調査日: 2022/6/8(+25)		薬害		評点
	ノビ エ	カヤツ リグサ 類	アゼ ナ	一年生広葉			ホタ ルイ	多年生雑草			総計 下段0は慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行		
確認圃	0		0	t			5.36				5.36 (346%)	なし	100%	-	
慣行	t		t	t			1.55				1.55 (100%)	なし	100%		

無処理区での発生雑草(発生程度)
 ホタルイ 7.45g、コナギ 7.91g、アゼナ 4.68g、ヒエ 2.15g、カヤツリ 0.45g、タデ 0.36g
 備考(特記事項等):
 ○散布準備時間:1分、散布時間:5分、散布人数:2人
 ○確認圃は水持ちの悪いほ場での試験となり、除草剤処理後の湛水期間が確保できず、ホタルイなどの残草が認められた。そのため除草剤の効果が判断できなかったため、適した条件のほ場において、再度検討する必要がある。

No.19 (移植)
 薬剤名 サキガケ楽粒 作物 移植水稻 区分 一発処理
 県名 滋賀県 実施場所 湖北農産普及課(長浜市益田町)
 農家名 前田 和宏 担当者名 寺園 康弘
 土質土性 壤土 品種 コシヒカリ 植代日 令和4年5月14日
 減水深 0.5~1 cm/日 作期 普通期 移植日 令和4年5月18日
 標高 栽培方法 稚苗機械移植 移植苗草丈・葉齢 15.3 cm, 2.0 葉

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃 (26.6 a)	処理 1回目	サキガケ楽粒 250 g/10 a	5月19日 (+1)	畦畔から手振り(2辺) 4cm	2.0 L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行 (34.8 a)	処理 1回目	天空1キロ粒剤 1 kg/10 a	5月18日 (±0)	田植同時 0cm→5cm	2.0 L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))										雑草調査日: 6月24日 (+37)		薬害		評点
	ノビ エ	カヤツ リグサ 類	アゼ ナ	一年生広葉			オモ タカ	多年生雑草			総計 下段0は慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行		
確認圃	0.5	0	0.20					0			0.70 (53%)	無	100%	A	
慣行	0	0	0.04					1.29			1.33 (100%)	無	100%		

無処理区での発生雑草(発生程度):
 カヤツリグサ類、コナギ、アゼナ類、ノビエ、タデ類
 備考(特記事項等):
 水管理状況:移植後、6月16日に落水、6月18日に入水。6月25日に落水(中干し)。6月30日再入水。
 準備時間0分、散布時間4分(ほ場の2辺分)、散布人数1人。

A:除草効果・薬害の面で普及上特に問題はない。B:普及にあたって更に検討する必要がある。-:その他(天候の急変、圃場管理の不備、誤処理等、特別な理由により判定できない場合)

No.20 (移植)
 薬剤名 サラブレッドGO ジャンボ 作物 移植水稻 区分 一発処理
 県名 滋賀県 実施場所 大津・南部農産普及課(草津市下笠町) 農家名 杉江善博 担当者名 池田 二郎
 土質土性 埴壤土(CL) 品種 山田錦 植代日 2022年5月23日
 減水深 2cm/日 作期 普通期 移植日 2022年5月24日
 標高 85m 栽培方法 稚苗機械移植 移植苗草丈・葉齢 約13~15cm、3L

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況	
						雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)	
確認圃 (30a)	処理 1回目	サラブレッドGO ジャンボ 10個(400g)	6月2日 (+9)	畦畔から投入 約4cm	3.0L	未発生	
	処理 2回目						
	処理 3回目						
慣行 (30a)	処理 1回目	カウンシルコンプリートジャンボ 10個(300g)	6月2日 (+9)	畦畔から投入 約4cm	3.0L	未発生	
	処理 2回目						
	処理 3回目						

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))							雑草調査日: 7月4日 (+41)		薬害		評点	
	ノビ エ	カヤツ グサ 類	一年生広葉			ホタ ルイ	多年生雑草			総計 下段0は慣行区比	症状・程度		収量比 対慣行
確認圃	0	0				0				0 (0%)	無	100%	A
慣行	0	0				0				0 (100%)	無	100%	

無処理区での発生雑草(発生程度):
アゼナ(少発生)

備考(特記事項等):
散布時間:10分、散布人数:1名

No.21 (移植)
 薬剤名 サラブレッドGO400FG 作物 移植水稻 区分 一発処理
 県名 滋賀県 実施場所 近江八幡市加茂町 農家名 岡田 宗一 担当者名 中橋 富久
 土質土性 埴壤土 品種 ゆめおうみ 植代日 2022年5月4日
 減水深 1.0cm/日以下 作期 早植栽培 移植日 2022年5月6日
 標高 栽培方法 稚苗機械移植 移植苗草丈・葉齢 11.3cm、2.3L

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況	
						雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)	
確認圃 (30a)	処理 1回目	サラブレッドGO400FG 400g/10a	5月16日 (+10)	畦畔から散布 水深5cm	2.5L	未発生	
	処理 2回目						
	処理 3回目						
慣行 (30a)	処理 1回目	ガソントZジャンボ 小包装10個(200g)/10a	5月16日 (+10)	畦畔から投入 水深5cm	2.5L	未発生	
	処理 2回目						
	処理 3回目						

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))							雑草調査日: 6月20日 (+45)		薬害		評点	
	ノビ エ	カヤツ グサ 類	アゼ ナ	一年生広葉			ホタ ルイ	多年生雑草			総計 下段0は慣行区比		症状・程度
確認圃	0	0	0				1.0			1.0 (15%)	無	100%	A
慣行	0	0	0				6.6			6.6 (100%)	無	100%	

無処理区での発生雑草(発生程度):
ヒエ(少)、アゼナ(少)、ホタルイ(多)、タマガヤツリ(少)

処理時の状況及び所感特記事項等含む):
 ○移植後の活着は良好であった。処理時は圃場四隅に薬が若干見られたが、効果に影響は見られなかった。
 ○除草剤処理後は降雨が少なく、一週間以上の止水管理を行った。
 ○農家コメント:確認圃は良く効いている。

No.22 (移植)
 薬剤名 サラブレットGO1キロ粒剤 作物 移植水稻 区分 一発処理
 県名 滋賀県 実施場所 高島農産普及課(高島市安曇川町横江字東海渡)
 農家名 梅村 廣毅 担当者名 三木 幸次
 土質土性 壤土 品種 コシヒカリ 植代日 2022年5月22日
 減水深 1cm/日 作期 早植栽培 移植日 2022年5月24日
 標高 85m 栽培方法 稚苗機械移植 移植苗草丈・葉齢 18.0cm・2.5L

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況	
						雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)	
確認圃 (30a)	処理 1回目	サラブレットGO1キロ粒剤 1kg/10a	5月24日 (±0)	田植同時 0cm→5cm	2.5L	未発生	
	処理 2回目						
	処理 3回目						
慣行 (10a)	処理 1回目	カウンシルコンプリートジャンボ 小包装10個(300g)/10a	5月29日 (+5)	畦畔から投入 5cm	2.5L	未発生	
	処理 2回目						
	処理 3回目						

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))							雑草調査日: 7月15日 (+52日)		薬害		評点	
	ノビエ	カヤツリ グサ類	一年生広葉			ホタルイ	多年生雑草			総計 下段0は慣行区比	症状・程度		収量比 対慣行
確認圃	0	0				0				0 (100%)	無	100%	A
慣行	0	0				0				0 -	無	100%	-

無処理区での発生雑草(発生程度):
 ヒエ、ホタルイ、イボクサ、オモダカ、セリ(いずれも「微」)
 備考(特記事項等):
 特になし

A:除草効果・薬害の面で普及上特に問題はない。B:普及にあたって更に検討する必要がある。-:その他(天候の急変、圃場管理の不備、誤処理等、特別な理由により判定できない場合)

No.23 (移植)
 薬剤名 バットウZジャンボ 作物 移植水稻 区分 一発処理
 県名 滋賀県 実施場所 甲賀農産普及課(湖南市岩根)
 農家名 (有)ティアイケイ農産 担当者名 下川 陽一
 土質土性 壤土 品種 山田錦 植代日 令和4年5月11日
 減水深 1.5cm/日 作期 普通期 移植日 令和4年5月13日
 標高 134m 栽培方法 稚苗機械移植 移植苗草丈・葉齢 18cm 2.7L

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況	
						雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)	
確認圃 (30a)	処理 1回目	バットウZジャンボ 10個(400g)	5月16日 (+3)	畦畔から投入 5cm	2.9L	未発生	
	処理 2回目						
	処理 3回目						
慣行 (30a)	処理 1回目	アツパレZジャンボ 10個(400g)	5月16日 (+3)	畦畔から投入 5cm	2.9L	未発生	
	処理 2回目						
	処理 3回目						

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))							雑草調査日: 6月24日 (+42)		薬害		評点		
	ノビエ	カヤツリ グサ類	コナギ	一年生広葉			ホタルイ	多年生雑草			総計 下段0は慣行区比		症状・程度	収量比 対慣行
確認圃	0	0	0				3.5				3.5 (14%)	無	100%	A
慣行	0	0	0				25.0				25.0 (100%)	無	100%	

無処理区での発生雑草(発生程度):
 ノビエ(615g/m²)、ホタルイ(90g/m²)、コナギ(104g/m²)
 備考(特記事項等):
 散布準備時間:約5分、散布時間:約5~10分/30a、散布人数:1人
 入水口付近を中心にホタルイ、一部コナギが散見された。慣行区は、ホタルイの発生が多かった。

A:除草効果・薬害の面で普及上特に問題はない。B:普及にあたって更に検討する必要がある。-:その他(天候の急変、圃場管理の不備、誤処理等、特別な理由により判定できない場合)

No.24 (移植)

薬剤名 バットウZジャンボ 作物 移植水稻 区分 一発処理
 県名 滋賀県 実施場所 東近江農業普及指導センター(東近江市栗見新田町)
 農家名 グリーンファーム湯ノ口 担当者名 大橋 哲哉
 土質土性 灰色低地土 品種 あきだわら 植代日 2022年5月18日
 減水深 0.5cm/日 作期 普通期 移植日 2022年5月19日
 標高 90m 栽培方法 稚苗機械移植 移植苗草丈・葉齢 12.5cm・2.4L

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
(34a)	処理 1回目	バットウZジャンボ 10個(400g/10a)	5月25日 (+6)	畦畔から投入 4cm	2.7L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
(34a)	処理 1回目	ガソントZジャンボ 10個(400g/10a)	5月24日 (+5)	畦畔から投入 4cm	2.6L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))						雑草調査日: 7月4日(+46)				薬害		評点	
	ノビ エ	ミスガ ヤツリ	コナ ギ	一年生広葉			ホタ ルイ	多年生雑草			総計 下段0は慣行区比	症状・程度		収量比 対慣行
確認圃	0	0	0.1				0				0.1 (20%)	無	100%	A
慣行	0	0	0.5				0				0.5 (100%)	無	100%	

無処理区での発生雑草(発生程度):

ホタルイ 5.5g、ノビエ 15.3g、コナギ 1.8g

備考(特記事項等):

- 散布準備時間:5分 散布時間:10分 散布人数:1人
- 慣行・確認圃でわずかにコナギの発生が見られたが、慣行と同等によく効いていた。

A:除草効果・薬害の面で普及上特に問題はない。B:普及にあたって更に検討する必要がある。-:その他(天候の急変、圃場管理の不備、誤処理等、特別な理由により判定できない場合)

No.25 (移植)

薬剤名 バットウZジャンボ 作物 移植水稻 区分 一発処理
 県名 滋賀県 実施場所 湖東農業普及課(彦根市本庄町)
 農家名 柴田 明宏 担当者名 鋒山 大輝
 土質土性 III B(中粒質乾田) 品種 にじのきらめき 植代日 2022年5月11日
 減水深 2cm/日 作期 普通期 移植日 2022年5月15日
 標高 栽培方法 稚苗機械移植 移植苗草丈・葉齢 12.5cm、2L

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	処理時の状況	
					作物生育程度	雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
(53.6 a)	処理 1回目	バットウZジャンボ 10個(400g)/10a	5月23日 (+8)	畦畔から投入 6cm	3.2L	ノビエ 0.5L、ホタルイ 0.5L
	処理 2回目					
(28.7 a)	処理 1回目	ジェイソウルジャンボ 10個(450g)/10a	5月23日 (+8)	畦畔から投入 6cm	3.2L	ノビエ 0.5L、ホタルイ 0.5L
	処理 2回目					

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))						雑草調査日: 7月6日 (+42)				薬害		評点	
	ノビ エ	カヤツリ グサ 類	タデ 類	一年生広葉			ホタ ルイ	多年生雑草			総計 下段0は慣行区比	症状・程度		収量比 対慣行
確認圃	0	0	0				0				0 (100%)	無	100%	A
慣行	0	0	0				0				0 (100%)	無	100%	

無処理区での発生雑草(発生程度):

ホタルイ(多)、アゼナ(多)、コナギ

処理時の状況及び所感(特記事項等含む):

- 処理時の状況等
- 散布準備時間:3分、散布時間:9分、散布人数:1人
- 散布時に、圃場上側から下側に向かって風が吹いていたが、薬剤の拡散に問題は見られなかった(風速約5m/s:気象庁データより)。
- 担当農家からの意見
- 「慣行と同等の除草効果があると感じた。」

A:除草効果・薬害の面で普及上特に問題はない。B:普及にあたって更に検討する必要がある。-:その他(天候の急変、圃場管理の不備、誤処理等、特別な理由により判定できない場合)

No.26 (移植)

薬剤名 バットウZ1キロ粒剤 作物 移植水稻 区分 一発処理
 県名 滋賀県 実施場所 高島農産普及課(高島市安曇川町横江字東海渡)
 農家名 梅村 廣毅 担当者名 三木 幸次
 土質土性 壤土 品種 コシヒカリ 植代日 2022年5月22日
 減水深 1cm/日 作期 早植栽培 移植日 2022年5月24日
 標高 85m 栽培方法 稚苗機械移植 移植苗草丈・葉齢 18.0cm・2.5L

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/(/10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況
						雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃 (30a)	処理 1回目	バットウZ1キロ粒剤 1kg/10a	5月24日 (±0)	田植同時 0cm→5cm	2.5L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行 (10a)	処理 1回目	カウンシルコンブリートジャンボ 小包装10個(300g)/10a	5月29日 (+5)	畦畔から投入 5cm	2.5L	未発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))							雑草調査日: 7月15日 (+52日)			薬害		評点
	ノビエ	カヤツクサ類	一年生広葉			ホタルイ	多年生雑草			総計 <small>下段0は慣行区比</small>	症状・程度	収量比 対慣行	
確認圃	0	0				0				0 (100%)	無	100%	A
慣行	0	0				0				0 -	無	100%	-

無処理区での発生雑草(発生程度):
 ヒエ、ホタルイ、イボクサ、オモダカ、セリ(いずれも「微」)
 備考(特記事項等):
 特になし

A:除草効果・薬害の面で普及上特に問題はない。B:普及にあたって更に検討する必要がある。-:その他(天候の急変、圃場管理の不備、誤処理等、特別な理由により判定できない場合)

No.27 (移植)

薬剤名 ワザアリ楽粒 作物 移植水稻 区分 一発処理
 県名 滋賀県 実施場所 大津・南部農産普及課(栗東市六地藏)
 農家名 (農)梅ノ木ファーム栗東 担当者名 山田 真寛
 土質土性 埴壤土(CL) 品種 あきだわら 植代日 2022年5月12日
 減水深 1cm/日 作期 普通期 移植日 2022年5月15日
 標高 111.4m 栽培方法 稚苗機械移植 移植苗草丈・葉齢 10~15 cm、2~3L

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/(/10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況
						雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃 (53.2 a)	処理 1回目	ワザアリ楽粒 250g	5月16日 (+1)	畦畔から投入 4~5 cm	(活着期)	1L~2Lのノビエが中~多発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					
慣行 (44a)	処理 1回目	アツバレZ1キロ粒剤 1kg	5月15日 (±0)	田植同時 1~2 cm	(活着期)	1L~2Lのノビエが中~多発生
	処理 2回目					
	処理 3回目					

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))							7月1日 (+46日)			薬害		評点
	ノビエ	カヤツクサ類	クサネム	ホタルイ	コナギ	イヌタデ	多年生雑草			総計 <small>下段0は慣行区比</small>	症状・程度	収量比 対慣行	
確認圃	618.4	0	0.2	0	0	0				618.6 (694%)	無	100%	-
慣行	87.2	0	0.4	0	0	1.6				89.2 (100%)	無	100%	

無処理区での発生雑草(発生程度): ホタルイ、クサネム、タマガヤツリ、アゼナ、コナギ(少発生)、ノビエ(多発生)

備考(特記事項等):

確認圃においてノビエを除くその他草種の発生については慣行と同程度であり、一定抑草効果は確認できた。ただ、ヒエについては本剤散布前には圃内で多発しており、本剤の有効性を正確に確認することはできなかった。このため、適正なほ場において再度検討する必要がある。

A:除草効果・薬害の面で普及上特に問題はない。B:普及にあたって更に検討する必要がある。-:その他(天候の急変、圃場管理の不備、誤処理等、特別な理由により判定できない場合)

No.28 (移植)

薬剤名 ワザアリ楽粒
 県名 滋賀県

作物 移植水稻 区分 一発処理
 実施場所 東近江農業普及指導センター(東近江市栗見新田町)
 農家名 グリーンファーム湯ノ口 担当者名 大橋 哲哉

土質土性 灰色低地土 品種 あきだわら 植代日 2022年5月18日
 減水深 0.5cm/日 作期 普通期 移植日 2022年5月19日
 標高 90m 栽培方法 稚苗機械移植 移植苗草丈・葉齢 12.5cm・2.4L

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況	
						雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)	
確認圃 (34a)	処理 1回目	ワザアリ楽粒 (250g/10a)	5月23日 (+4)	畦畔から手振り 4cm	2.5L	未発生	
	処理 2回目						
	処理 3回目						
慣行 (34a)	処理 1回目	ガツントZジャンボ 10個(400g/10a)	5月24日 (+5)	畦畔から投入 4cm	2.6L	未発生	
	処理 2回目						
	処理 3回目						

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))							雑草調査日: 7月4日(+46)				薬害		評点	
	ノビ エ	ミスガ ヤツリ	一年生広葉			ホタ ルイ	多年生雑草				総計 下段()は慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行		
確認圃	0	0	0				0.3					0.3 (60%)	無	100%	A
慣行	0	0	0.5				0					0.5 (100%)	無	100%	

無処理区での発生雑草(発生程度):
 ホタルイ 2.5g、ノビエ 45.5g、コナギ 0.7g

備考(特記事項等):
 ○散布準備時間:5分 散布時間:5分 散布人数:1人
 ○慣行・確認圃でわずかにコナギ・ホタルイの発生が見られたが、慣行と同等によく効いていた。

A:除草効果・薬害の面で普及上特に問題はない。B:普及にあたって更に検討する必要がある。一:その他(天候の急変、圃場管理の不備、誤処理等、特別な理由により判定できない場合)

No.29 (移植)

薬剤名 ウィードコア1キログラム剤
 県名 滋賀県

作物 水稻 区分 体系処理(中後期)
 実施場所 近江八幡市十王町
 農家名 (株)近江園田ふあーむ 担当者名 中橋 富久

土質土性 埴壤土 品種 きぬむすめ 植代日 2022年5月20日
 減水深 1.5cm/日 作期 早植栽培 移植日 2022年5月25日
 標高 栽培方法 稚苗機械移植 移植苗草丈・葉齢 15.5cm、3.0L

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況	
						雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)	
確認圃 (30a)	処理 1回目	カウンスルコンプリート フロアブル500ml/10a	6月2日 (+8)	手振り散布 水深5cm	3.0L	ホタルイ(1cm以下)・少発生	
	処理 2回目	ウィードコア1キログラム剤 1kg/10a	7月1日 (+37)	動力散布機 水深5cm	8.0L	ヒエ(11cm~28cm)ホタルイ(5cm~29cm)、コナギ(3cm)、クサネム(7cm~24cm)、クログワイ(14cm~21cm)、ヒレタゴボウ(3cm~18cm)	
	処理 3回目						
慣行 (20a)	処理 1回目	カウンスルコンプリート フロアブル500ml/10a	6月2日 (+8)	手振り散布 水深5cm	3.0L	ホタルイ(1cm以下)・少発生	
	処理 2回目	ワイドショット1キログラム剤 1kg/10a	7月1日 (+37)	動力散布機 水深5cm	8.0L	ヒエ(9cm~22cm)、ホタルイ(3cm~9cm)、コナギ(3cm)、クサネム(4cm~13cm)	
	処理 3回目						

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))							雑草調査日: 7月26日 (+62)				薬害		評点
	ノビ エ	ホタ ルイ	コナ ギ	クサ ネム	クロ グワ イ	ヒレ タゴ ボウ					総計 下段()は慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行	
確認圃	9.3	7.6	0	2.8	8.1	7.2					35.0 (80%)	無	100%	A
慣行	15.8	17.0	6.7	4.3	0	0					43.8 (100%)	無	100%	

無処理区での発生雑草(発生程度):
 ノビエ(多)、ホタルイ(多)、コナギ(少)、クサネム(少)、クログワイ(少)、ヒレタゴボウ(少)

処理時の状況及び所感(特記事項等含む):
 ○確認圃中期処理時の雑草発生状況は、草丈、葉齢にばらつきがあり、処理適期を過ぎた個体が見られた。
 ○確認圃中期処理時の草丈が5cm~10cm以下の雑草に効果が見られたが、草丈が伸長し、葉齢が進化した雑草(ヒエ)は下葉の枯れや新葉の萎縮が見られたが、枯死には至っていない。

A:除草効果・薬害の面で普及上特に問題はない。B:普及にあたって更に検討する必要がある。一:その他(天候の急変、圃場管理の不備、誤処理等、特別な理由により判定できない場合)

No.30 (移植) 薬剤名 バイスコープ1キロ粒剤 作物 水稻 区分 体系処理(中後期)
 県名 滋賀県 実施場所 近江八幡市十王町
 農家名 (株)近江園田ふあーむ 担当者名 中橋 富久
 土質土性 埴壤土 品種 きぬむすめ 植代日 2022年5月20日
 減水深 1.5cm/日 作期 早植栽培 移植日 2022年5月25日
 標高 栽培方法 稚苗機械移植 移植苗草丈・葉齢 15.5cm、3.0L

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況
						雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
(20a)	処理 1回目	カウンスルコンプリート フロアブル500ml/10a	6月2日 (+8)	手振り散布 水深5cm	3.0L	ホタルイ(1cm以下)・少発生
	処理 2回目	バイスコープ1キロ粒剤 1kg/10a	6月30日 (+36)	動力散布機 水深5cm	8.0L	ホタルイ(5cm~22cm)、コナギ(3cm)、クサネム (4cm~19cm)、クログワイ(8cm~13cm)
	処理 3回目					
(20a)	処理 1回目	カウンスルコンプリート フロアブル500ml/10a	6月2日 (+8)	手振り散布 水深5cm	3.0L	ホタルイ(1cm以下)・少発生
	処理 2回目	ワイドショット1キロ粒剤 1kg/10a	7月1日 (+37)	動力散布機 水深5cm	8.0L	ホタルイ(3cm~9cm)、コナギ(3cm)、クサネム (4cm~13cm)
	処理 3回目					

圃場	除草効果(残草量: 生体重 (g/m ²))				雑草調査日: 7月26日(+62)				薬害		評点	
	ホタルイ	コナギ	クサネム	クログワイ	総計 下段0は慣行区比				症状・程度	収量比 対慣行		
確認圃	9.4	0.7	2.8	10.4					23.3 (83%)	無	100%	A
慣行	17.0	6.7	4.3	0					28.0 (100%)	無	100%	
備考	無処理区での発生雑草(発生程度): ノビエ(多)、ホタルイ(多)、コナギ(少)、クサネム(少)、クログワイ(少) 処理時の状況及び所感(特記事項等含む): ○確認圃中期処理時の雑草発生状況は、草丈・葉齢にばらつきがあり、処理適期を過ぎた個体が見られた。 ○確認圃中期処理時の草丈が15cm以下の雑草に対して効果が見られた。 15~20cmを超える雑草は白化症状が見られたが、雑草調査時に枯死には至っていなかった。											

A:除草効果・薬害の面で普及上特に問題はない。B:普及にあたって更に検討する必要がある。-:その他(天候の急変、圃場管理の不備、誤処理等、特別な理由により判定できない場合)

No.33(R3) (直播) 薬剤名 ロイヤント乳剤 作物 直播水稻 区分 体系処理(中後期)
 県名 滋賀県 実施場所 湖東農産普及課(彦根市日夏町)
 農家名 有限会社 ホープ彦根 担当者名 鋒山 大輝
 土質土性 III B(中粒乾田) 品種 日本晴 植代日 2022年6月2日 播種日 2022年6月3日
 減水深 1cm/日 栽培方法 湛水直播栽培 水管理 播種後に水深5cm程度まで入水し、その後自然落水した。
 標高 85m 播種方法 表面播種(鉄コーティング) 2022年6月20日に再入水した。

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)/(10a)	処理日 播種後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況
						雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
(25a)	処理 1回目	カチボンシジャンボ 300g(10バケツ)/10a	6月20日 (+17)	畦畔から投入 5cm	未確認	未確認(ノビエが3葉期を過ぎていたおそれ)
	処理 2回目	ロイヤント乳剤 200mL/10a	7月13日 (+40)	ピークル 落水処理	50cm	クサネム50cm、アマガサケンダクサ40cm、ノビエ40cm
	処理 3回目					
(11a)	処理 1回目	カチボンシジャンボ 300g(10バケツ)/10a	6月20日 (+17)	畦畔から投入 5cm	未確認	未確認(ノビエが3葉期を過ぎていたおそれ)
	処理 2回目	パニー液剤 100mL/10a	7月13日 (+40)	ピークル 落水処理	50cm	クサネム50cm、アマガサケンダクサ40cm、ノビエ40cm
	処理 3回目					

圃場	除草効果(残草量: 生体重 (g/m ²))				雑草調査日: 8月3日(+61)				薬害		評点		
	ノビエ	カヤツグサ類	クサネム	アマガサケンダクサ	多年生雑草				症状・程度	収量比 対慣行			
確認圃	43.6	0	0	0	ホタルイ					43.6 (92%)	なし	100%	A
慣行	47.5	0	0	0	0					47.5 (100%)	なし	100%	
備考	無処理区での発生雑草(発生程度): クサネム50cm(多)、アマガサケンダクサ40cm(多)、ノビエ50cm(多) 備考(特記事項等): ○処理時の状況等 散布準備時間:3分、散布時間:7分、散布人数:1人 ○特記事項 ・急遽担当農家の変更となったため、初中期一発剤処理時(6月20日)の雑草状況が未確認となった。 なお、ロイヤント乳剤処理時(7月13日)の雑草状況から、初中期一発剤処理時点で既にノビエが適用葉齢を越えていたと考えられる。 ・ロイヤント乳剤とパニー液剤で、生育の進んだ広葉雑草やクサネムに対する除草効果が確認された(処理後1週間後には草丈40cmのクサネムや草丈30cmのアマガサケンダクサが枯死)。 ・ロイヤント乳剤とパニー液剤で、ノビエに対する除草効果が確認された(処理1週間後には後発のノビエ(2.5葉期程度)が枯死)。 しかし、処理時点で既に適用葉齢を過ぎていたノビエについては、赤く変色するも枯死には至らず、最後まで残った(生産者は事前に承知済み)。 ・ロイヤント乳剤による薬害は確認されなかった。 ○担当農家からの意見 「広葉雑草やクサネムへの高い効果を実感でき、良い薬剤だと思う。」												

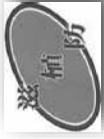
A:除草効果・薬害の面で普及上特に問題はない。B:普及にあたって更に検討する必要がある。-:その他(天候の急変、圃場管理の不備、誤処理等、特別な理由により判定できない場合)

令和4年度 新農薬委託試験一覧表

委託先	件数	受託先
農業技術振興センター	29	日植防及び日植調

No.	区分	薬剤名	対象作物	対象病害虫・雑草	委託先
1	除草剤	HOK-1802-250g 拡散粒	水稲	一年生雑草、多年生雑草	栽培研究部
2		HOK-2001-250g 拡散粒	〃	〃	
3		KYH-2003 ジャンボ	〃	〃	
4		KYH-2004-1kg粒	〃	〃	
5		KYH-2102-1kg粒	〃	〃	
6		KYH-1803 ジャンボ	〃	〃	
7	殺菌剤	MIF-2204 フロアブル	水稲	紋枯病 1000倍	環境研究部
8		MIF-2104 フロアブル	〃	紋枯病 1000倍	
9		カナメフロアブル	小麦	赤かび病 4000倍	
10	殺虫剤	NC-523粒剤	水稲	ウンカ類 育苗箱 移植当日処理 50g/箱	
11		NC-524粒剤	〃	ウンカ類 育苗箱 移植当日処理 50g/箱	
12		NC-521粒剤	〃	ツマグロヨコバイ 覆土混和处理 50g/箱	
13		KUM-2202箱粒剤	〃	ヒメビウンカ 50g/箱 移植当日処理	
14		KUM-2202箱粒剤	〃	ツマグロヨコバイ 50g/箱 移植当日処理	
15		アミスタートレボンSE	だいず	ハスモンヨトウ 1000倍	
16		ネマトリンエース粒剤	にんじん	薬害試験	
17		BAI-1930SC	きく	アブラムシ類 茎葉散布 2000倍	
18		ガダンパワーガード液剤	〃	アブラムシ類 原液	
19	殺菌剤	FMB-2105L	いちご	うどんこ病 ①1000倍 ②500倍	花・果樹研究部
20		住友A剤(仮称) 未了	〃	うどんこ病 1000倍	
21		住友S剤(仮称) 未了	〃	うどんこ病 1000倍	
22		ファンタジスタ顆粒水和剤	ぶどう	うどんこ病 3000倍	
23		フルーツガードWDG	〃	うどんこ病 800倍	
24		ベランティフロアブル	〃	うどんこ病 8000倍	
25		SYJ-301SC	かき	炭疽病 3000倍	
26		カッシーニフロアブル	〃	うどんこ病 ①2500倍 ②2000倍	
27	殺菌剤	NNI-2101 SC100	茶	薬臭試験 2000倍	茶業指導所
28	殺虫剤	ペタリッチ	茶	チャミドリヒメヨコバイ	
29		BCI-222フロアブル 未了	〃	ハダニ類(カンザワハダニ) 2000倍	

滋賀県植物防疫協会の歩み



シンボルマーク
びわ湖の豊かな水を赤い楕円形に象徴し、
青いびわ湖の中で青つなぎ植物を楕円に
表現し、水と調和のある発展を期待している。

年号	西暦	主 な 事 項	国・県・その他のできごと
昭和 29	1954	滋賀県植物防疫研究会発足 (事務局：滋賀県農業試験場内) 植物防疫指針の発行	昭和29年 農薬取締法制定 農薬による病害虫防除開始 昭和25年 植物防疫法が制定 水田で除草剤の使用開始
30	1955		農業共済事業開始
34	1959	滋賀県植物防疫協会設立 (事務局：滋賀県農産普及課内) 植物防疫事業の推進 各地域病害虫防除協議会の育成 農薬委託試験及び展示は調査 通常会員：個人 特別会員：中央会、農業共済連、農業会議、各地域防除協議会 賛助会員：経済農協連、高岡屋、農薬メーカー4社	有人ヘリコプターによる農薬散布開始 (栗東町) 散布面積215ha 伊勢湾台風
35	1960		水稲「コンヒカリ」奨励品種に採用
36	1961		農業基本法制定 P C P 魚毒問題 第二室戸台風
37	1962		農業構造改善事業始まる
38	1963		縦型通風乾燥機市販
39	1964	滋賀県病害虫共同防除事業協会発足 (事務局：滋賀県農業共済連内) 目的：航空防除、高性能防除機を利用した病害虫防除事業の推進 地上・航空防除実施体制整備、推進 技術研修の実施 航空防除事故損害積立金の運営 正会員：農業共済連、経済農協連、各地域防除協議会 特別会員：中央会、森林組合連合会 賛助会員：県農業協同組合	全国共通料金化
42	1967	農薬環境汚染に配慮した農薬安全使用を指導	カントリーエレベーター第一号彦根市
43	1968		豊作「119」
44	1969	有人ヘリコプターによる農薬散布面積が最高となる 90.350ha (44市町) 水稲全作付け79%	水銀製剤中止
45	1970		米生産調整開始
46	1971	防除面積40,270ha激減	農薬安全使用基準を公表 パラチオン、BHC、DDT製造中止
47	1972		農薬残留調査開始 農業管理センター設置
48	1973		秋ウシカ多発
49	1974		滋賀農試大中移転
50	1975		菅農大設立
51	1976	液剤による航空防除が開始	いもち病多発
52	1977		
53	1978		
54	1979		
57	1982	有人ヘリ人身事故	滋賀県琵琶湖富栄養化防止条例が施工
58	1983		一発処理除草剤登場



年号	西暦	主 な 事 項	県・国・その他のできごと
昭和 62	1987	<p>社団法人滋賀県植物防疫協会発足（事務局：滋賀県農業共済連内）</p> <p>目的：植物防疫に関する事業の推進</p> <p>植物防疫に関する調査、研究 研修会等の開催 農薬の安全使用に関する知識の普及啓発</p> <p>共同防除事業の推進 農薬および防除機具の試験展示 機関紙、植物防疫に関する印刷物の発行</p> <p>正会員：農業共済連、中央会、経済農協連、農業会議、肥料商業組合、各農業管理センター</p> <p>賛助会員：農薬会社、防除機具社、航空会社等</p> <p>理事13名、監事2名、参与2名</p> <p>予算：7,156千円</p>	トビイロウンカ、イネミズゾウムシ大発生
平成元年	1989	無人ヘリコプターによる農薬散布試験の実施 散布面積：4.7ha（彦根市、水口町）	「虫砦」碑建立
5	1993		低温長雨で著しい不作 水稻作柄指数全国74滋賀県89
6	1994		渇水 びわこに水位マイナス123cm
7	1995	無人ヘリコプターによる農薬散布の開始 散布面積：137.9ha（彦根市、甲賀町、能登川町、愛東町）	阪神淡路大震災
8	1996		滋賀県環境基本条例施行
9	1997	無人ヘリコプターによる植防委託防除開始（水稻606ha、大豆34ha）	
10	1998	滋賀県産業用無人ヘリコプター防除安全推進協議会発足	
11	1999	有人ヘリコプターによる農薬散布が廃止（木之本余呉町245ha）	
18	2006	滋賀県産業用無人ヘリコプター飛行技術競技会が始まる	
20	2008		環境こだわり農産物認証制度創設
			ポジェイブリスト制度施行
			おいしいが、うれしがキャンペーン
24	2012	一般社団法人滋賀県植物防疫協会発足	水稲「みずかがみ」育成
		目的：国民生活に不可欠な食料を安定的に生産するための病害虫 及び雑草の防除が滋賀県において、安全かつ適正に実施されるよう植物防疫に関する事業を 推進し、安全安心な農作物と環境に配慮した持続的な農業の発展をはかる。	
		植物防疫に関する諸調査 農薬の安全使用に関する知識の普及啓発と講習会の開催	
		共同防除事業の推進 農薬および防除技術を実証する委託試験、展示ほの受託事業	
		機関紙、植物防疫に関する印刷物の発行 ホームページ開設	
		正会員：農業共済連、中央会、全農滋賀県本部、農業会議、肥料商業組合、各地域農業センター	
		賛助会員：農薬会社、防除業者、農機具会社	
		理事13名、監事2名	
		基金の利息による安全啓発事業を実施	
		予算：91,715千円 公益目的支出計画（基金から毎年330万円以上を共同防除会計で履行）	
27	2015	航空法の改正 無人ヘリコプター、マルチローター（ドローン）を「無人航空機」と定義し、国土交通省へ飛行の許可承認が義務付けされる	図。貸与防除機の点検整備（農業共済支所にて）
28	2016		熊本震災
29	2017	植物防疫研修会でドローンの実演を行う	
30	2018	貸付防除機点検整備事業終了（14,579台）ドローンによる農薬散布開始（県内7実施主体 617ha計画）	収入保険の加入申請が始まる 台風21号24号25号
令和元年	2019	無人航空機農薬散布の国安全ガイドラインが改定。	天皇位継承により5月1日から令和に変更。
2	2020	植防協会事業推進のあり方検討会による検討が始まる。無人ヘリ委託防除に加えドローン委託防除を開始。	比'19が21年ぶり飛来。坪枯れ被害確認。
3	2021	協会ドローン委託防除、近江八幡市17ha実施。ドローンの農薬散布情報受付開始。	県ガイドライン11月制定。
4	2022	無人ヘリ・ドローン委託防除面積5651.8ha（-310.6ha）	2年連続新型コロナウイルス感染症により全国無人ヘリ飛行競技大会中止。
		ドローンと無人ヘリ委託防除面積は5524.7ha（-126.3ha） 麦追加防除。	滋賀の農業みらい条例施行。無人航空機の登録制度と資格制度開始
			表赤カビ病の防除情報発表。
			水稲「きらみずき」育成
5	2023	今後の協会運営のあり方について引き続き検討を開始。	

- 「植物防疫」第68号第2号をお届けします。本誌では令和4年度の協会の事業実績をまとめています。病虫害防除実績の取りまとめについては、各地域農業センターに依頼いたしました。関係各位のご協力に深く感謝を申し上げます。

- 令和4年産の水稻作柄は、8月中下旬の日照不足で経過したものの、9月以降の気温が平年を上回ったことから、湖南・湖北とも「平年並み」となりました。
なお、台風の影響により県内全域で倒伏の被害が発生しました。また、7月上旬は曇りや雨が多かったことからいもち病の発生ほ場率が過去10年間で最も高く感染が拡大しましたが、その後天候が回復したことから被害は一部にとどまりました。
なお、昨年引き続き警戒されていたトビイロウンカの多数の飛来はなく、ほ場内の増殖も起こらなかった。

- 令和4年度の無人ヘリコプターの事故は3件発生しました。架線等への接触によるもので原因は、目測誤りおよび事前確認不足によるものでした。
ドローンでは2件の事故報告があり、いずれも軽微な損害でした。
次年度も事前確認の徹底と無人ヘリ実施団体独自の安全飛行研修会の開催を呼びかけ、事故「ゼロ」へ向けての取組みに努めていきたいと考えています。

- 令和4年度の「ドローンによる植防協会委託防除」の受託面積は、265.8haとなり、昨年を大きく上回りました。各地域ではドローンによる防除が増加し、無人ヘリを利用した防除面積は減少しているものの、水稻・麦・大豆で18,113haの面積が散布されています。まだまだ無人ヘリ防除による共同防除が大きな役割を果たしています。

- 最終の機関紙となりました。長年ありがとうございました。

滋賀植物防疫 第68巻 第2号 (令和5年3月発行)

発行所 一般社団法人 滋賀県植物防疫協会

〒520-0051 大津市梅林一丁目14番17号

TEL 077-521-8964 FAX 077-521-8977

E-mail shiga-syokubo@cap.ocn.ne.jp

ホームページ www.shiga-syokubo.or.jp/index.php

印刷所 (株) スペース工房

〒520-3017 栗東市六地藏460-25

TEL 077-554-0813 FAX 077-554-0811



